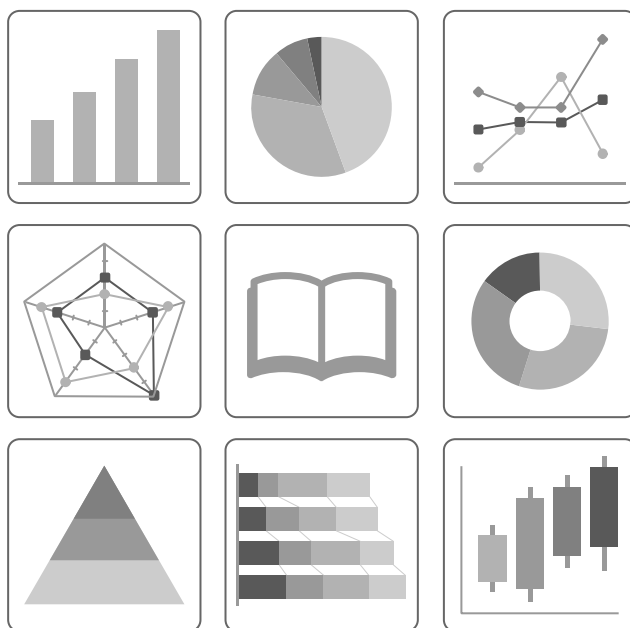


岩倉市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
調査結果報告書



令和8年3月

岩 倉 市



# 目 次

<b>I</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査の目的 .....	1
2	調査対象 .....	1
3	調査期間 .....	1
4	調査方法 .....	1
5	回収状況 .....	1
6	調査結果の表示方法 .....	1
<b>II</b>	<b>調査結果</b> .....	<b>2</b>
1	回答者属性 .....	2
2	男女の平等感について .....	4
3	家庭生活について .....	21
4	女性の活躍について .....	45
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について .....	48
6	子育てについて .....	57
7	地域社会について .....	58
8	DV（ドメスティック・バイオレンス）について .....	63
9	性的少数者について .....	68
10	用語の認知度について .....	74
11	今後の市の施策について .....	83
12	自由意見 .....	85



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

「岩倉市男女共同参画基本計画 2021-2030」の改訂の基礎資料として、調査を実施するものです。

## 2 調査対象

岩倉市在住の18歳以上の方、2,000人を無作為抽出

## 3 調査期間

令和7年9月8日から令和7年9月30日

## 4 調査方法

郵送で配布し、郵送またはWEBフォームにて回収

## 5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	596通	29.8%

## 6 調査結果の表示方法

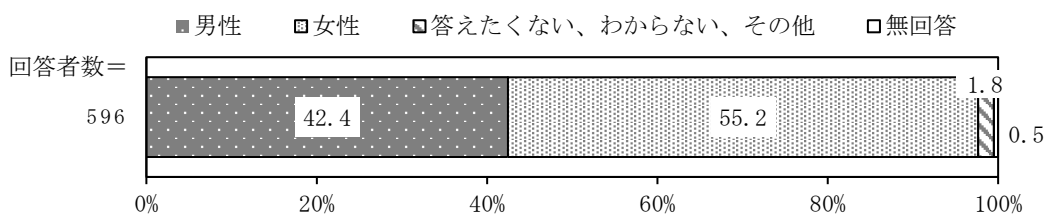
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・本文中の「愛知県調査」は、令和6年度実施の「男女共同参画意識に関する調査」、「全国調査」は令和6年度実施の内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」を引用しています。

## II 調査結果

### 1 回答者属性

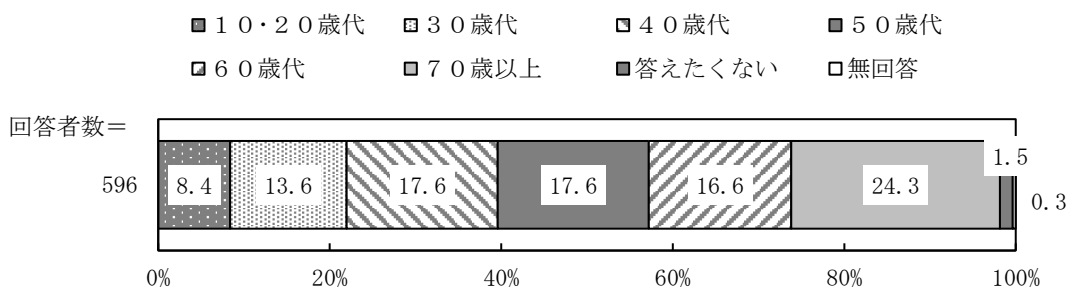
#### A 性別

「男性」の割合が42.4%、「女性」の割合が55.2%となっています。



#### B 年齢

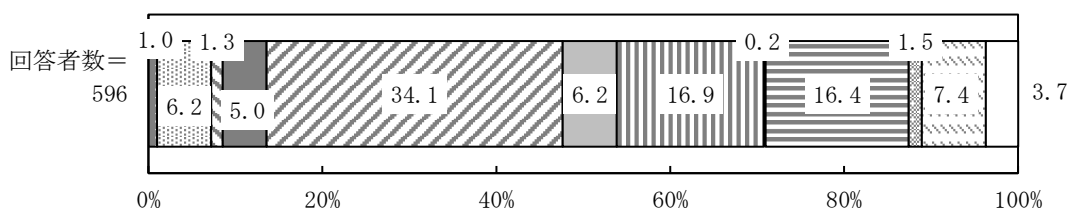
「70歳以上」の割合が24.3%と最も高く、次いで「40歳代」「50歳代」の割合が17.6%、「60歳代」の割合が16.6%となっています。



#### C 職業

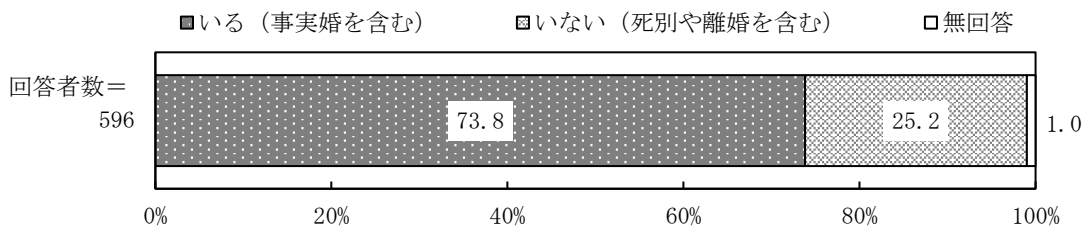
「正社員・正職員」の割合が34.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が16.9%、「専業主婦・専業主夫」の割合が16.4%となっています。

- 農林漁業
- ▨ 商・工・サービスの自営業主
- ▩ 自由業（作家、芸術家など）
- 「農林漁業」「商・工・サービスの自営業主」「自由業（作家、芸術家など）」の家族従業者
- 正社員・正職員
- ▨ 派遣・契約社員
- ▩ パート・アルバイト
- その他（会社・組織へ勤務の方など）
- ▨ 専業主婦・専業主夫
- ▩ 学生
- ▨ その他（年金生活者、失業中の方など）
- 無回答



## D あなたに配偶者（パートナー）はいますか。

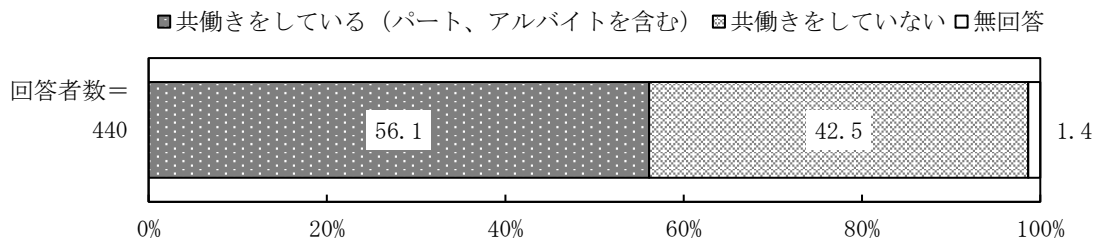
「いる（事実婚を含む）」の割合が73.8%、「いない（死別や離婚を含む）」の割合が25.2%となっています。



Dの質問で「いる（事実婚を含む）」と答えた方にお聞きます。

## E あなたと配偶者（パートナー）は、共働きをしていますか。

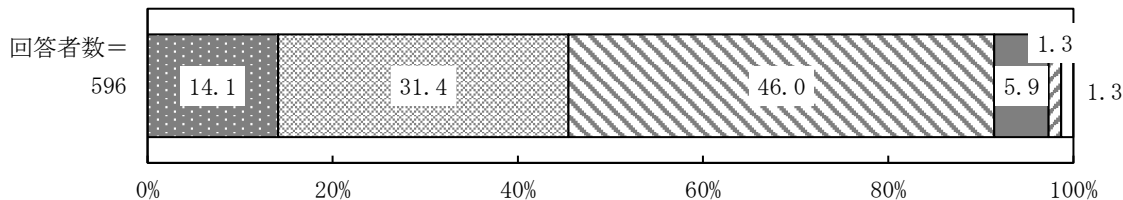
「共働きをしている（パート、アルバイト含む）」の割合が56.1%、「共働きをしていない」の割合が42.5%となっています。



## E あなたのご家庭の世帯構成は、次のどれにあたりますか。

「親と子ども（二世世代家族）」の割合が46.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ（一世世代家族）」の割合が31.4%、「一人暮らし」の割合が14.1%となっています。

- 一人暮らし（単身世帯）
- 夫婦のみ（一世世代家族）
- 親と子ども（二世世代家族）
- 親と子どもと孫（三世世代家族）
- その他
- 無回答



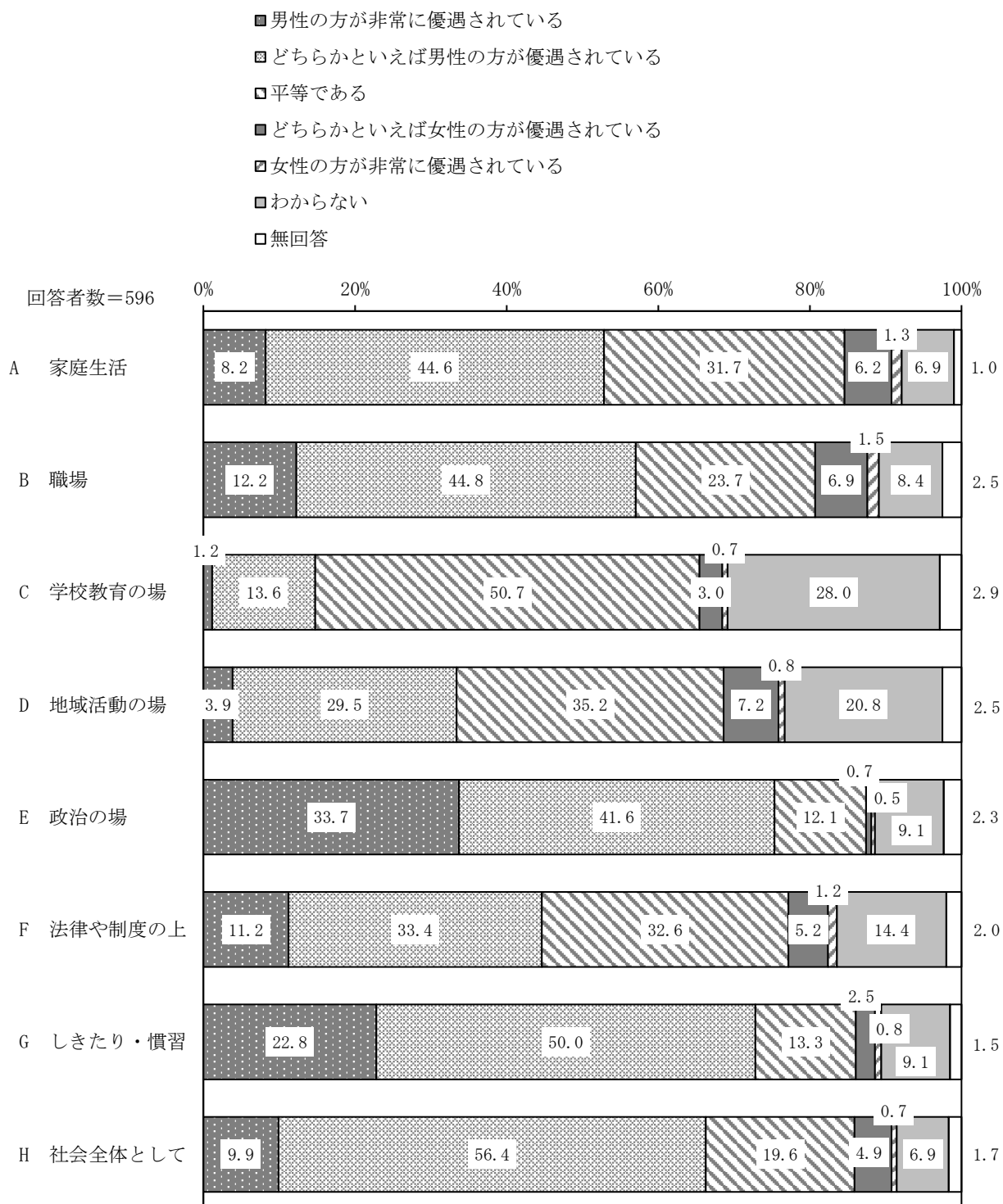
## 2 男女の平等感について

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(AからHについてそれぞれ○を1つ)

『E 政治の場』『G しきたり・慣習』『H 社会全体として』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が高く、約7割となっています。

また、『C 学校教育の場』で「平等である」の割合が高く、約5割となっています。



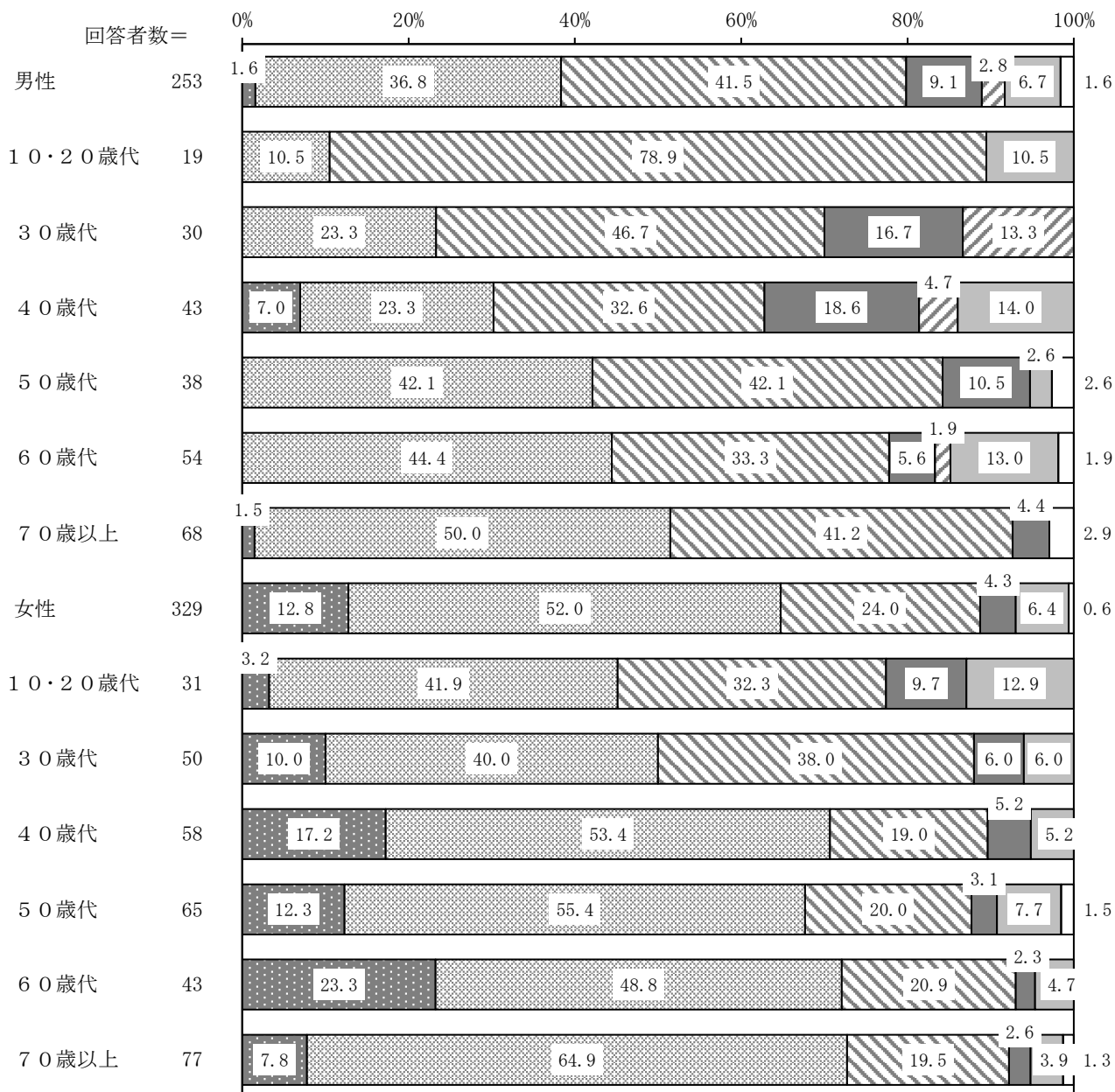
## A 家庭生活

### 【性・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代以上で“男性優遇”の割合が高く、約7割となっています。一方、男性の30歳代、40歳代で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性優遇”の割合が高く、2割を超えています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答



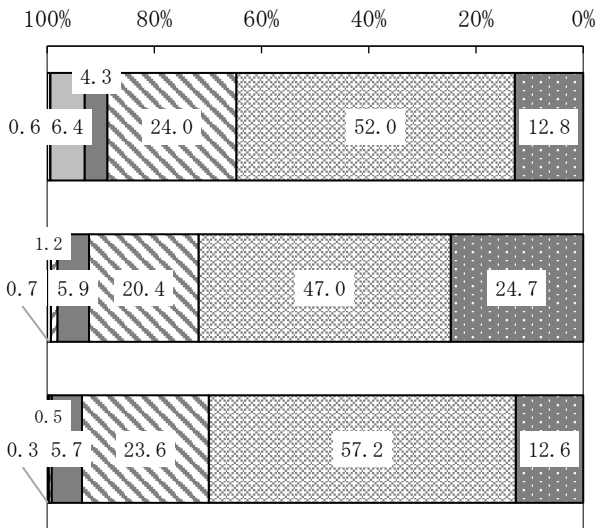
**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、男女ともに「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。

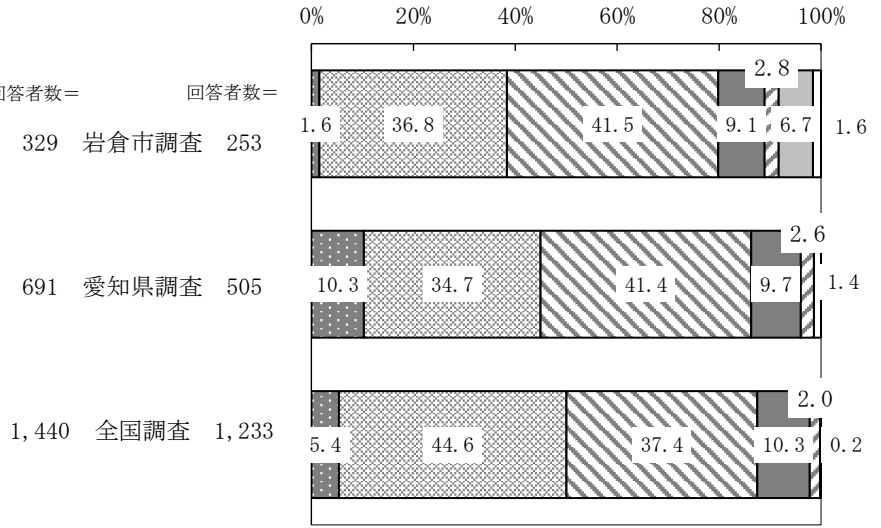
全国調査と比較すると、国に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

**【女性】**



**【男性】**



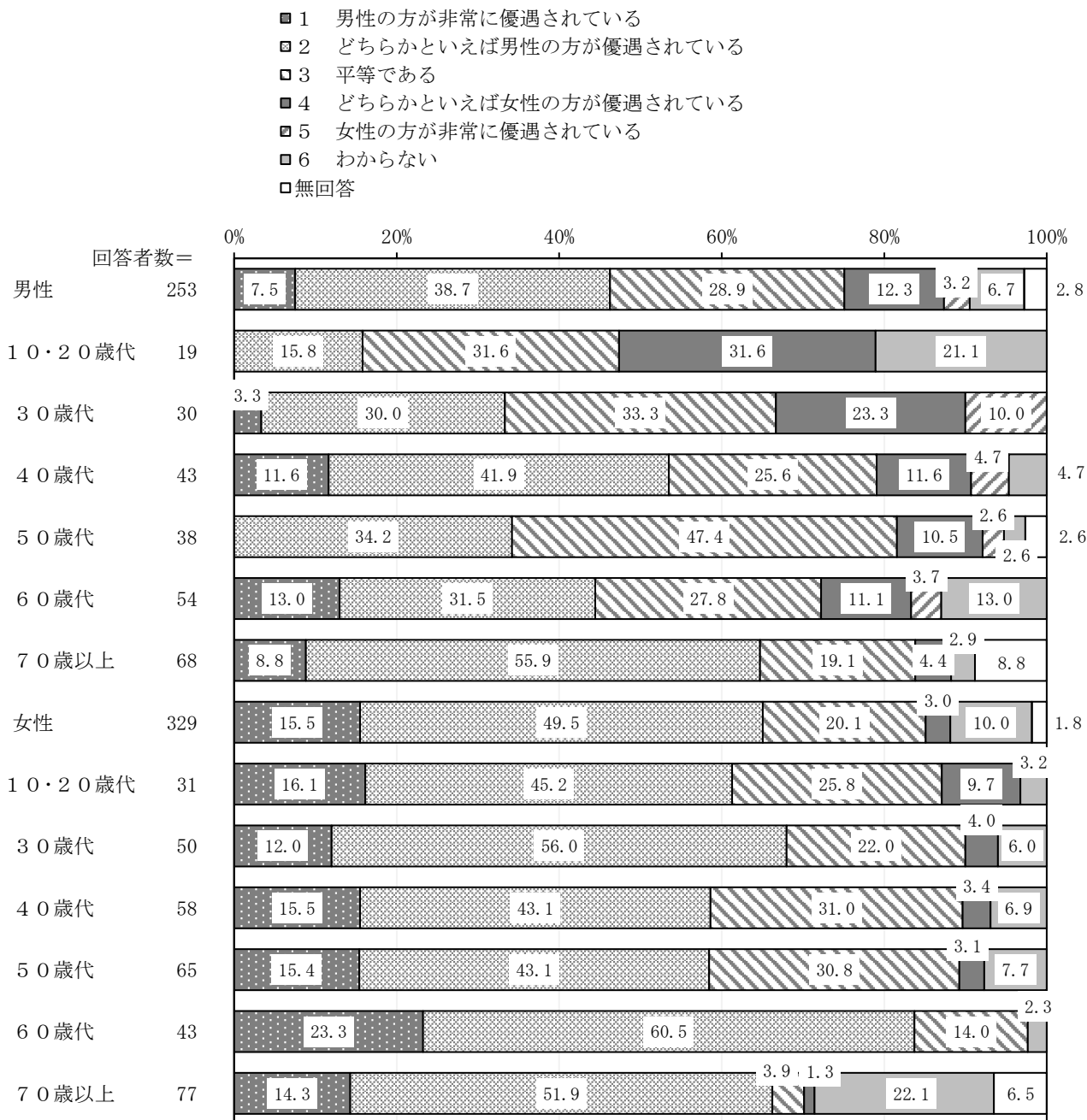
※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

## B 職場

### 【性・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の60歳代で“男性優遇”の割合が高く、約8割となっています。



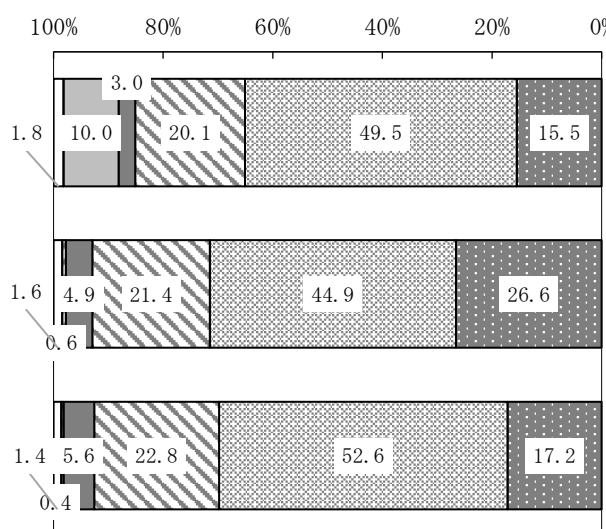
### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、男女ともに「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。

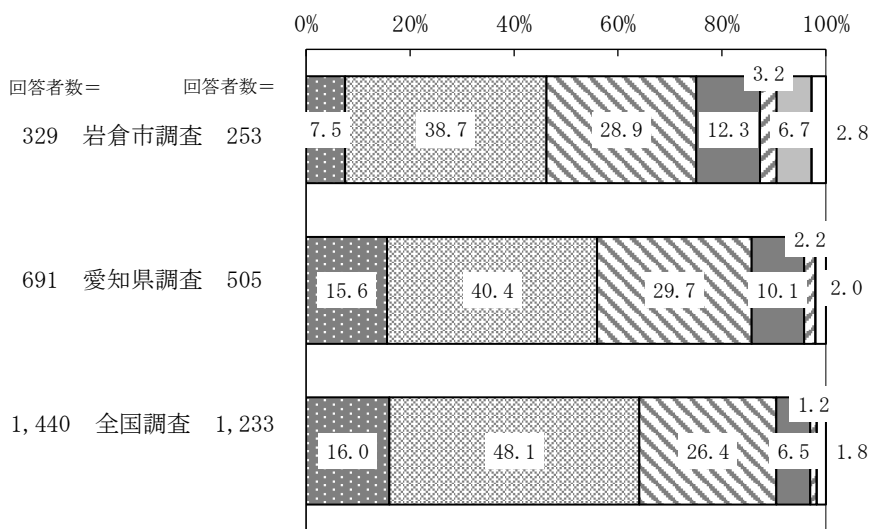
全国調査と比較すると、国に比べ、男性で“女性優遇”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

#### 【女性】



#### 【男性】



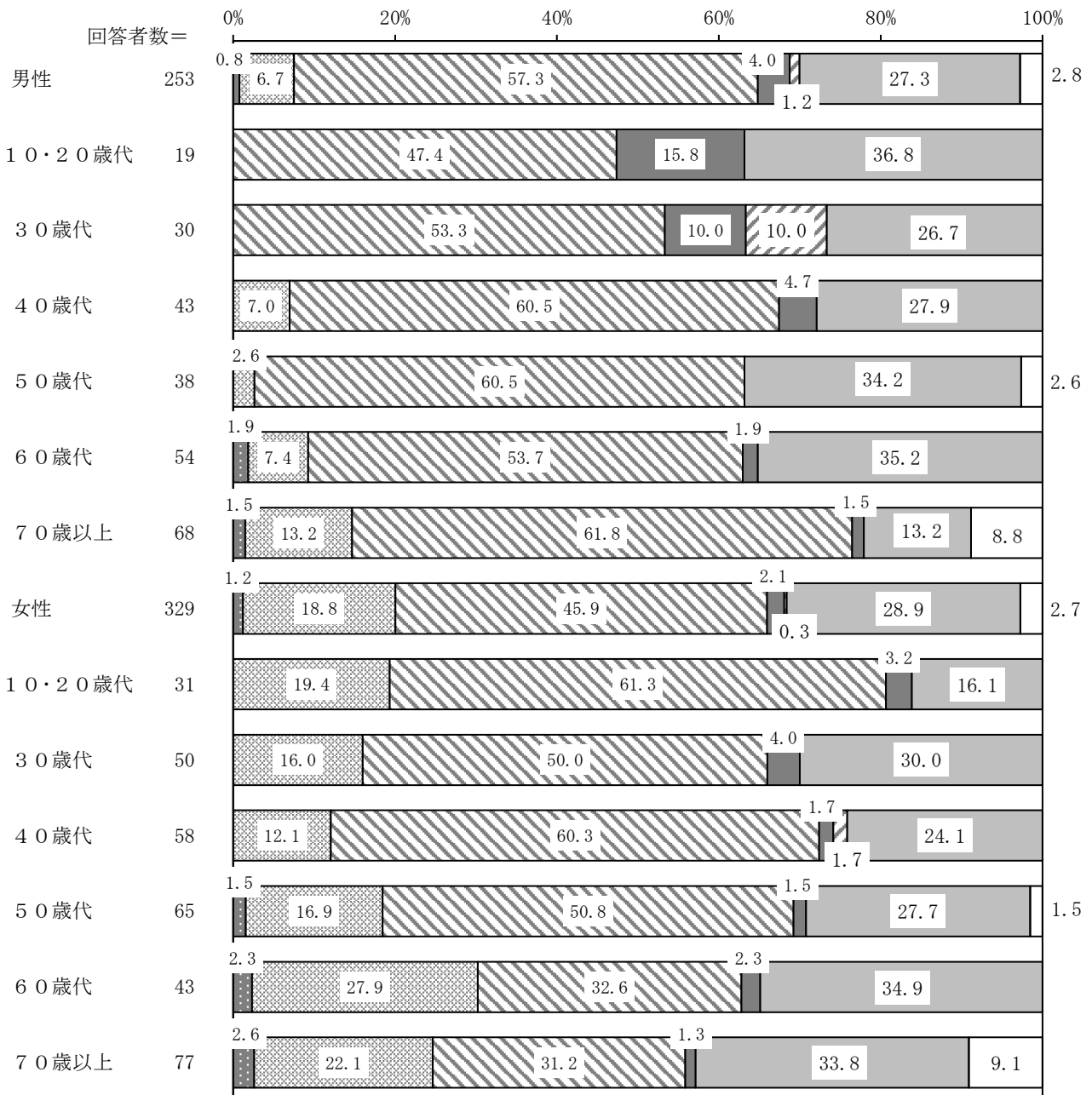
※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

### C 学校教育の場

#### 【性・年齢別】

男性の40歳代、50歳代、70歳以上と女性の10・20歳代、40歳代で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答

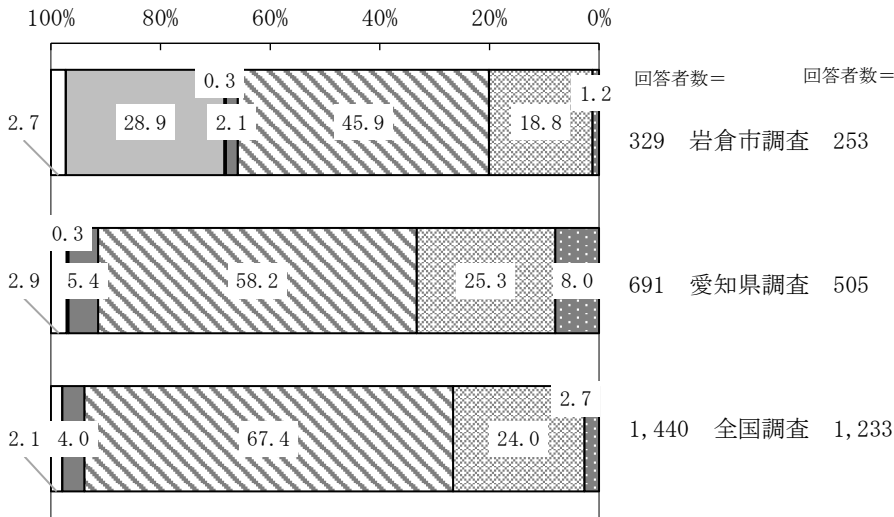


**【愛知県調査・全国調査との比較】**

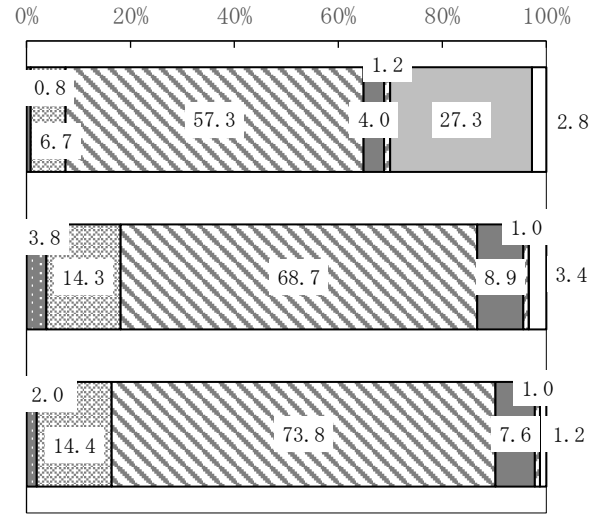
愛知県調査・全国調査と比較すると、愛知県や国に比べ、“男性優遇”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

**【女性】**



**【男性】**



※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

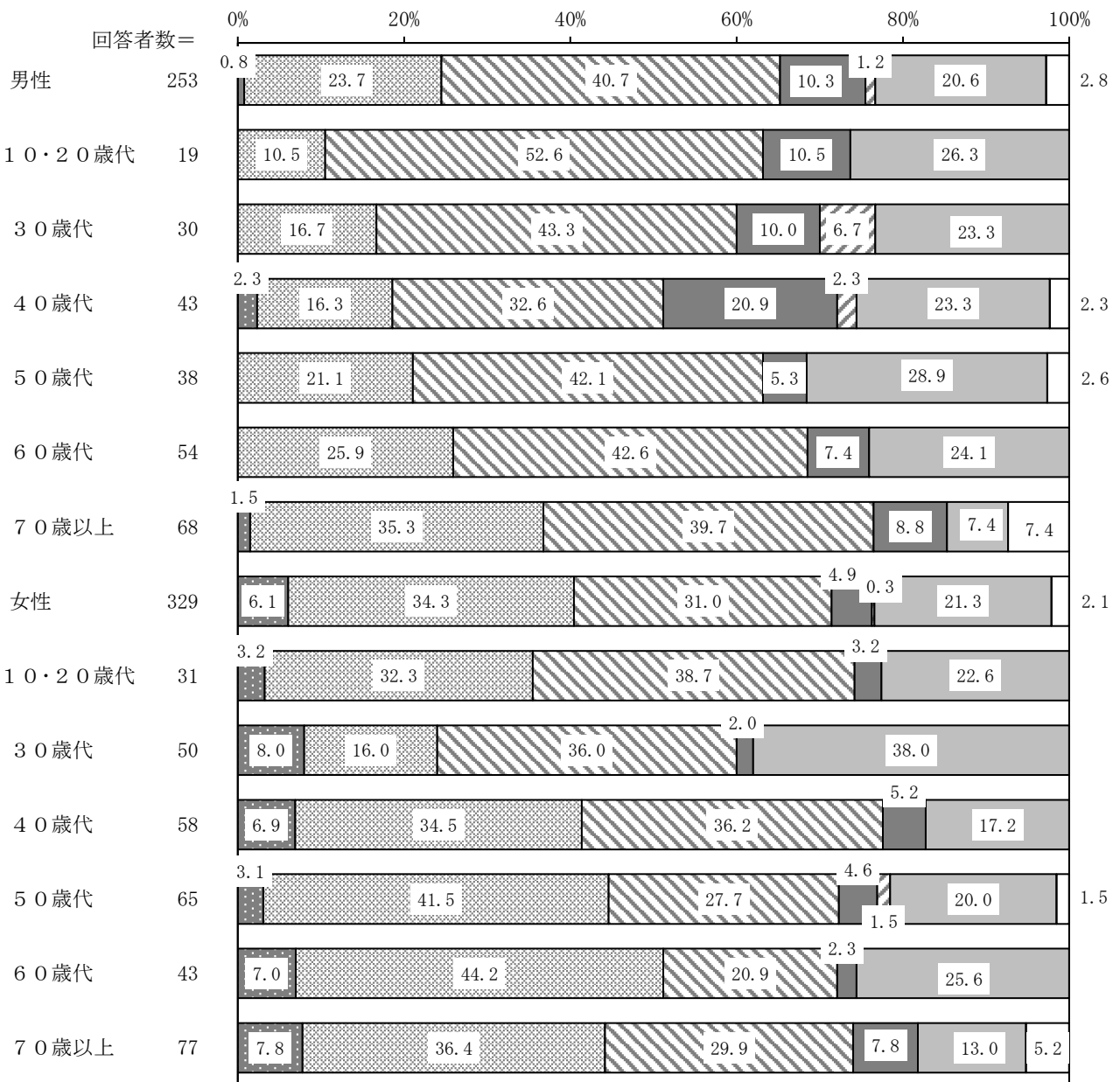
## D 地域活動の場

### 【性・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高い傾向があります。

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の60歳代で“男性優遇”の割合が最も高く、約5割となっています。また、男性の10・20歳代で「平等である」の割合が最も高く、5割を超えています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答

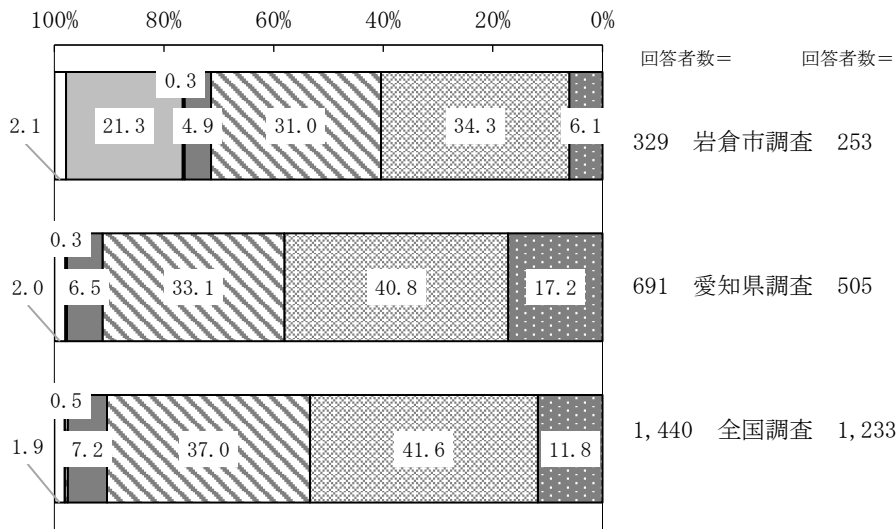


## 【愛知県調査・全国調査との比較】

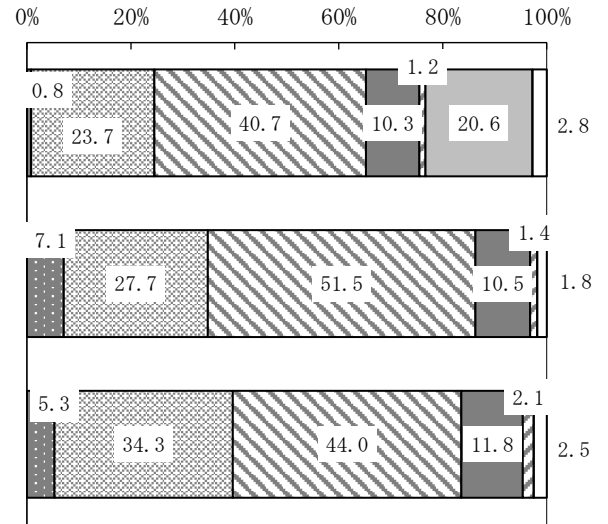
愛知県調査・全国調査と比較すると、愛知県や国に比べ、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

### 【女性】



### 【男性】



※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

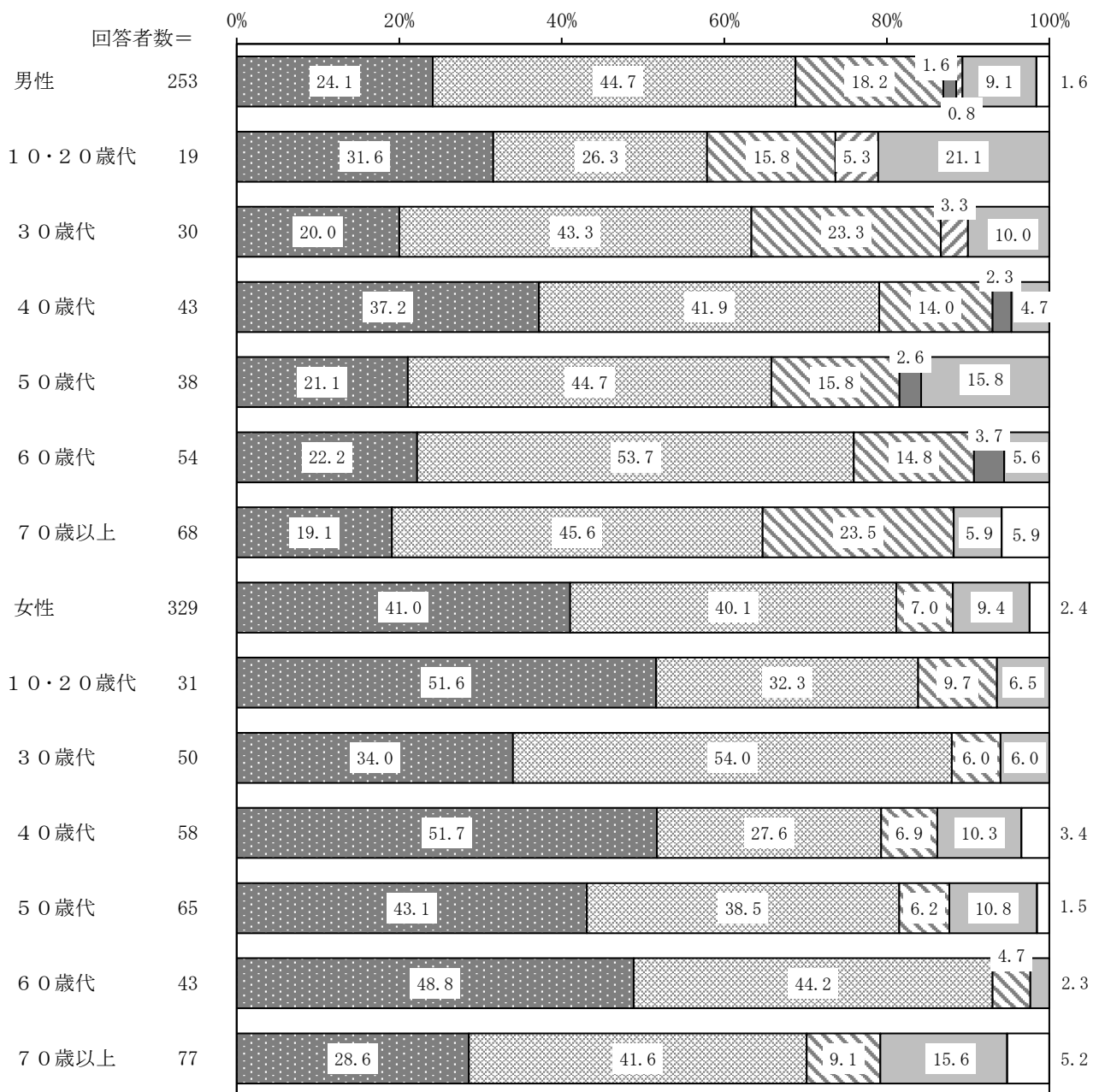
## E 政治の場

### 【性・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の60歳代で“男性優遇”の割合が高く、約9割となっています。また、男性の30歳代、70歳以上で「平等である」の割合が高く、2割を超えています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答

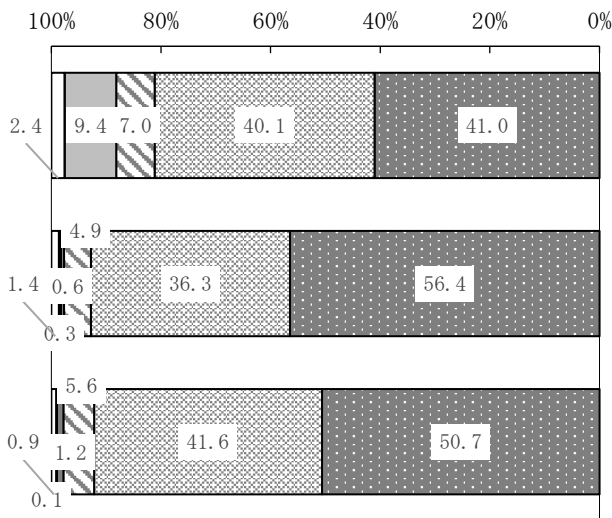


**【愛知県調査・全国調査との比較】**

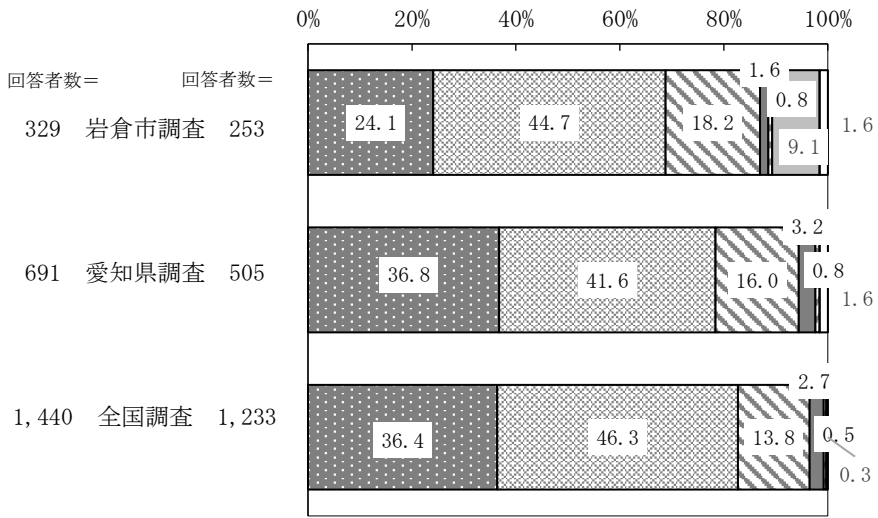
愛知県調査・全国調査と比較すると、愛知県や国に比べ、“男性優遇”の割合が低くなっています。また、愛知県や国に比べ、「平等である」の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

**【女性】**



**【男性】**



※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

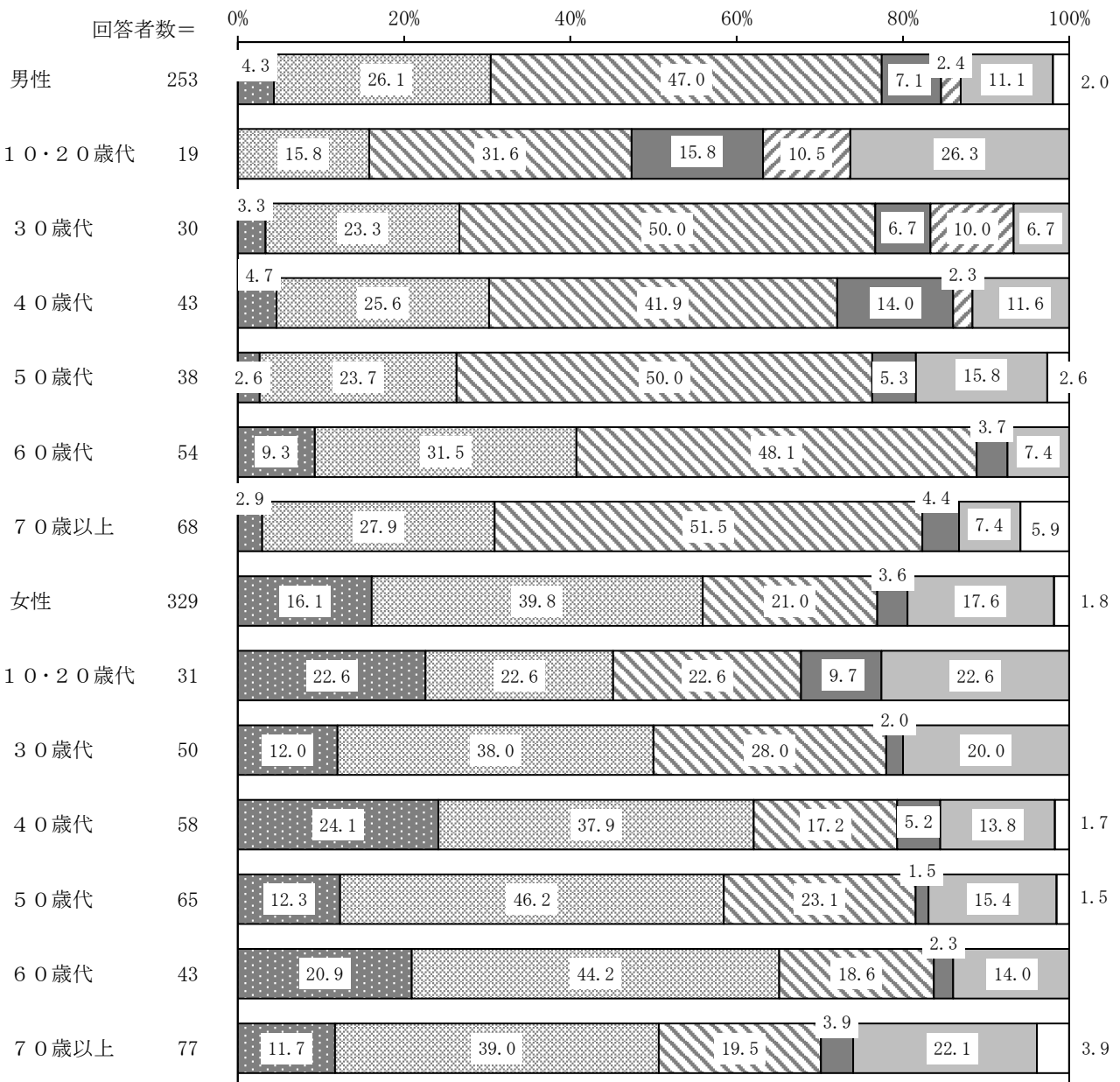
## F 法律や制度の上

### 【性・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の60歳代で“男性優遇”の割合が最も高く、約6割半ばとなっています。また、男性の30歳代以上で「平等である」の割合が高く、約5割となっています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答



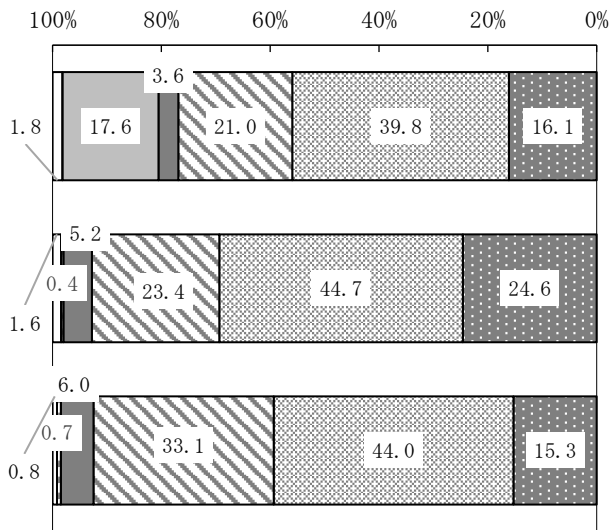
**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

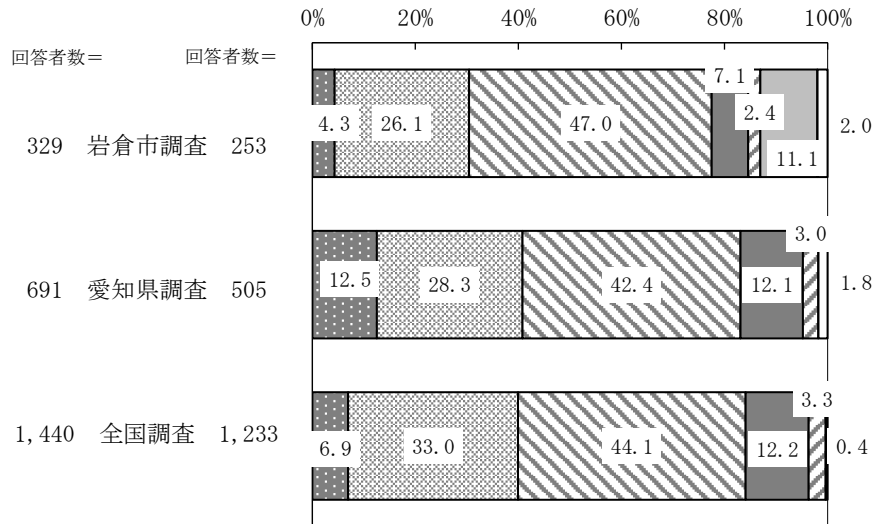
全国調査と比較すると、国に比べ、男性で“男性優遇”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

**【女性】**



**【男性】**



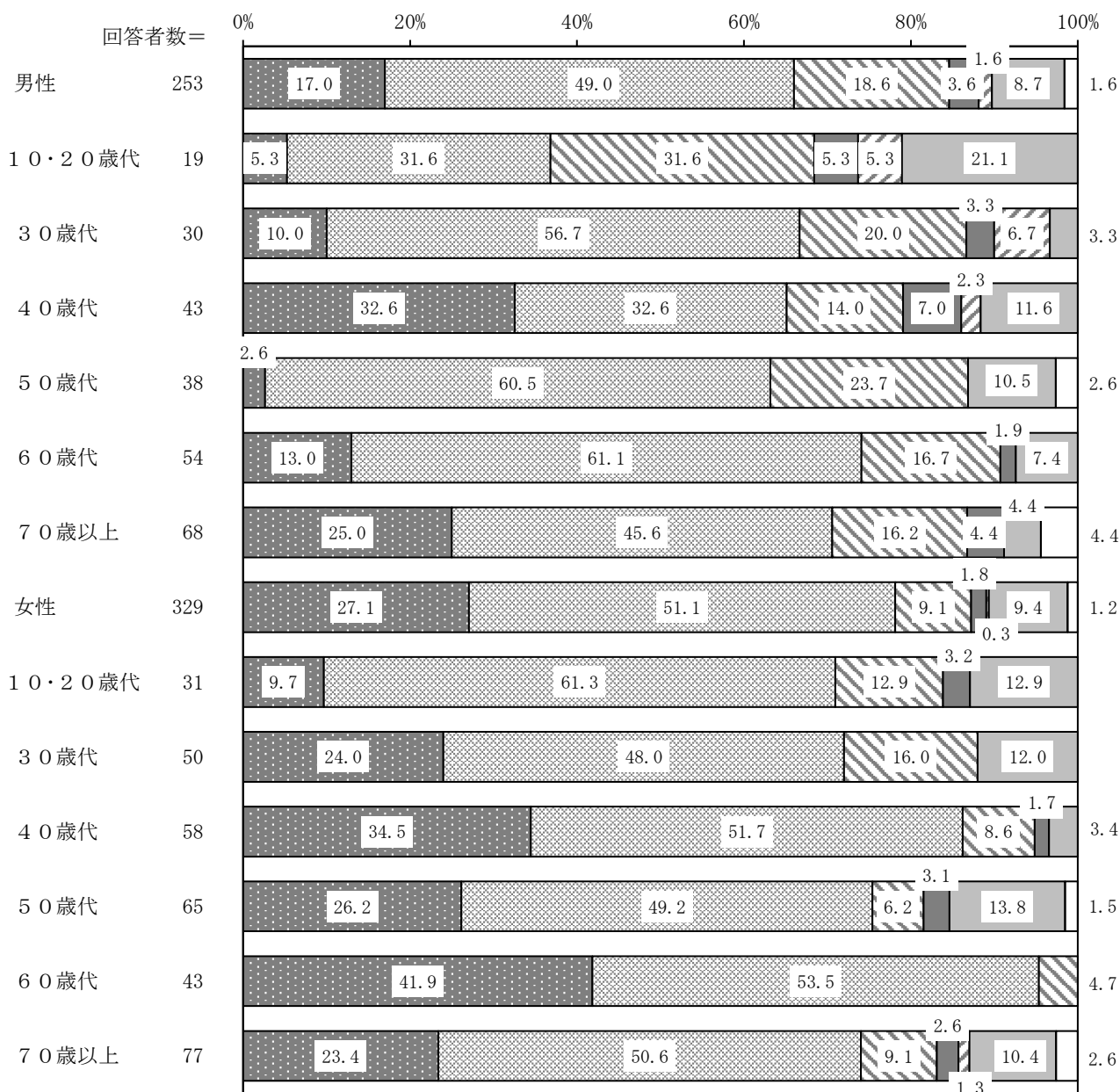
※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

## G しきたり・慣習

### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の60歳代で“男性優遇”の割合が最も高く、9割半ばとなっています。また、男性の10・20歳代で「平等である」の割合が高く、約3割となっています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答

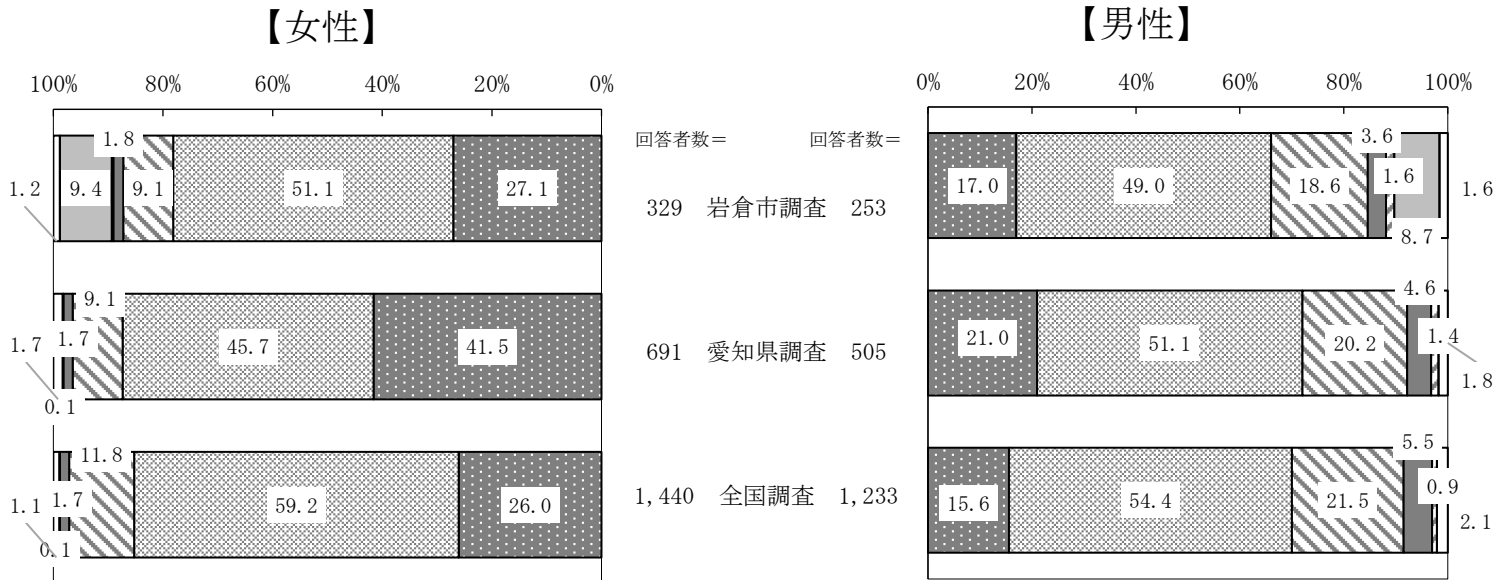


**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ、男性、女性ともに、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません

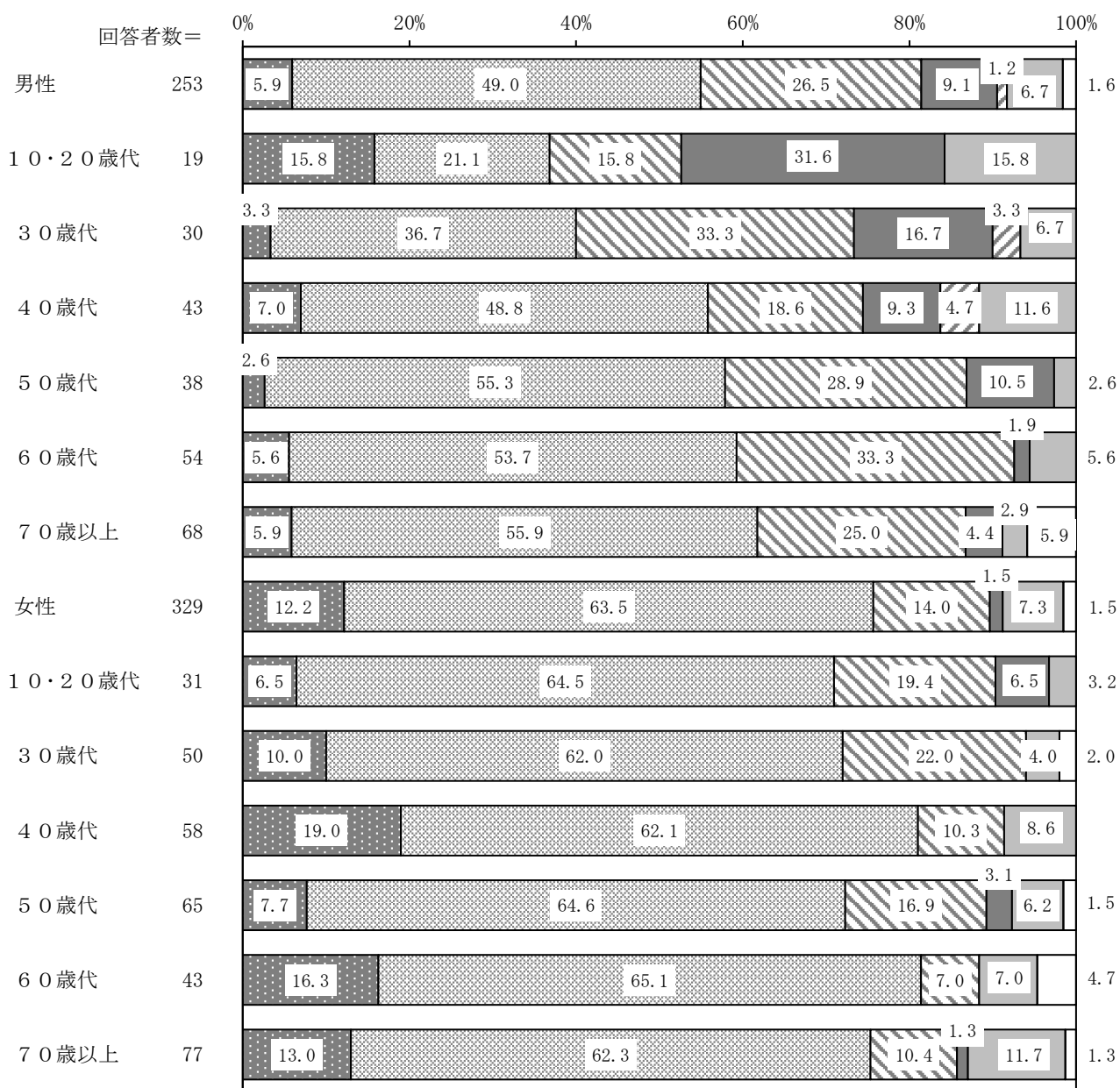
## H 社会全体として

### 【性・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代、60歳代で“男性優遇”の割合が高く、約8割となっています。また、男性の30歳代、60歳代で「平等である」の割合が高く、3割を超えています。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答



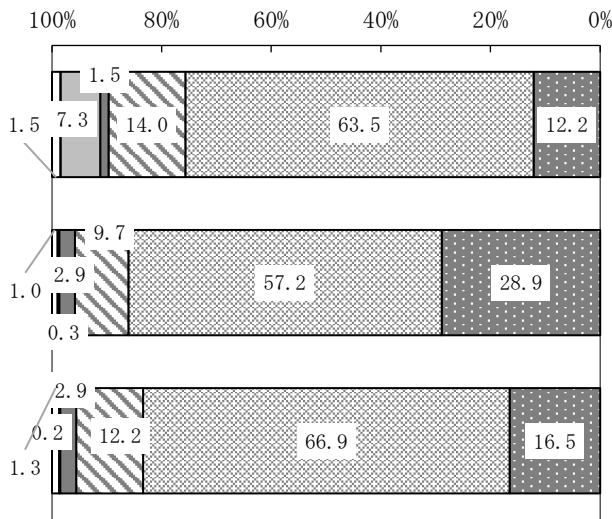
**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。また、「平等である」の割合が高くなっています。

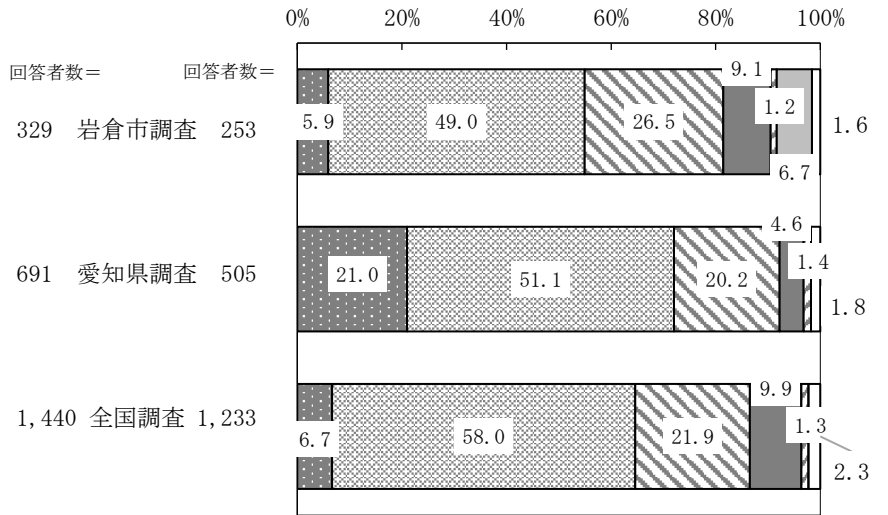
全国調査と比較すると、国に比べ、男性、女性ともに、「平等である」の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

**【女性】**



**【男性】**

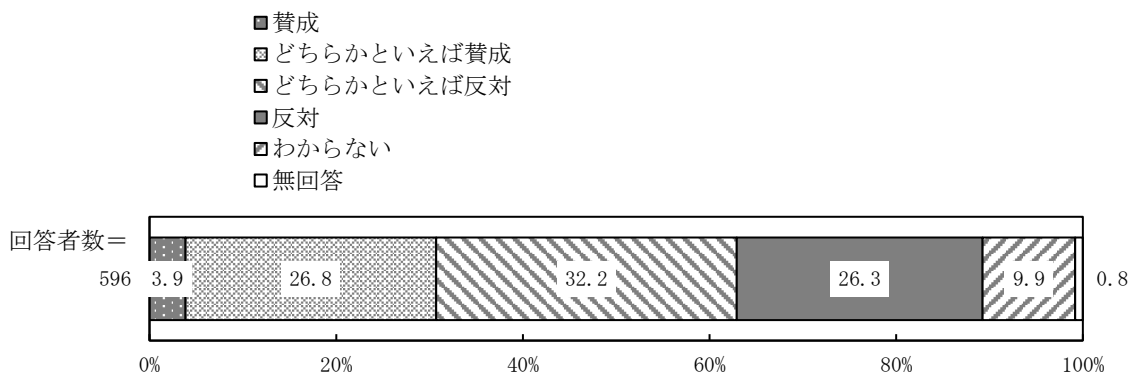


※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません

### 3 家庭生活について

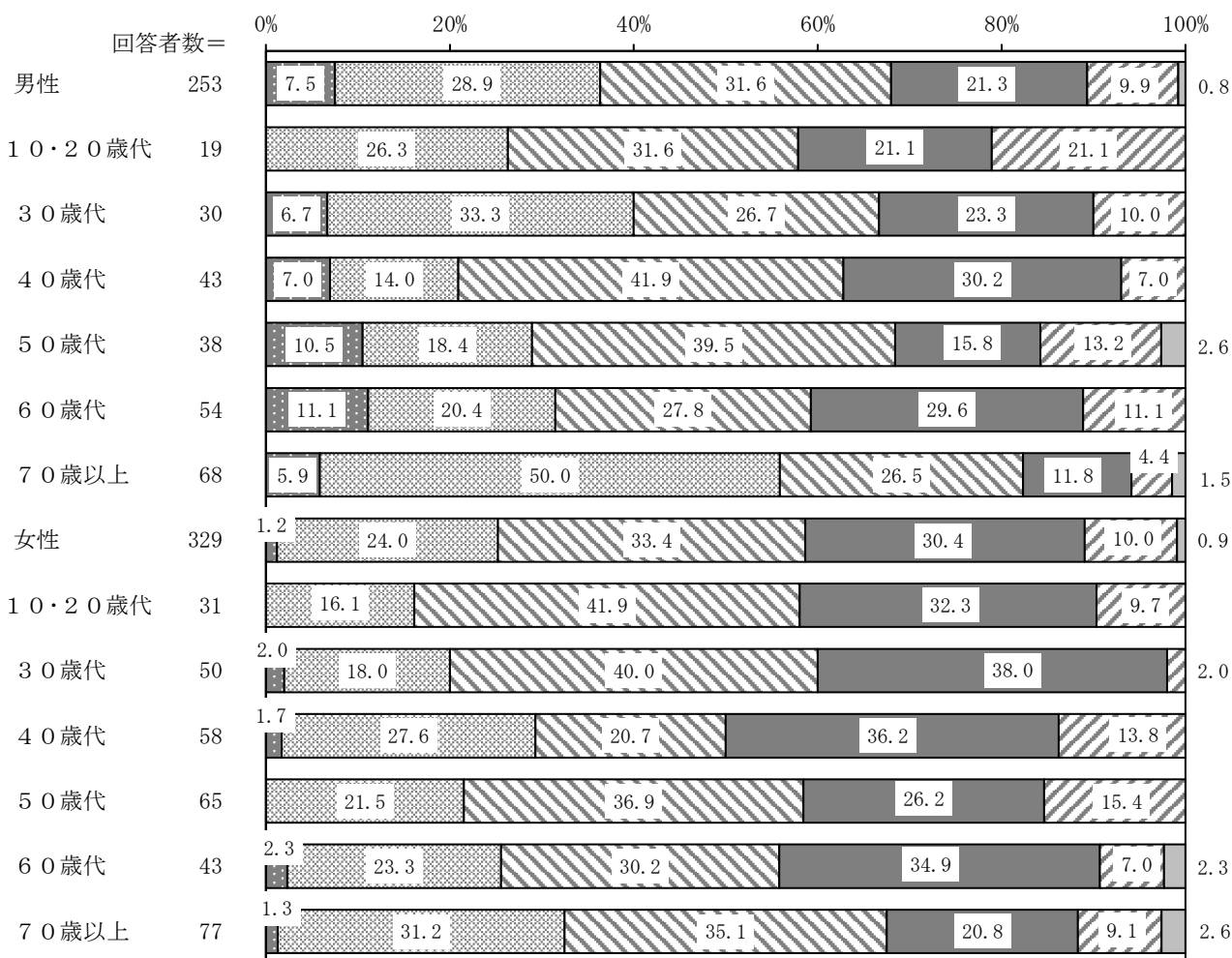
問2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」をあわせた“賛成する”の割合が30.7%、「どちらかといえば反対する」と「反対する」をあわせた“反対する”の割合が58.5%となっています。



#### 【性・年齢別】

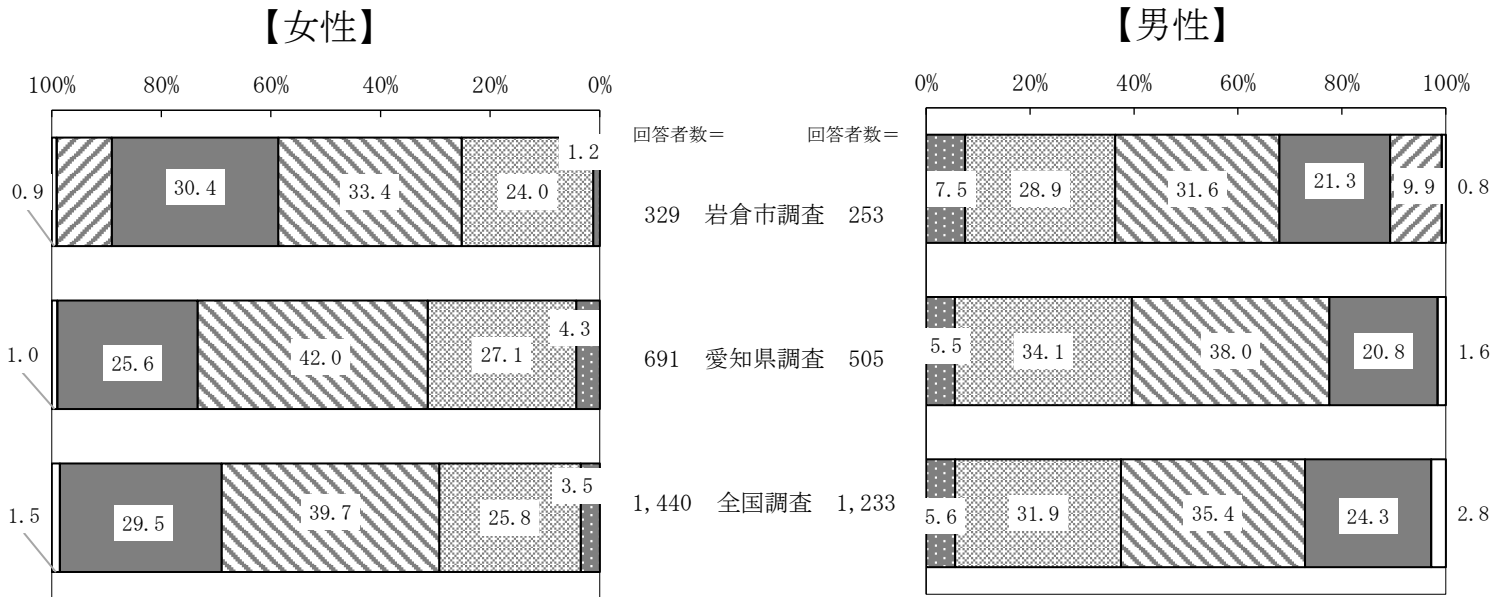
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の70歳以上で“賛成する”の割合が高く、5割半ばとなっています。また、女性の10・20歳代、30歳代で“反対する”の割合が高く、7割を超えています。



### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、女性で「反対」の割合が高くなっています。  
 全国調査と比較すると、国に比べ、女性で「賛成」の割合が低くなっています。

■賛成 □どちらかといえば賛成 ▨どちらかといえば反対 ■反対 □わからない □無回答

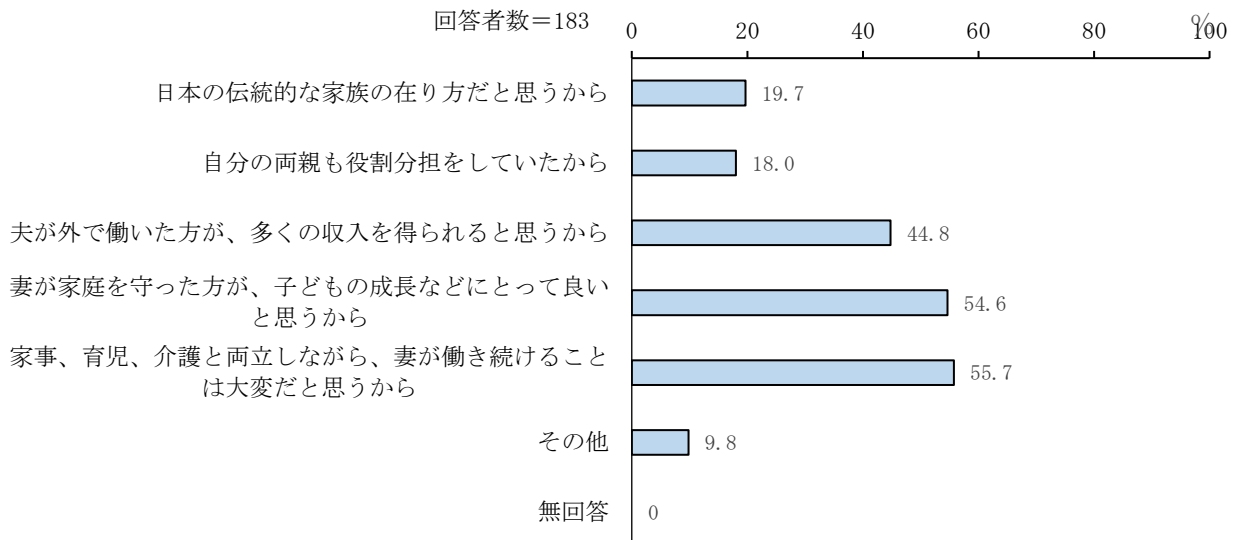


※愛知県調査・全国調査に「わからない」の選択肢はありません

問2で「賛成する」、「どちらかといえば賛成する」と回答した方にお聞きします。

### 問3 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が55.7%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が54.6%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が44.8%となっています。



## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の10・20歳代、30歳代で「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が高く8割を超えています。また、男性、女性ともに40歳代、50歳代で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が5割を超えています。

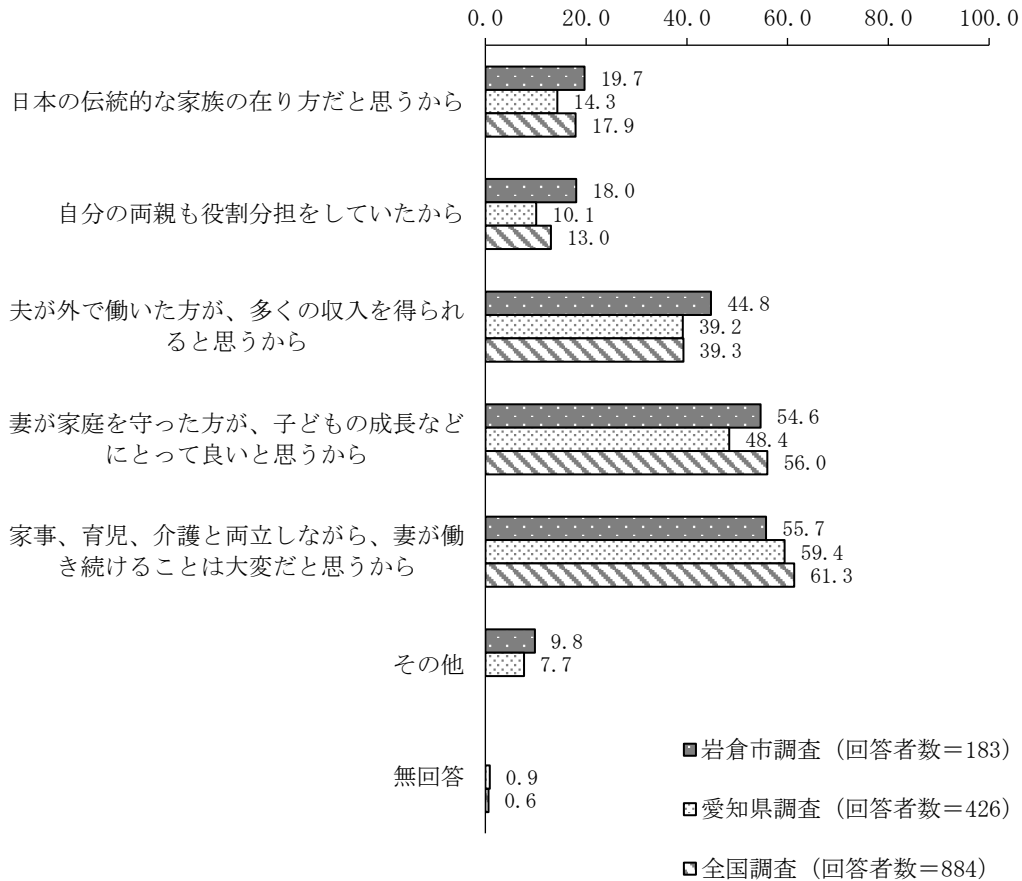
単位：％

区分	有効回答数(件)	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	その他	無回答
男性 10・20歳代	5	—	20.0	60.0	40.0	60.0	—	—
30歳代	12	8.3	25.0	25.0	41.7	58.3	16.7	—
40歳代	9	33.3	11.1	33.3	66.7	33.3	22.2	—
50歳代	11	36.4	27.3	45.5	54.5	45.5	18.2	—
60歳代	17	17.6	5.9	17.6	35.3	17.6	11.8	—
70歳以上	38	7.9	2.6	7.9	15.8	7.9	5.3	—
女性 10・20歳代	5	—	40.0	40.0	20.0	80.0	—	—
30歳代	10	—	—	50.0	10.0	90.0	—	—
40歳代	17	17.6	35.3	29.4	52.9	52.9	11.8	—
50歳代	14	28.6	28.6	57.1	64.3	57.1	14.3	—
60歳代	11	18.2	—	81.8	54.5	63.6	—	—
70歳以上	25	24.0	16.0	68.0	52.0	48.0	—	—

### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が低くなっていますが、その他の項目では割合が高くなっています。

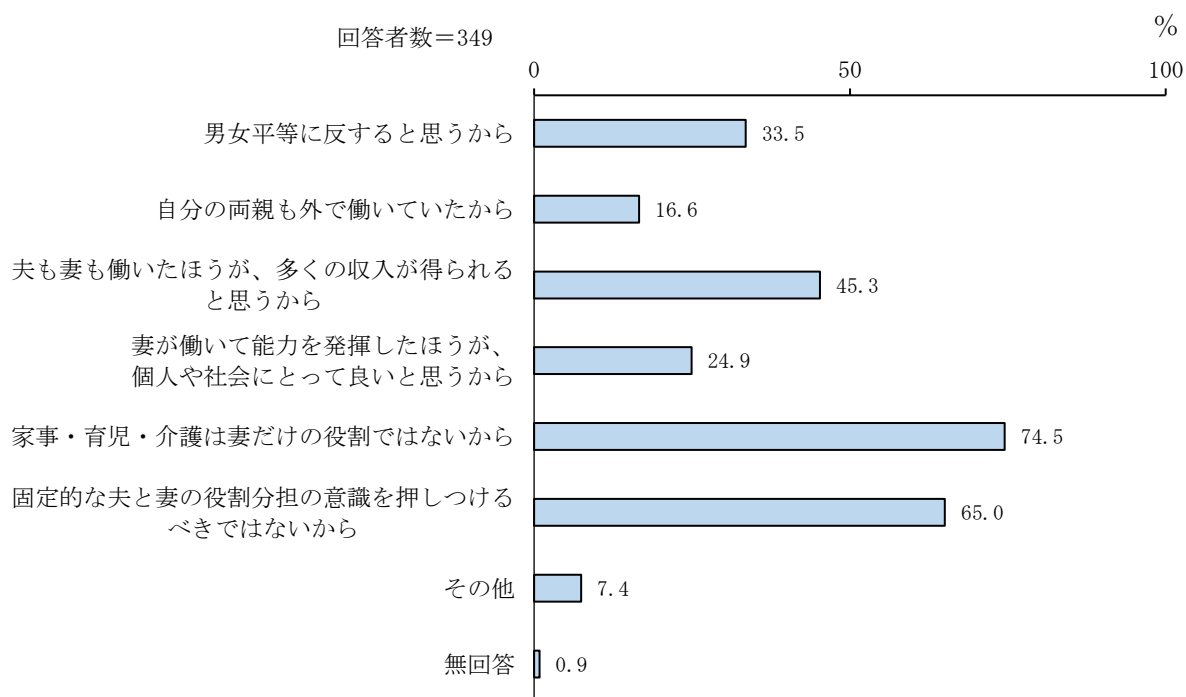
全国調査と比較すると、国に比べ、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」「自分の両親も役割分担をしていたから」の割合が高くなっています。



問2で「どちらかといえば反対する」、「反対する」と回答した方にお聞きします。

**問4 それはなぜですか。(〇はいくつでも)**

「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」の割合が74.5%と最も高く、次いで「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が65.0%、「夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから」の割合が45.3%となっています。



## 【性・年齢別】

全体的で「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」の割合が高く、5割を超えています。特に女性の60歳代で割合が高く、9割半ばとなっています。また、女性の10・20歳代で「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が高く、約9割となっています。

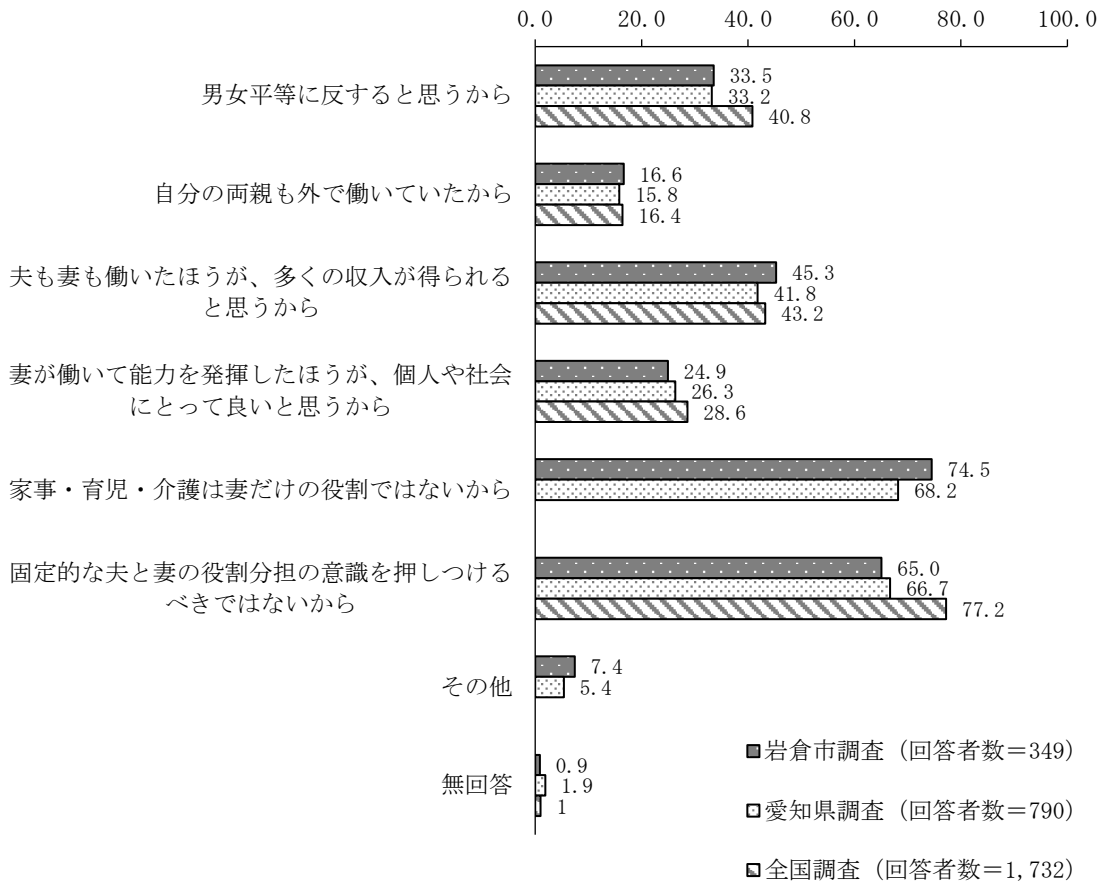
単位：%

区分	有効回答数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も外で働いていたから	夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	その他	無回答
男性 10・20歳代	10	40.0	30.0	40.0	10.0	60.0	40.0	10.0	10.0
30歳代	15	26.7	13.3	40.0	6.7	73.3	40.0	6.7	—
40歳代	31	29.0	25.8	58.1	41.9	74.2	54.8	16.1	—
50歳代	21	28.6	4.8	52.4	28.6	61.9	47.6	—	—
60歳代	31	35.5	12.9	48.4	29.0	58.1	51.6	6.5	—
70歳以上	26	46.2	11.5	23.1	46.2	73.1	61.5	3.8	—
女性 10・20歳代	23	39.1	39.1	56.5	17.4	87.0	87.0	4.3	—
30歳代	39	15.4	25.6	38.5	20.5	69.2	51.3	15.4	2.6
40歳代	33	45.5	15.2	54.5	27.3	81.8	78.8	12.1	—
50歳代	41	31.7	22.0	36.6	14.6	73.2	68.3	7.3	—
60歳代	28	42.9	3.6	57.1	25.0	96.4	75.0	3.6	—
70歳以上	43	37.2	2.3	44.2	25.6	72.1	67.4	—	2.3

### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」「夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ、「男女平等に反すると思うから」「妻が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が低くなっています。



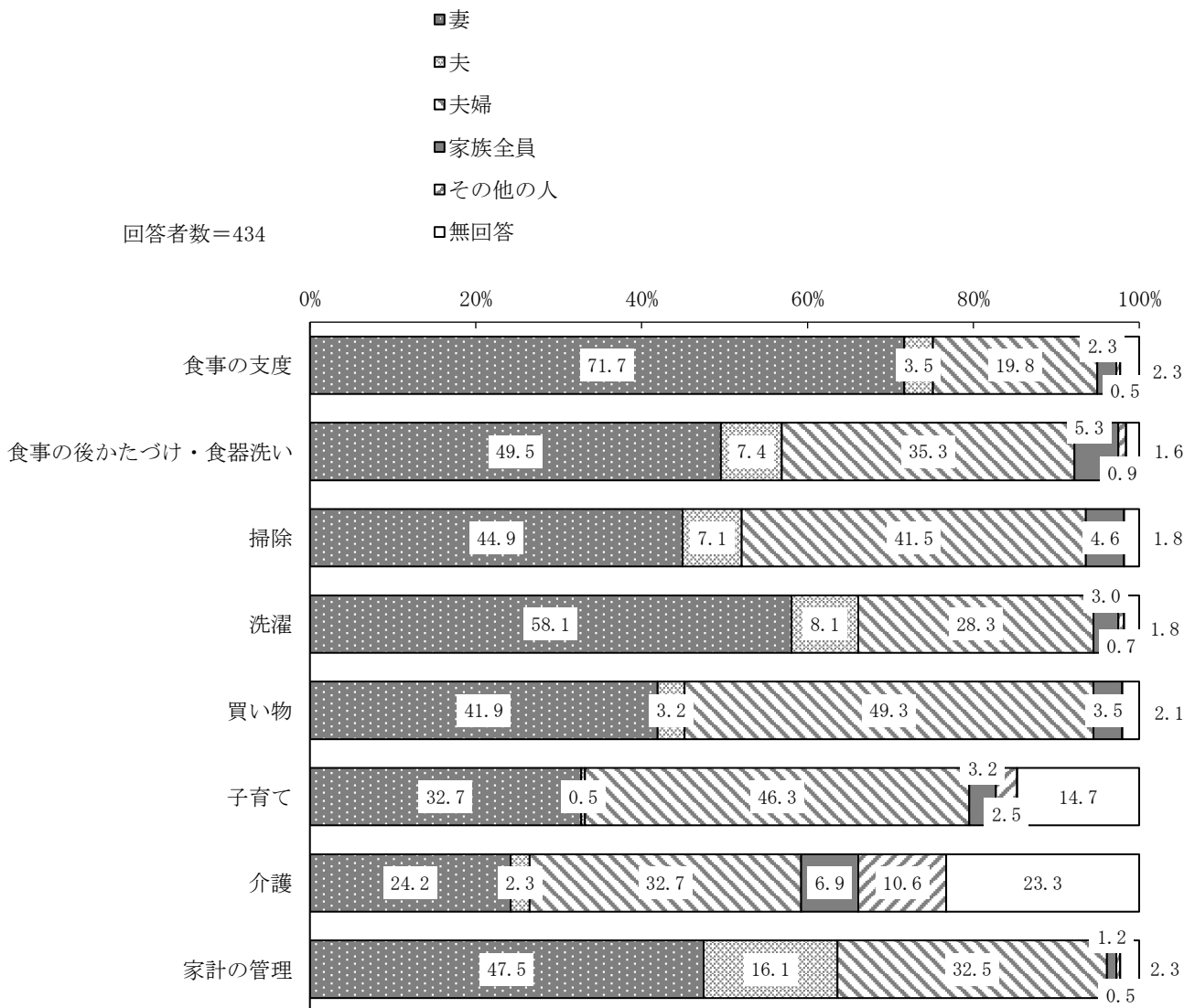
※全国調査には「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」の選択肢はありません。

「現在結婚している方（又はパートナーと暮らしている方）」にお聞きします。

問5 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。（AからHについてそれぞれ○を1つ）

「妻」と回答した中で、「食事の支度」が71.7%と最も高く、次いで「洗濯」が58.1%、「食事の後かたづけ・食器洗い」が49.5%となっています。

また、「買物」「子育て」については、「夫婦」の割合が高く約5割となっています。

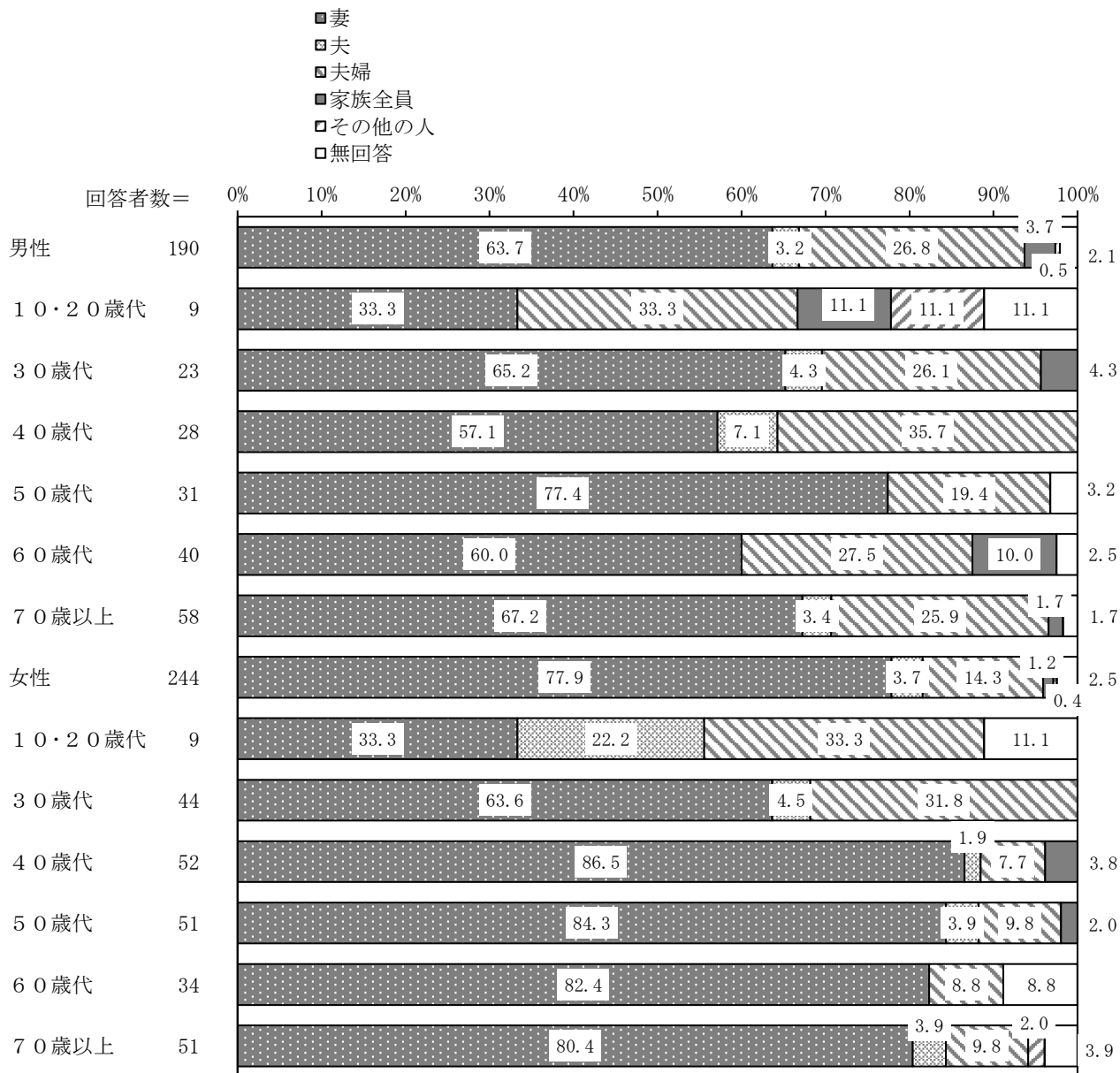


(注) 調査項目の「自分」、「配偶者」の回答を性別でクロス集計している。以下A～Hも同様。

## A 食事の支度

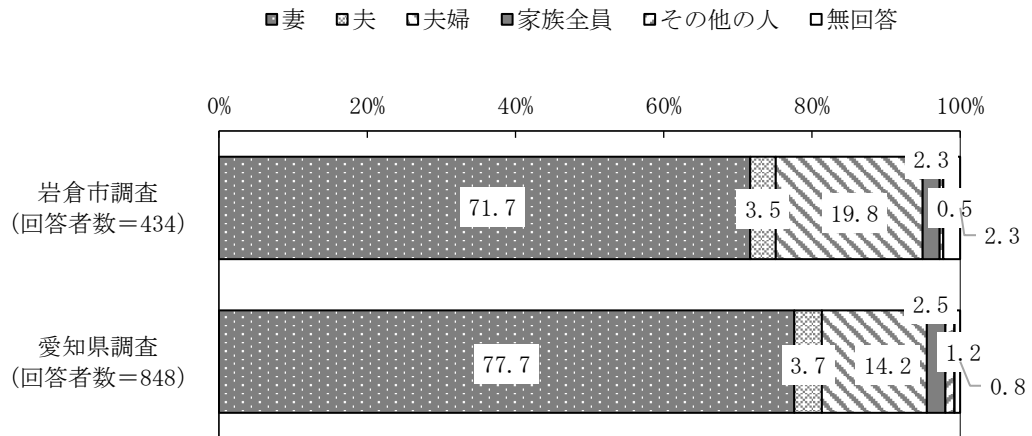
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の40歳代以上で「妻」の割合が高く8割を超えています。また、男性、女性ともに10・20歳代で「妻」の割合が低く約3割になっています。



### 【愛知県調査との比較】

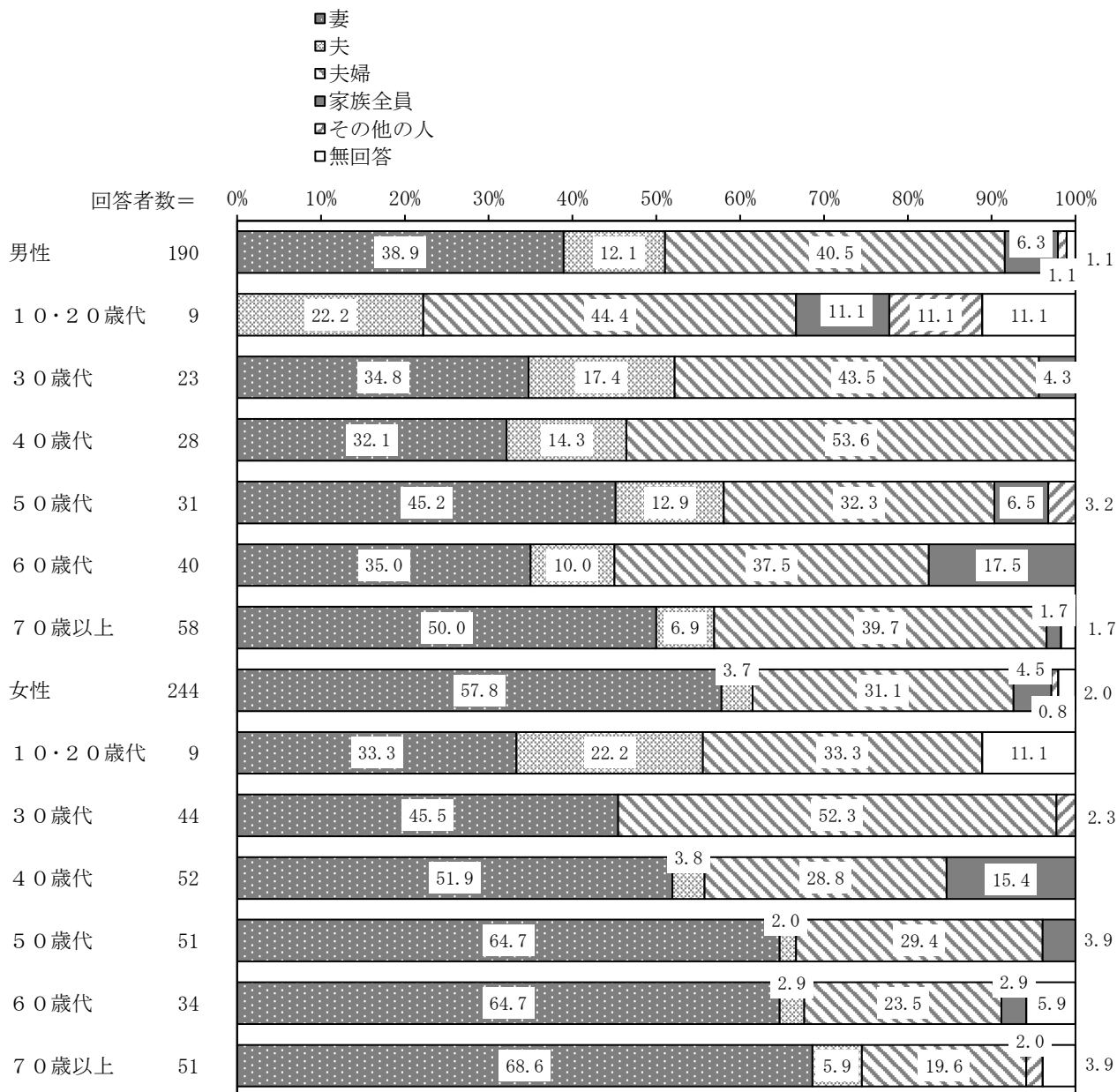
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「妻」の割合が低く、「夫婦」の割合が高くなっています。



## B 食事の後かたづけ・食器洗い

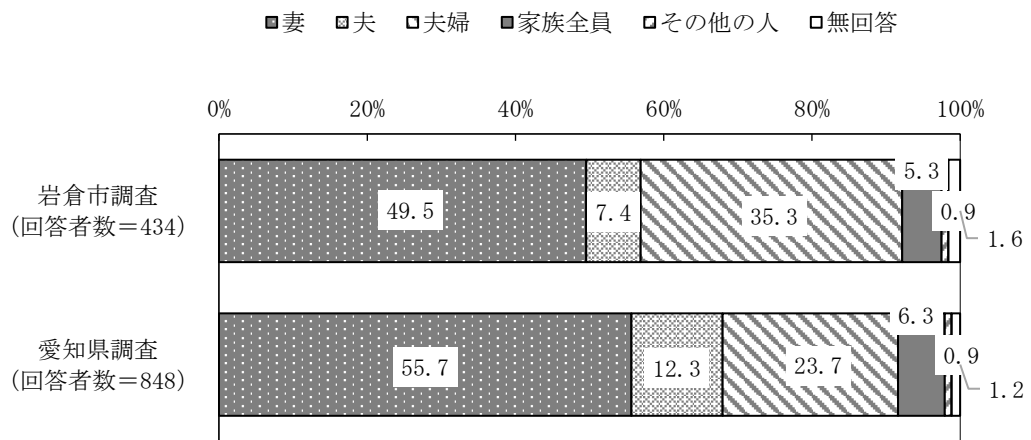
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ女性の50歳代以上で「妻」の割合が多く、6割を超えています。  
 また、男性の40歳代、女性の30歳代で「夫婦」の割合が多く、約5割となっています。  
 男性、女性ともに10・20歳代で「夫」の割合が高く2割を超えています。



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫婦」の割合が高くなっています。

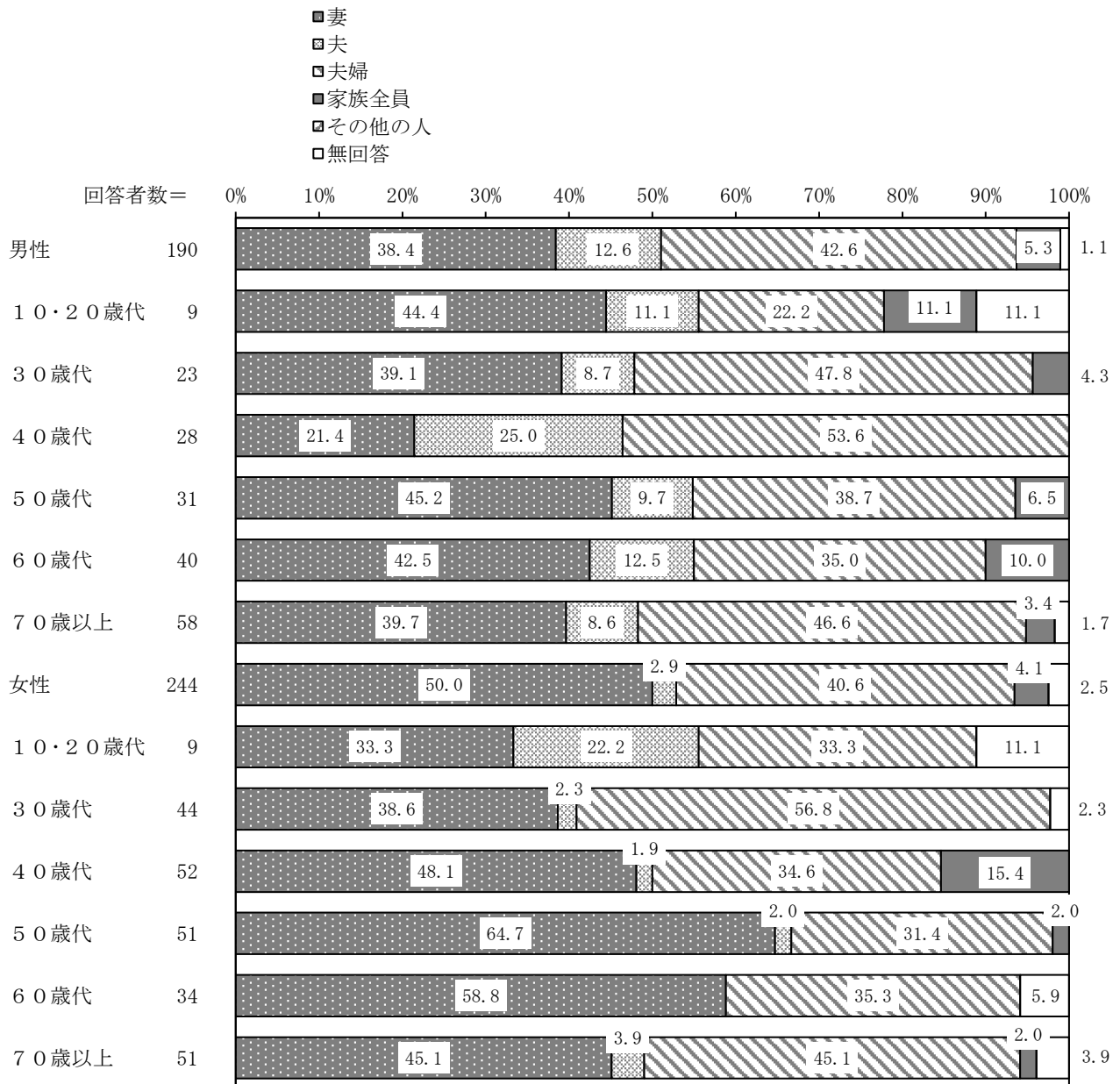


### C 掃除

#### 【性・年齢別】

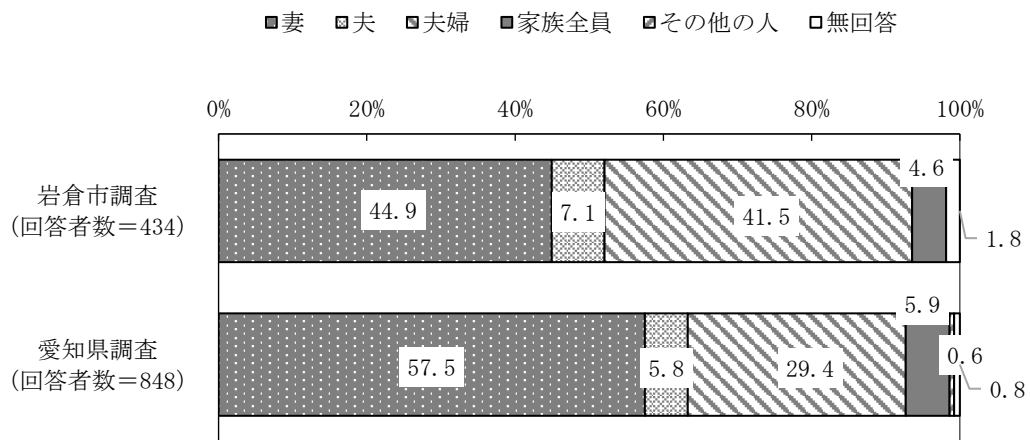
性・年齢別で見ると、他に比べ女性の50歳代、60歳代で「妻」の割合が高く約6割になっています。

また、男性の40歳代、女性の10・20歳代で「夫」の割合が高く2割を超えています。



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫婦」「夫」の割合が高くなっています。

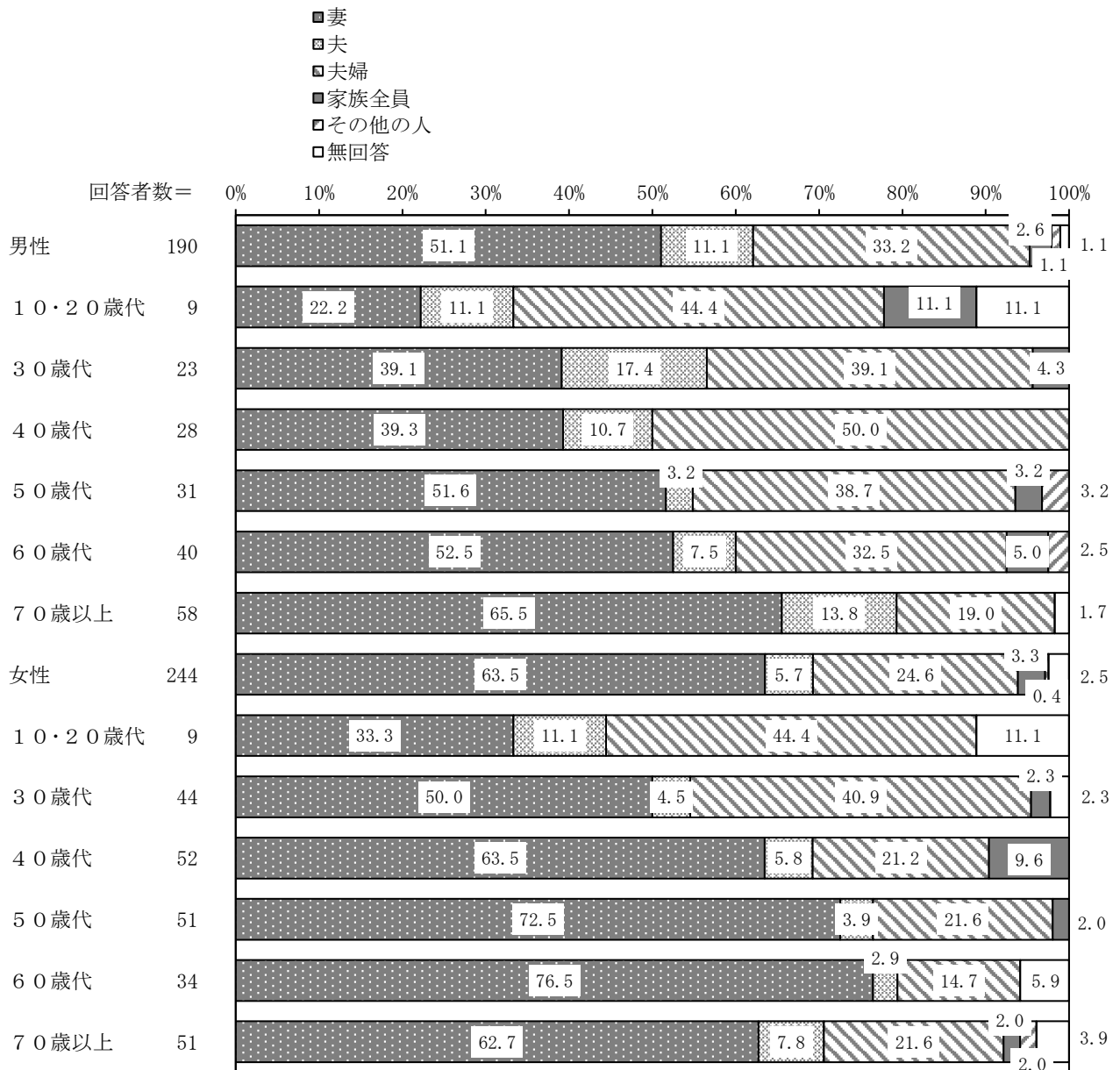


## D 洗濯

### 【性・年齢別】

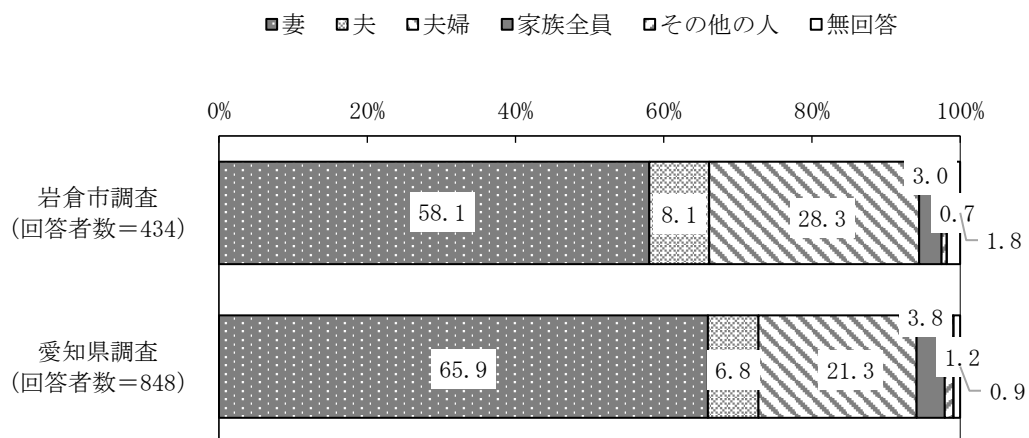
性・年齢別で見ると、他に比べ女性の50歳代、60歳代で「妻」の割合が高く7割を超えています。男性と女性の10・20歳代で「妻」の割合が低く、2，3割になっています。

また、男性の40歳代で「夫婦」の割合が高く5割となっています。



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫婦」「夫」の割合が高くなっています。

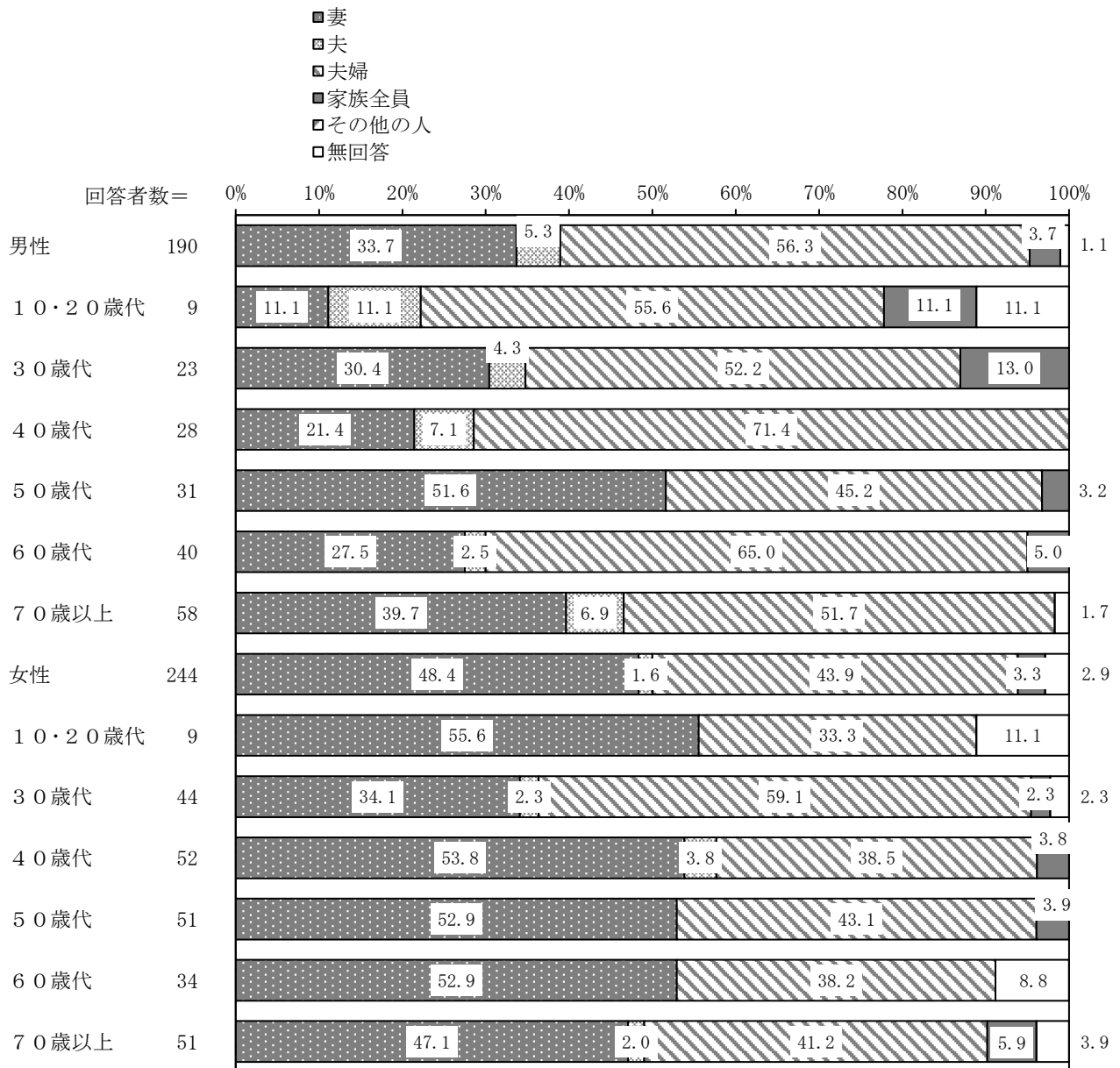


## E 買い物

### 【性・年齢別】

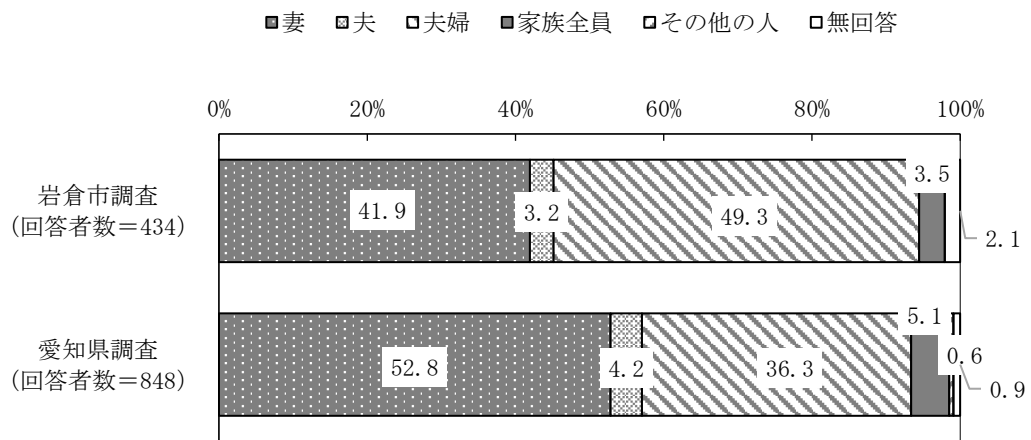
性・年齢別で見ると、男性の50歳代、女性の10・20歳代、40歳代、50歳代、60歳代で「妻」の割合が高く5割を超えています。

また、男性の40歳代で「夫婦」の割合が最も高く約7割となっています。



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫婦」の割合が高くなっています。

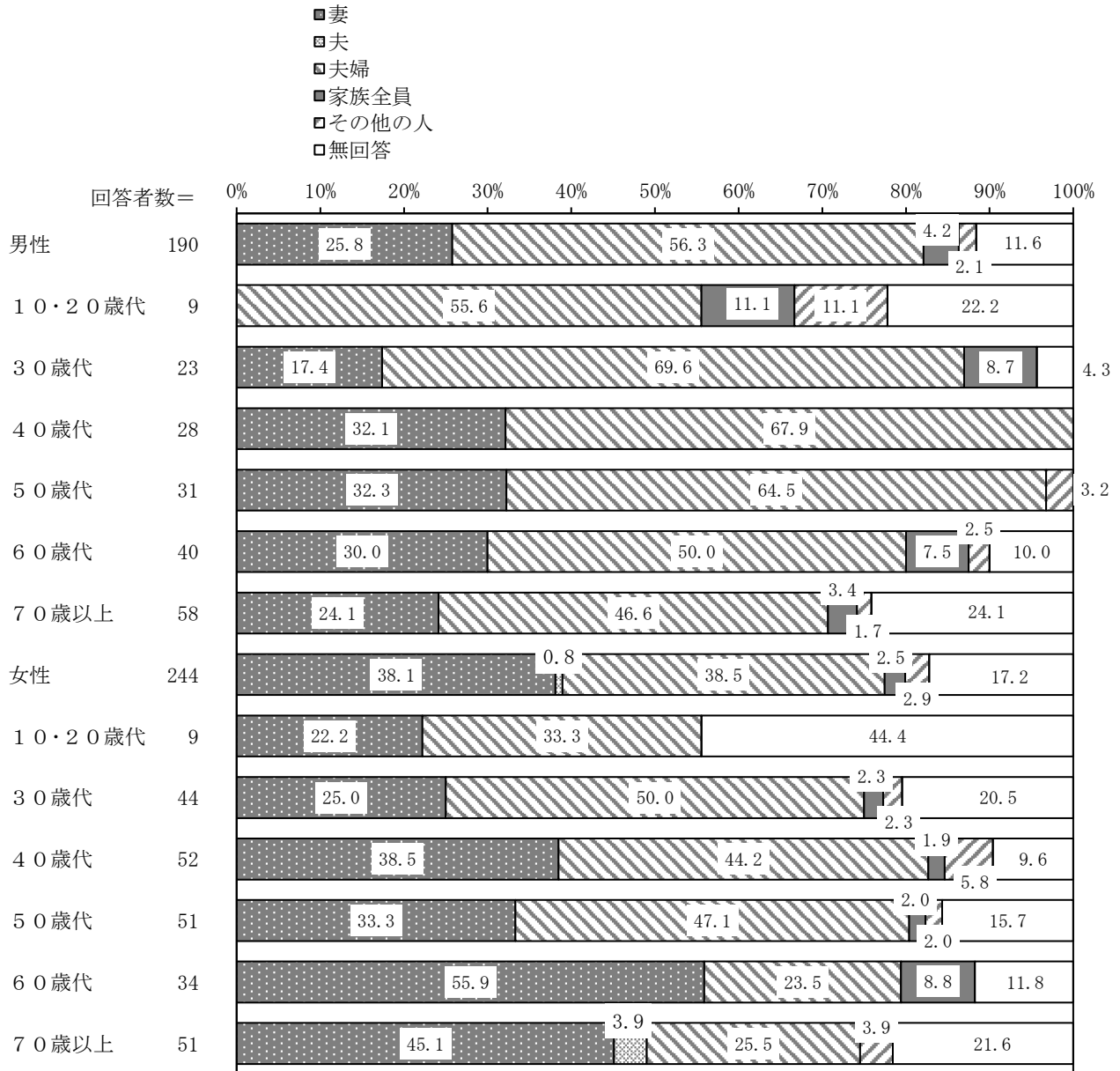


## F 子育て（子どもの世話・しつけ・教育など）

### 【性・年齢別】

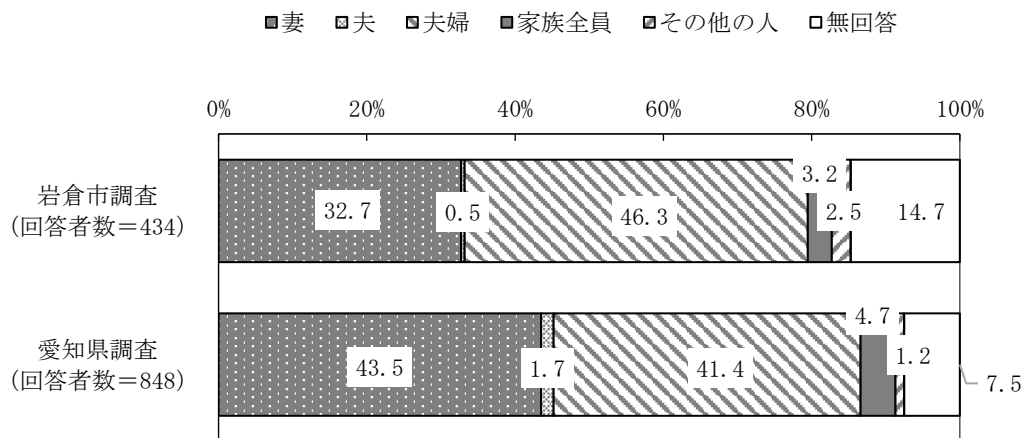
性・年齢別で見ると、女性の60歳代で「妻」の割合が高く5割を超えています。

また、男性の30歳代、40歳代、50歳代で「夫婦」の割合が高く6割を超えています。



### 【愛知県調査との比較】

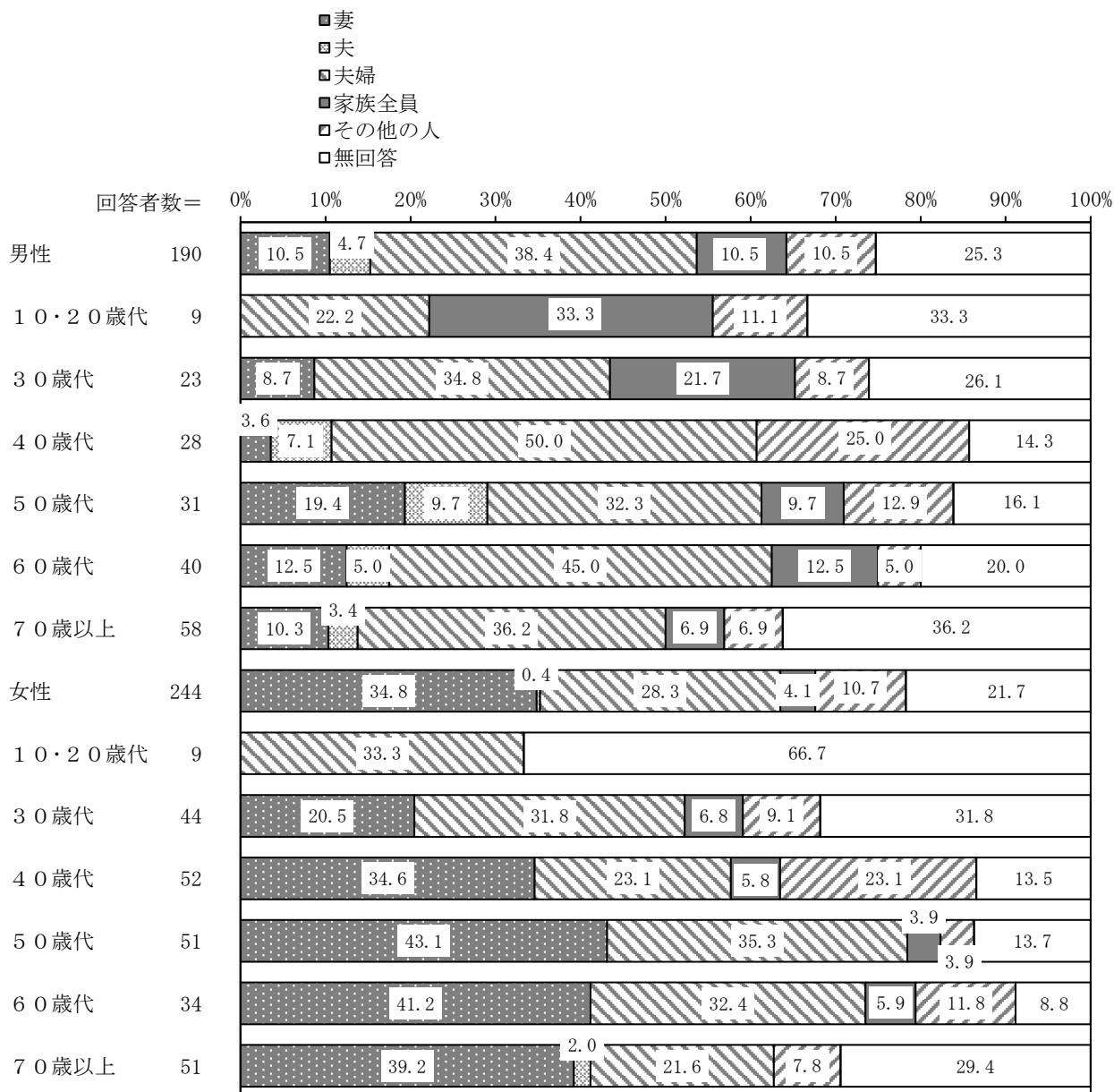
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫婦」の割合が高くなっています。



## G 介護（介護の必要な親の世話・病人の介護など）

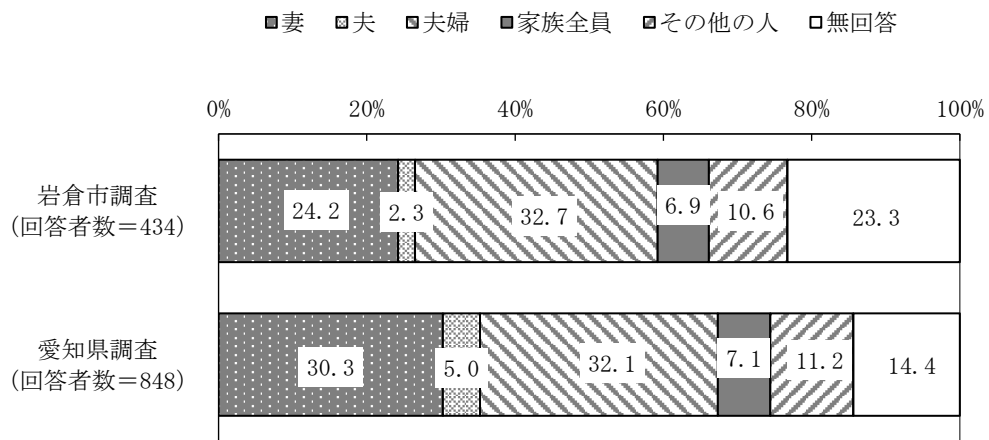
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の50歳代以上で「妻」の割合が高く約4割となっています。  
また、男性の40歳代、60歳代で「夫婦」の割合が高く約5割となっています。



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「妻」「夫」の割合が低くなっています。

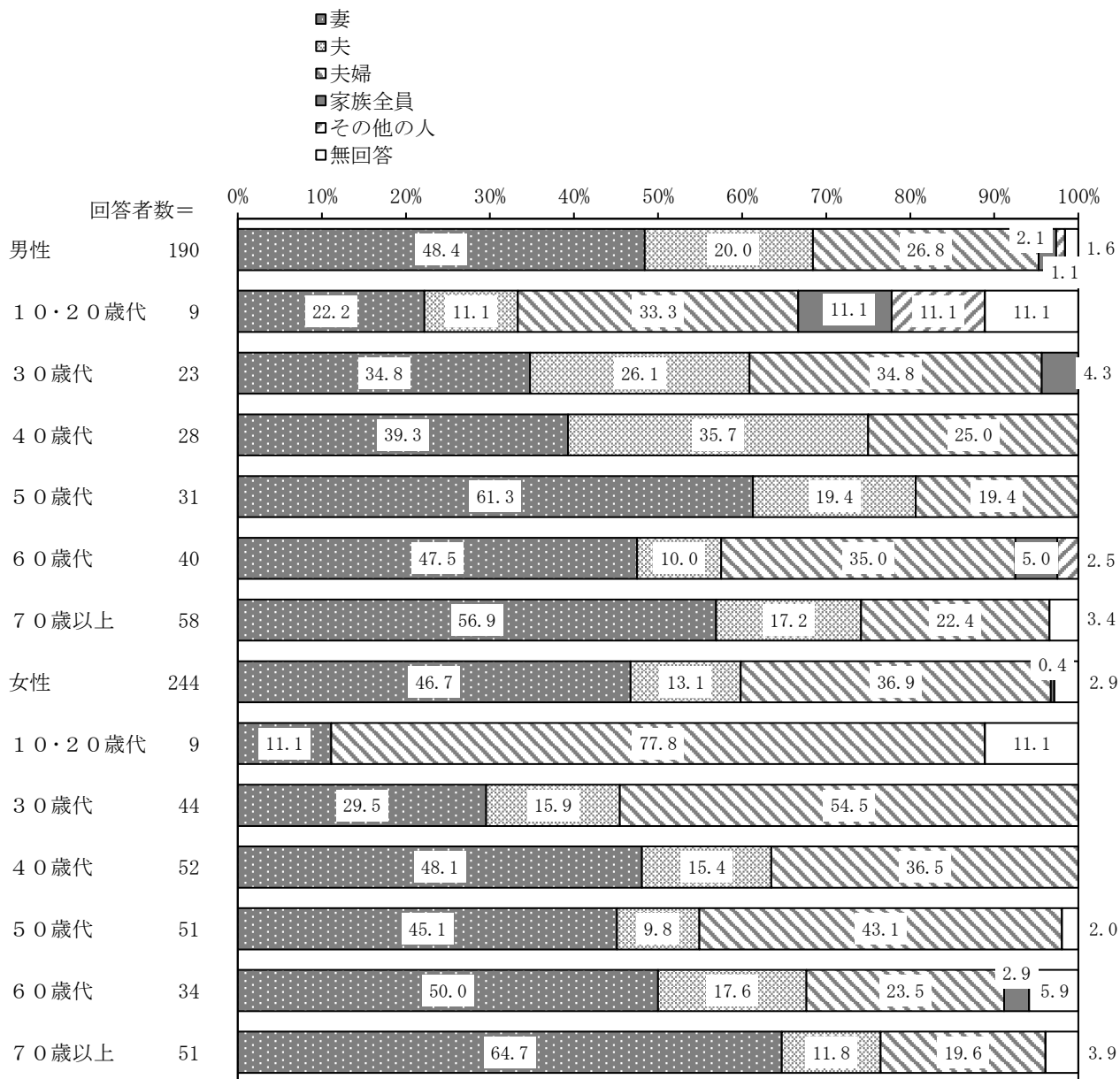


## H 家計の管理

### 【性・年齢別】

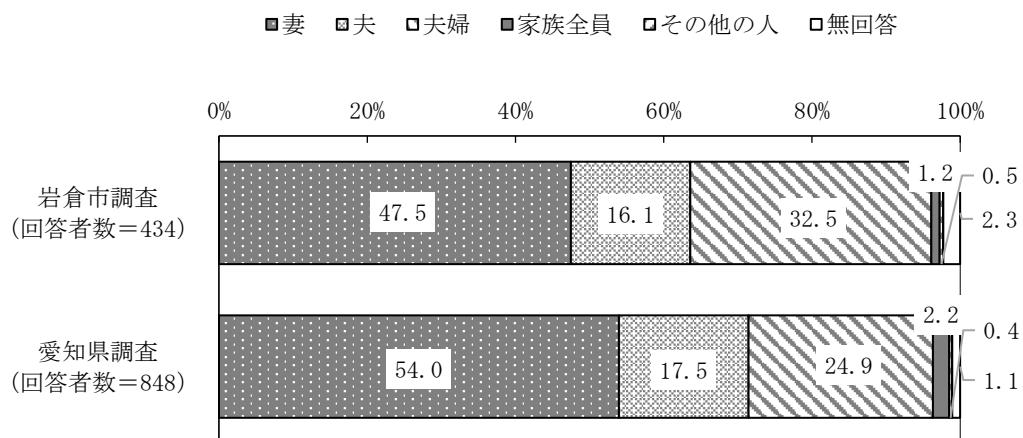
性・年齢別で見ると、男性の50歳代、女性の70歳以上で「妻」の割合が高く6割を超えています。

また、女性の10・20歳代で「夫婦」の割合が高く約8割となっています。



### 【愛知県調査との比較】

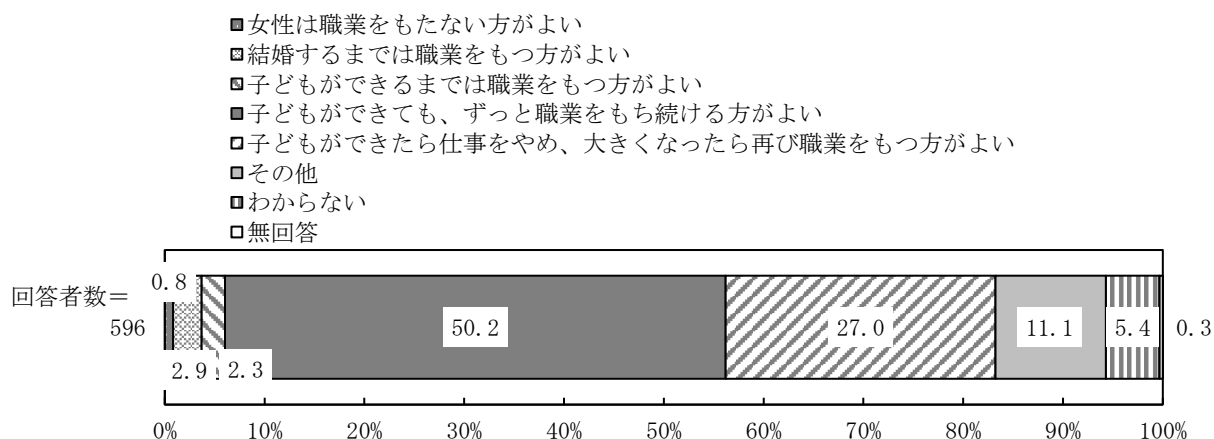
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫婦」の割合が高くなっています。



## 4 女性の活躍について

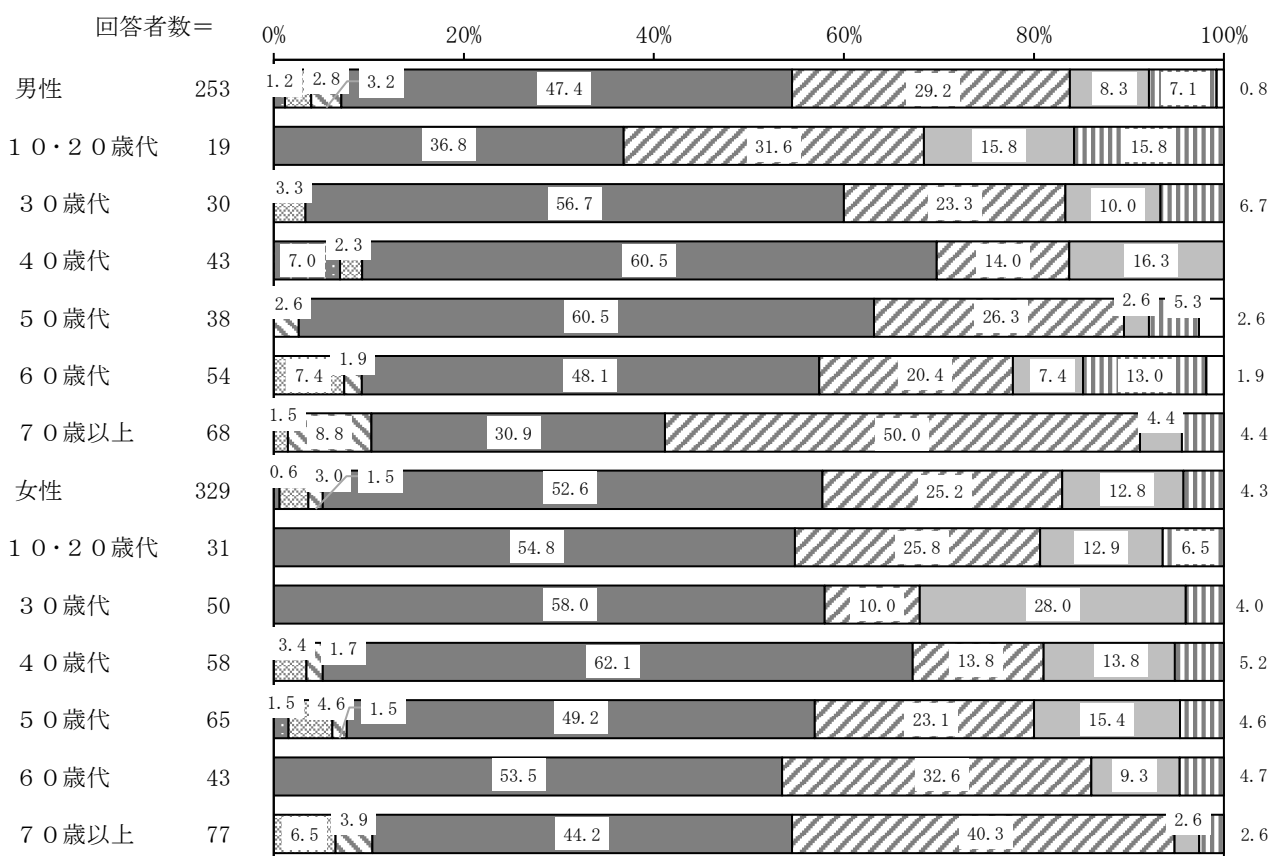
問6 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。  
(○は1つ)

「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合が50.2%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が27.0%となっています。



### 【性・年齢別】

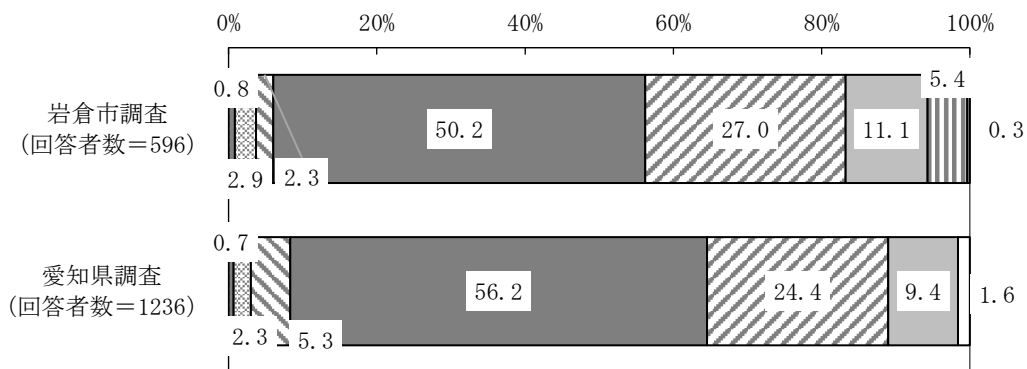
性・年齢別でみると、男性の40歳代、50歳代、女性の40歳代で「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合が高く、6割を超えています。また、男女ともに70歳以上で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が高く、4割を超えています。



## 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。

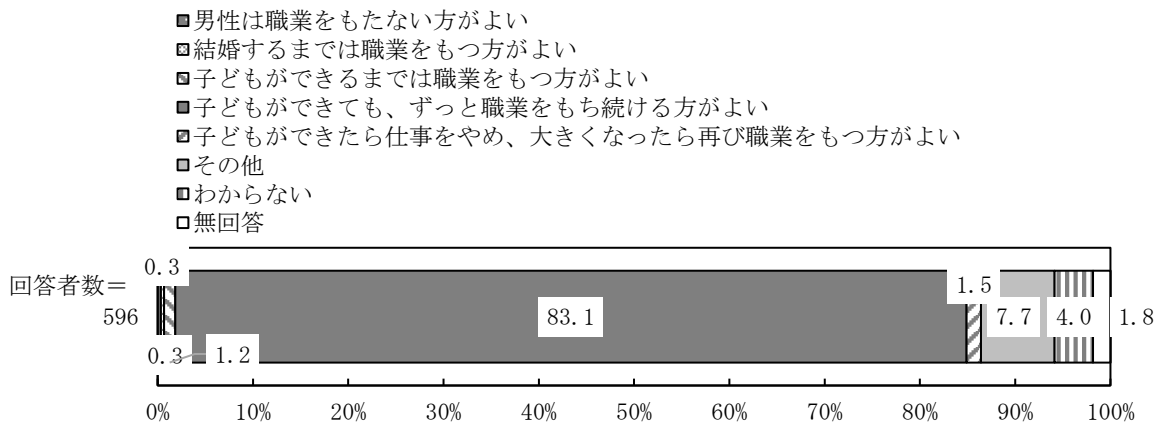
- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい
- 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



※愛知県調査に「わからない」の選択肢はありません

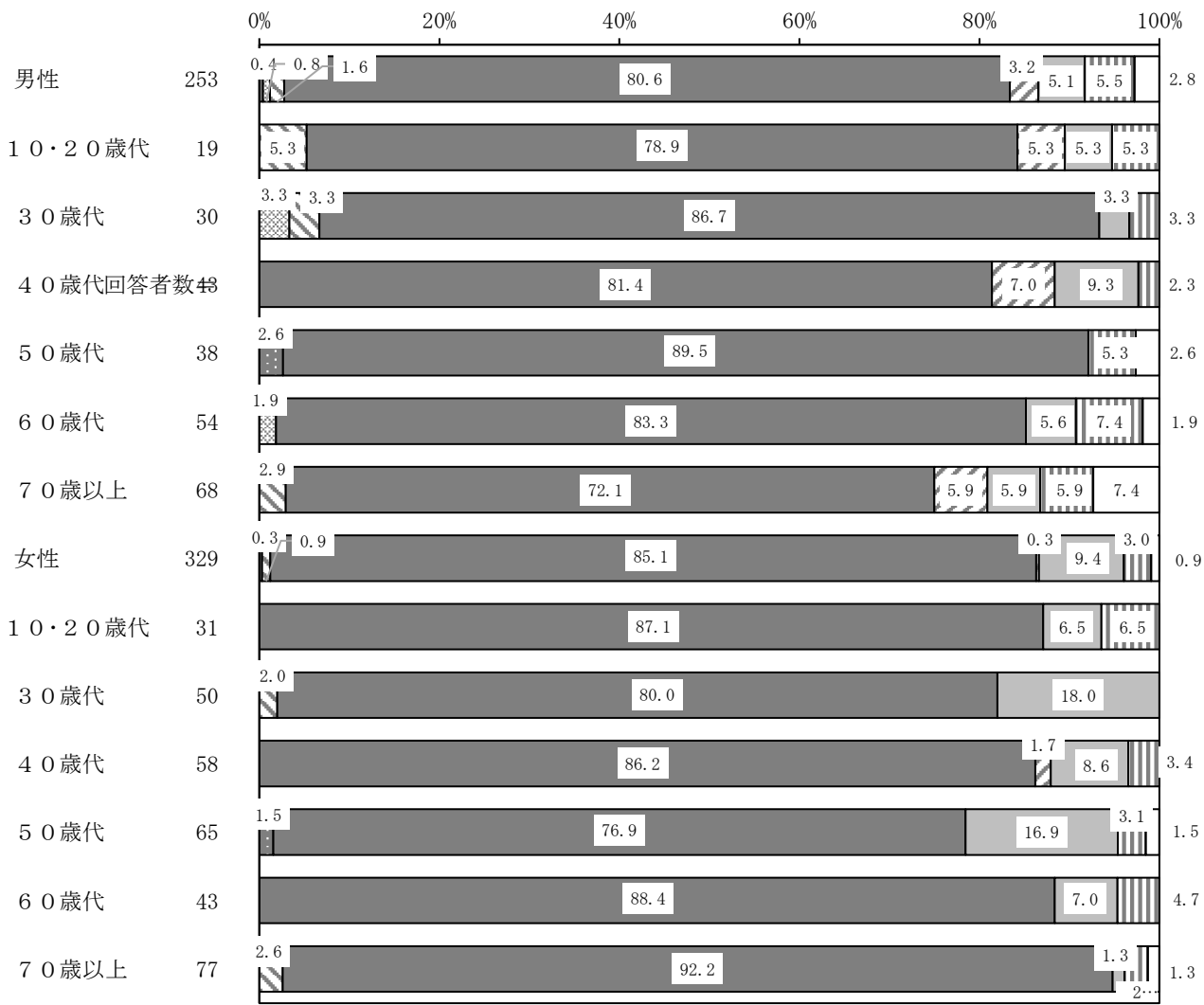
**問7 男性が職業を持つことについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。**  
(○は1つ)

「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合が83.1%と最も高くなっています。



**【性・年齢別】**

性・年齢別でみると、女性の70歳以上で「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合が最も高く9割を超えています。



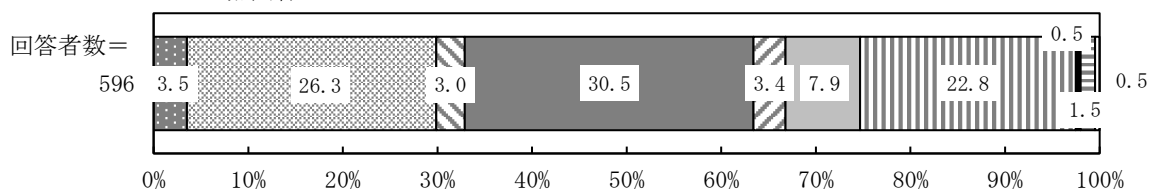
## 5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問8 あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち何を優先しますか。  
（A、Bについてそれぞれ○を1つ）

### ・A 希望として

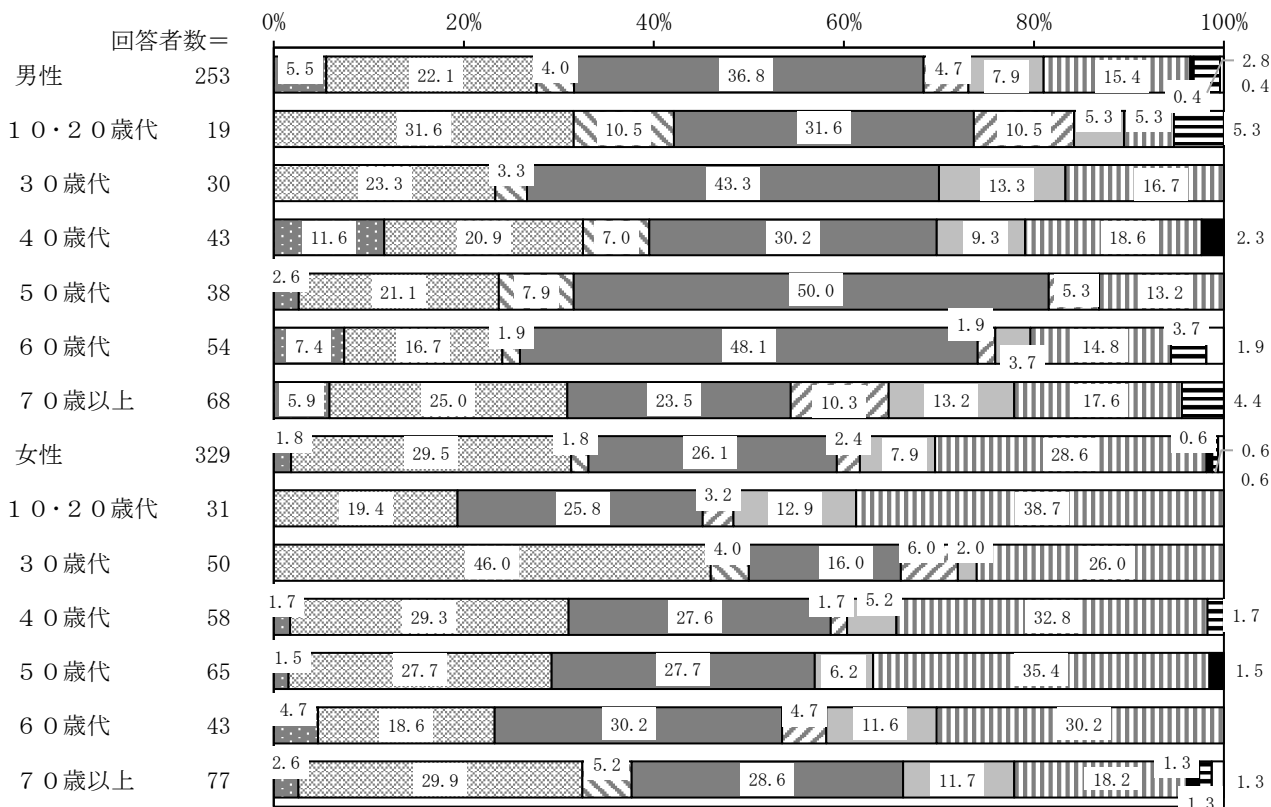
『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が30.5%と最も高く、次いで『家庭生活』を優先したいの割合が26.3%、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を両立したいの割合が22.8%となっています。

- 「仕事」を優先したい
- ▣ 「家庭生活」を優先したい
- ▤ 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- ▣ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▤ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▣ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立したい
- その他
- わからない
- 無回答



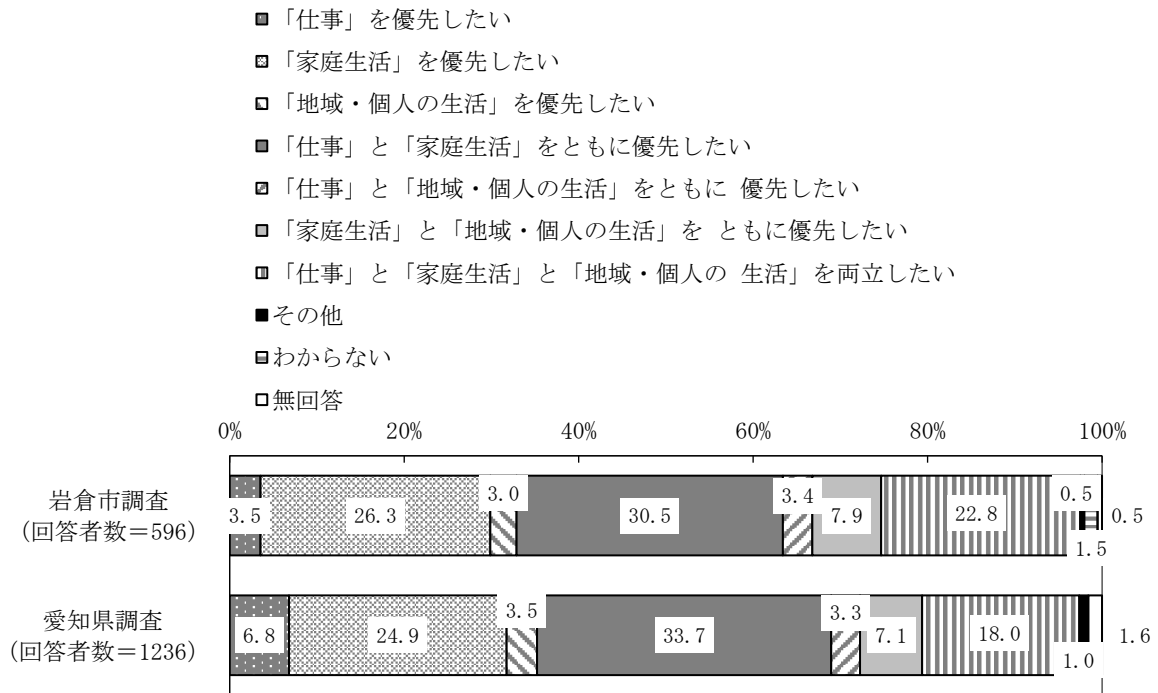
### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50歳代、60歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が高く、約5割となっています。また、女性の30歳代で『家庭生活』を優先したいの割合が高く約5割となっています。



## 【愛知県調査との比較】

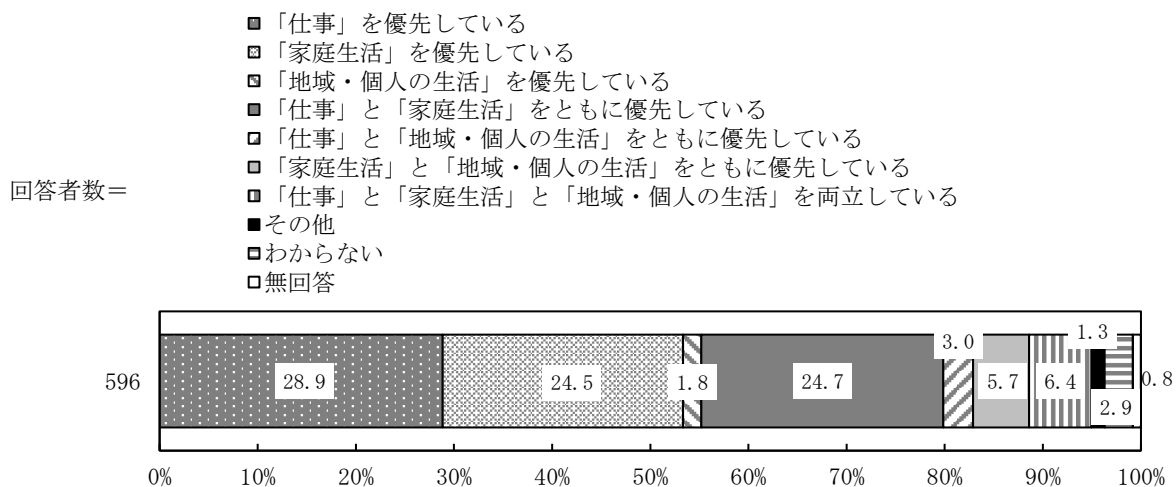
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「『家庭』を優先したい」「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を両立したい」の割合が高くなっています。



※愛知県調査に「わからない」の選択肢はありません。

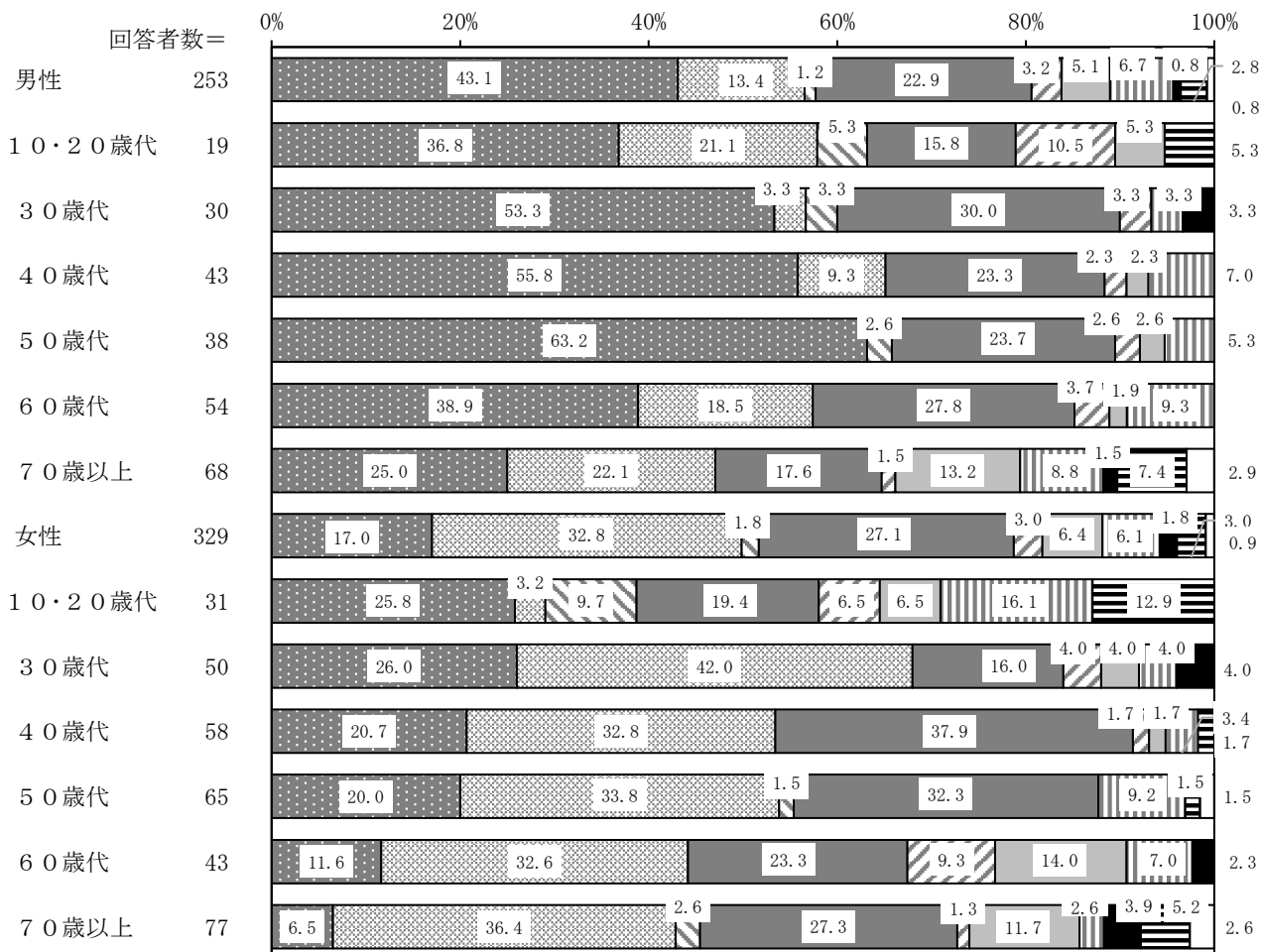
・ B 現実として

『仕事』を優先している」の割合が 28.9%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が 24.7%、『家庭生活』を優先している」の割合が 24.5%となっています。



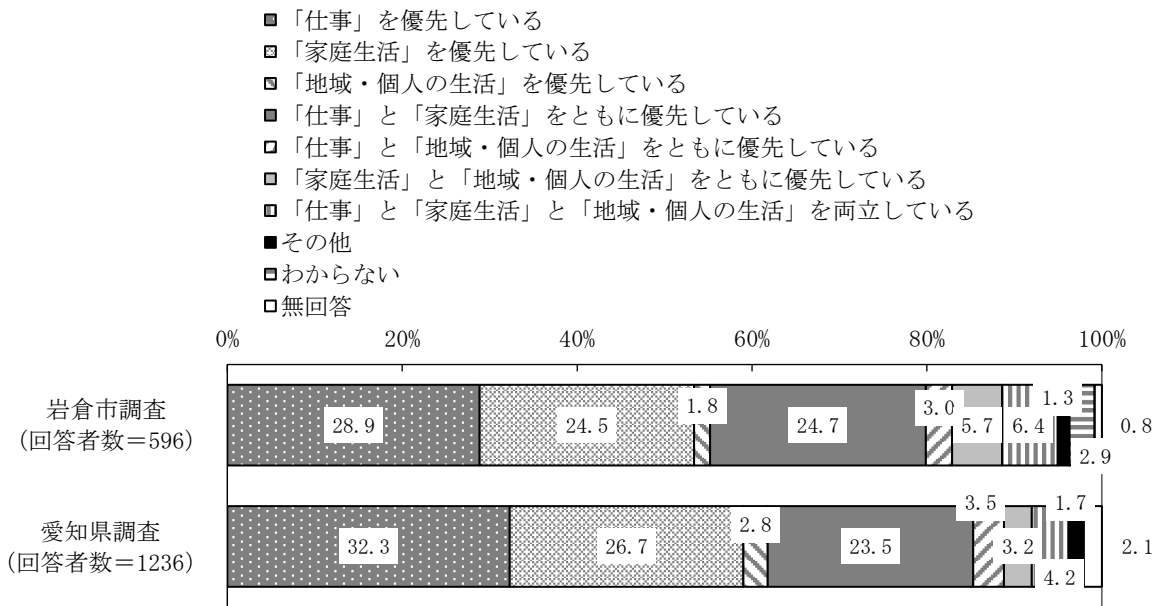
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の 30 歳代、40 歳代、50 歳代で『仕事』を優先している」の割合が高く、5割を超えています。また、女性の 30 歳代で『家庭生活』を優先している」の割合が高く、約 4割となっています。



### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」の割合が高くなっています。

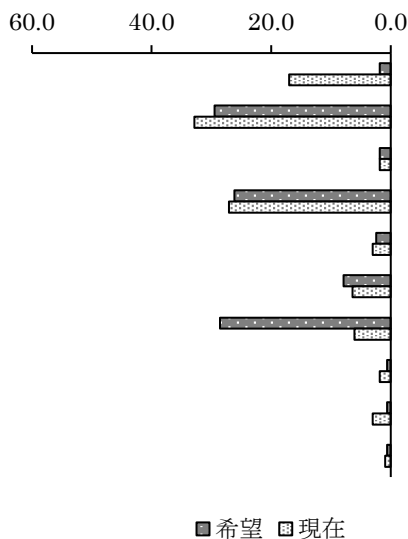


※愛知県調査に「わからない」の選択肢はありません。

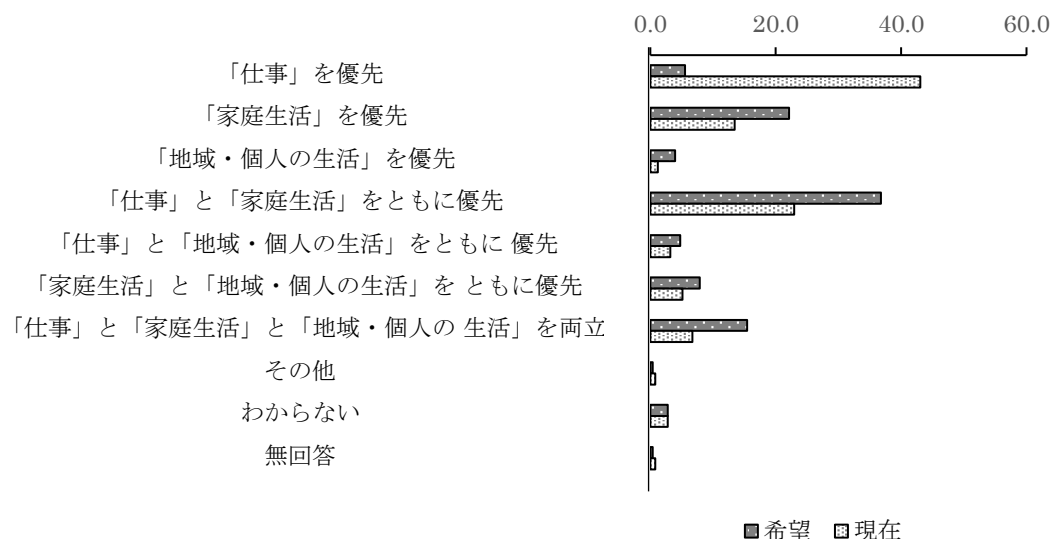
### 【希望と現在の状況との比較】

希望と現在の状況と比較すると、男性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」の割合が、希望、現在の状況ともに高くなっていますが、現在の状況として「『仕事』を優先」の割合が高くなっています。女性では、希望として「『家庭生活』を優先」「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を両立」の割合が高くなっていますが、現在の状況として「『家庭生活』を優先」「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」「『仕事』を優先」の割合が高くなっています。

#### 【女性】



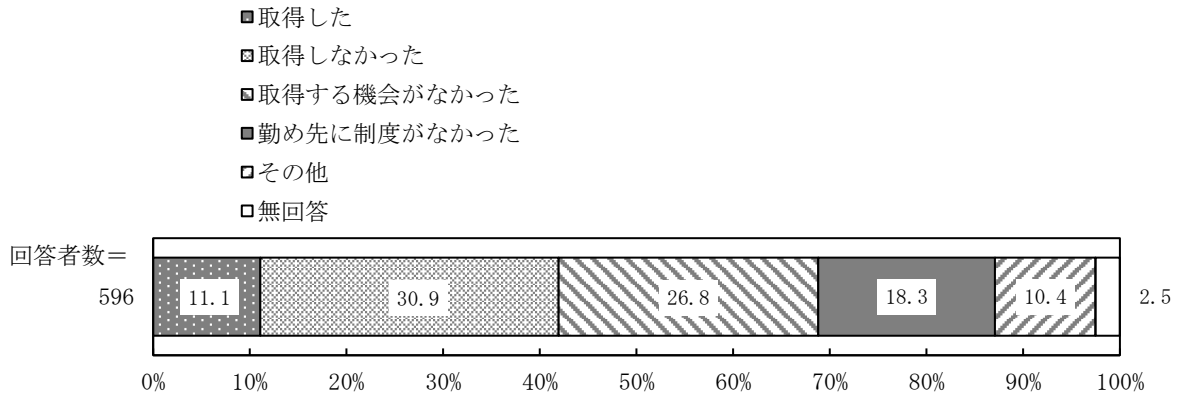
#### 【男性】



問9 あなたは、「育児休暇」や「介護休暇」を取得したことはありますか。  
(〇は1つ)

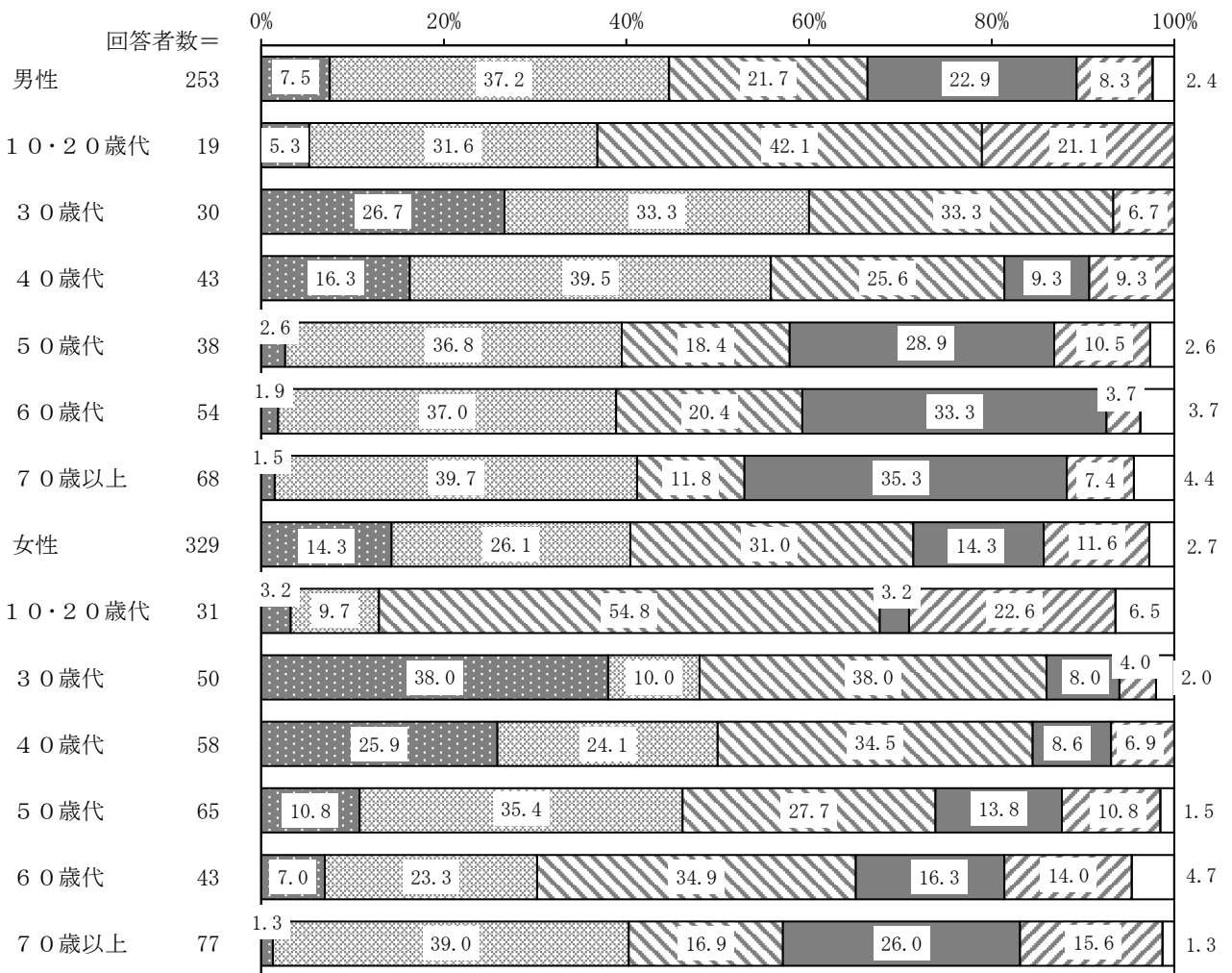
・A 育児休暇

「取得した」の割合が11.1%となっています。「取得しなかった」の割合が30.9%と最も高く、次いで「取得する機会がなかった」の割合が26.8%となっています。



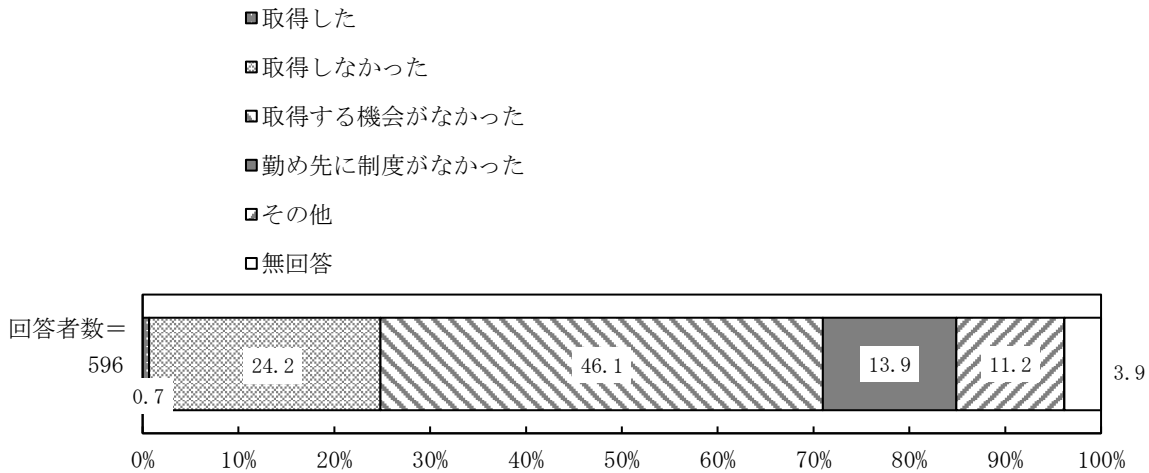
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男女ともに30歳代、40歳代で「取得した」の割合が高くなっており、女性の30歳代の38.0%が最も高くなっています。



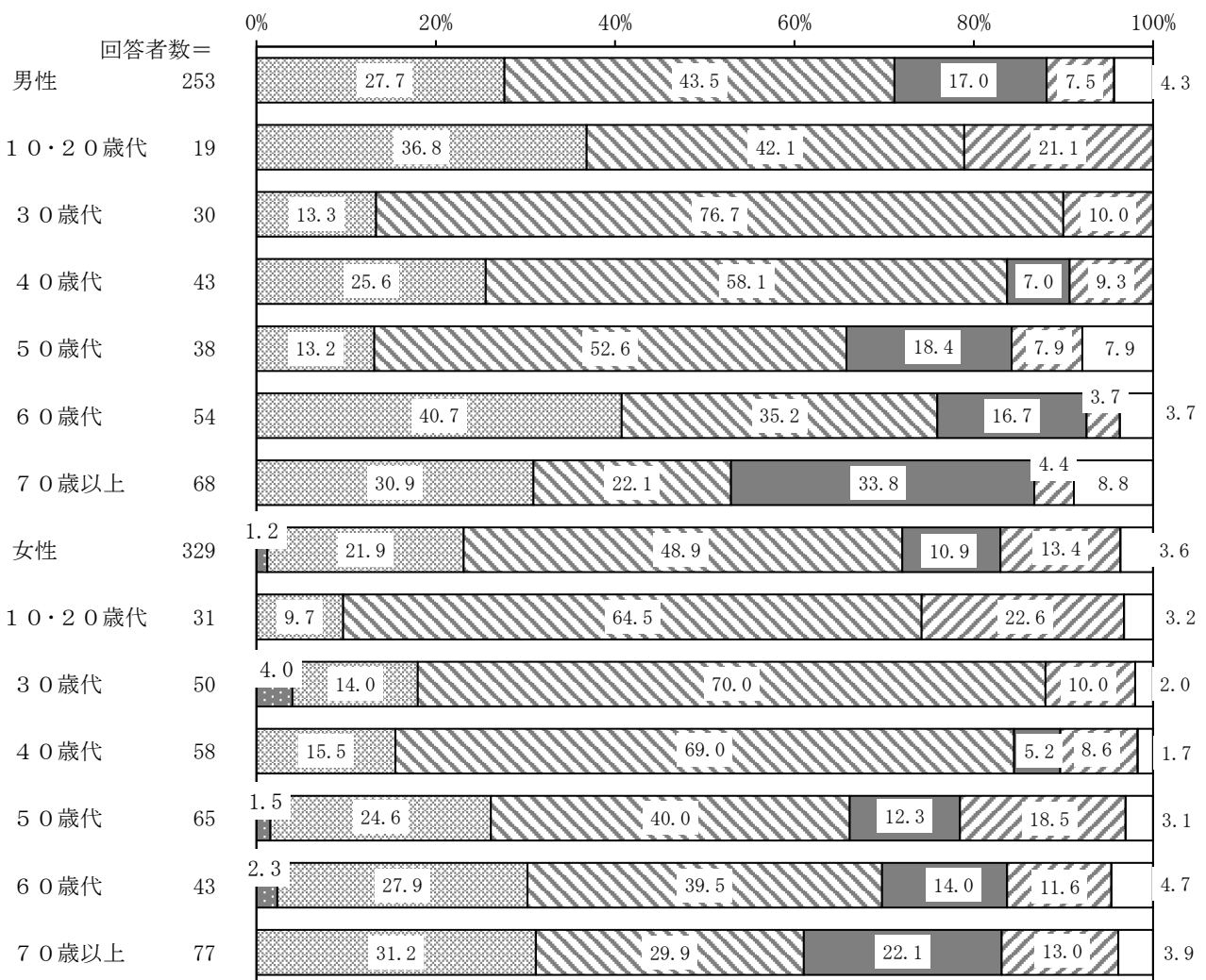
・ B 介護休暇

「取得した」の割合が 0.7%となっています。「取得する機会が無かった」の割合が 46.1%と最も高く、次いで「取得しなかった」の割合が 24.2%となっています。



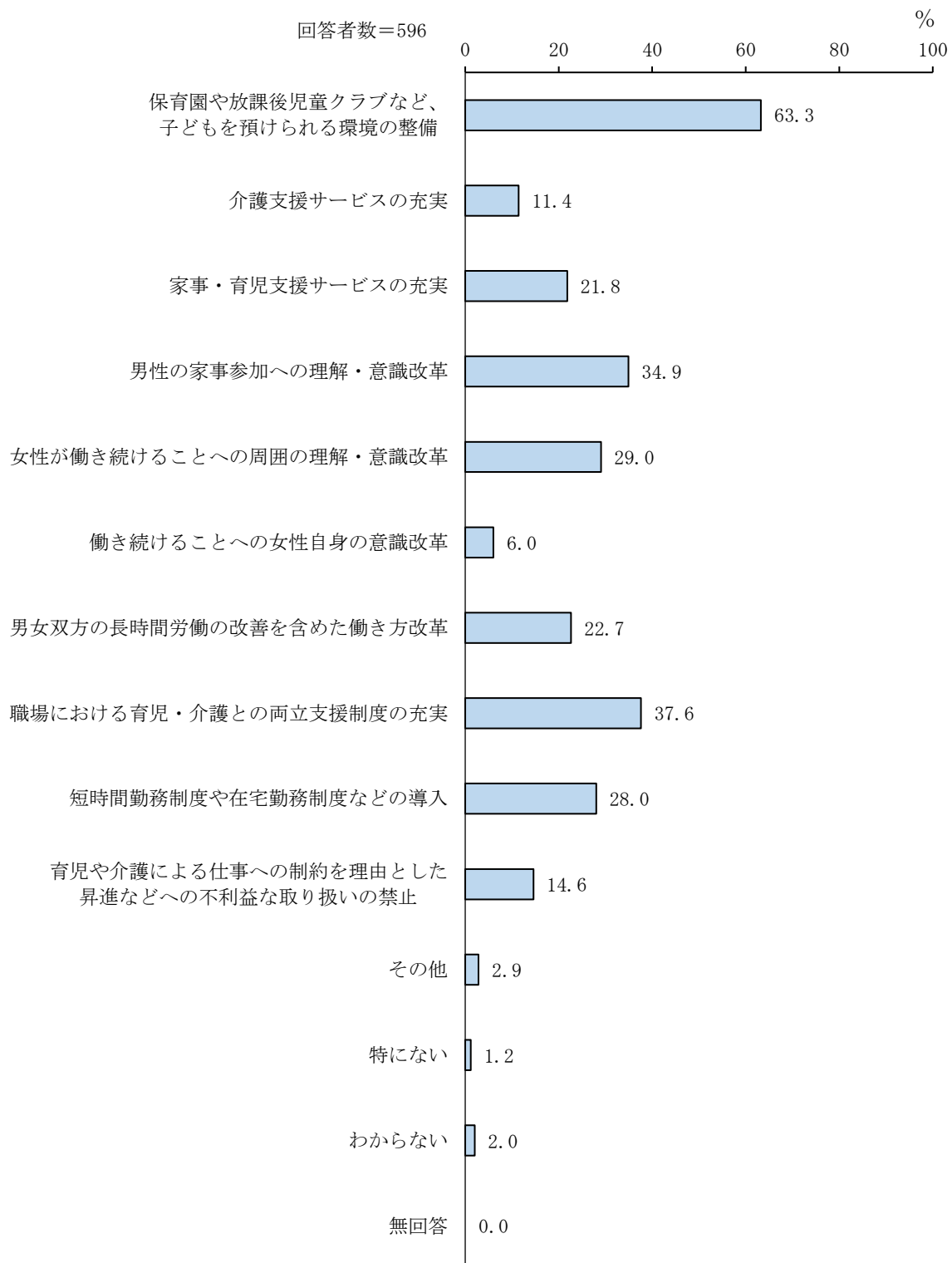
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の 30 歳代、50 歳代、60 歳代で「取得した」の割合が高くなっています。



問10 あなたは、女性が出産後に同じ職場に復帰し働き続けるために、家庭・職場・社会において何が重要だと思いますか。  
(〇は3つまで)

「保育園や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が63.3%と最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が37.6%、「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が34.9%となっています。



【性・年齢別】

「保育園や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が最も高く、5割を超えています。性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代から70歳以上で「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が高く4割を超えています。また、男性の70歳以上、女性の30歳代、50歳代以上で「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が高く4割を超えています。

単位：%

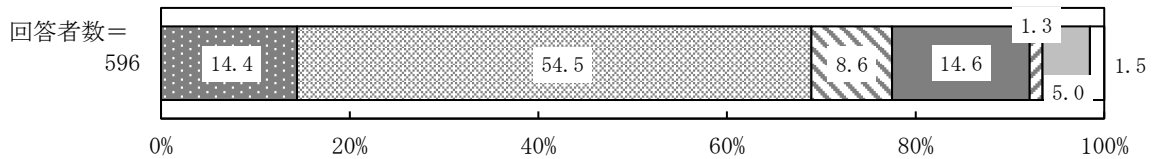
区分	有効回答数(件)	保育園や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
男性 10・20歳代	19	89.5	10.5	42.1	26.3	26.3	0.0	10.5
30歳代	30	60.0	10.0	43.3	33.3	23.3	6.7	30.0
40歳代	43	79.1	11.6	16.3	30.2	27.9	4.7	16.3
50歳代	38	65.8	13.2	26.3	21.1	28.9	7.9	15.8
60歳代	54	57.4	11.1	27.8	35.2	31.5	5.6	20.4
70歳以上	68	58.8	14.7	20.6	19.1	27.9	8.8	20.6
女性 10・20歳代	31	58.1	0.0	35.5	35.5	35.5	0.0	38.7
30歳代	50	68.0	2.0	18.0	38.0	20.0	2.0	26.0
40歳代	58	65.5	3.4	15.5	43.1	22.4	3.4	32.8
50歳代	65	61.5	10.8	16.9	44.6	36.9	4.6	12.3
60歳代	43	53.5	20.9	23.3	41.9	34.9	7.0	27.9
70歳以上	77	64.9	15.6	10.4	44.2	31.2	11.7	22.1

区分	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱いの禁止	その他	特になし	わからない	無回答
男性 10・20歳代	26.3	21.1	15.8	0.0	0.0	10.5	0.0
30歳代	13.3	33.3	20.0	0.0	3.3	0.0	0.0
40歳代	37.2	20.9	18.6	4.7	4.7	0.0	0.0
50歳代	39.5	42.1	15.8	0.0	2.6	0.0	0.0
60歳代	38.9	24.1	18.5	0.0	3.7	3.7	0.0
70歳以上	44.1	19.1	16.2	5.9	1.5	2.9	0.0
女性 10・20歳代	35.5	22.6	19.4	3.2	0.0	0.0	0.0
30歳代	44.0	40.0	20.0	6.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	29.3	37.9	10.3	3.4	0.0	1.7	0.0
50歳代	47.7	27.7	10.8	4.6	0.0	1.5	0.0
60歳代	44.2	25.6	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	40.3	24.7	10.4	1.3	0.0	0.0	0.0

**問 11 あなたは、出産や育児で離職した女性が再就職を考えたとき、どのような働き方を望むと思いますか。(〇は1つ)**

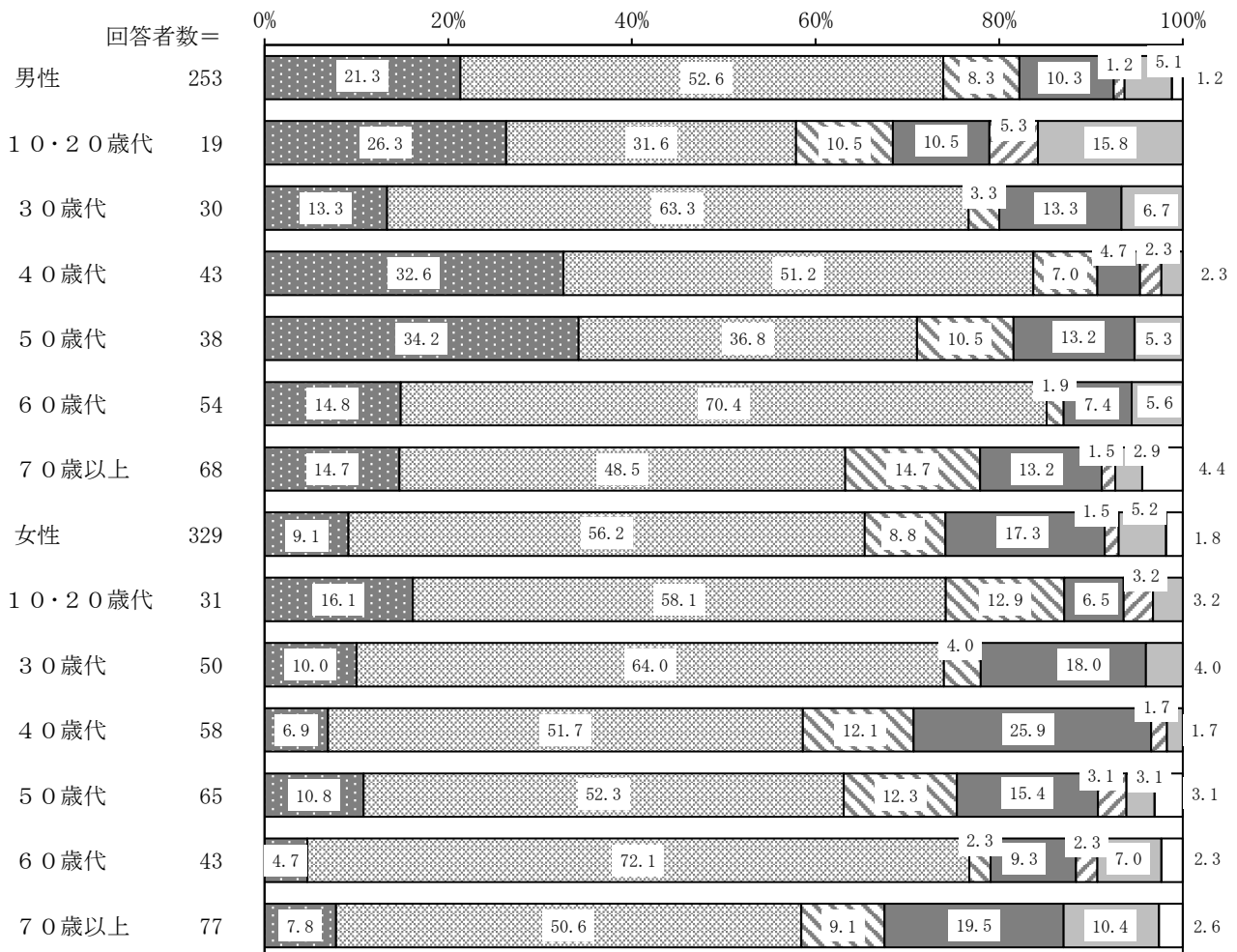
「仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい」の割合が54.5%と最も高く、次いで「働く時間や場所を考え、パート・アルバイトとして働きたい」の割合が14.6%、「これまでの知識や経験を生かして、正社員として働きたい」の割合が14.4%となっています。

- これまでの知識や経験を生かして、正社員として働きたい
- ▨ 仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい
- これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働きたい
- 働く時間や場所を考え、パート・アルバイトとして働きたい
- その他
- わからない
- 無回答



**【性・年齢別】**

性・年齢別でみると、他に比べ、男女ともに60歳代で「仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい」の割合が高く、7割を超えています。また、男性の40歳代、50歳代で「これまでの知識や経験を生かして、正社員として働きたい」の割合が高く、3割を超えています。

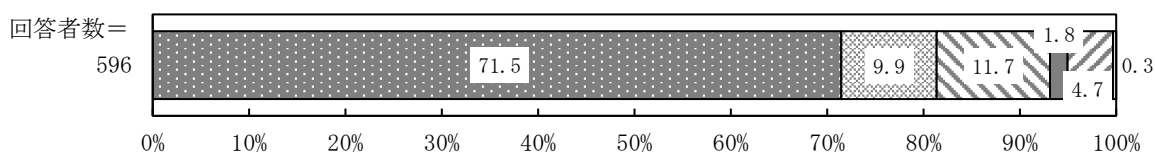


## 6 子育てについて

### 問12 あなたは、子どもをどのように育てたいと思いますか。(〇は1つ)

「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重して育てたい」の割合が71.5%と最も高くなっています。

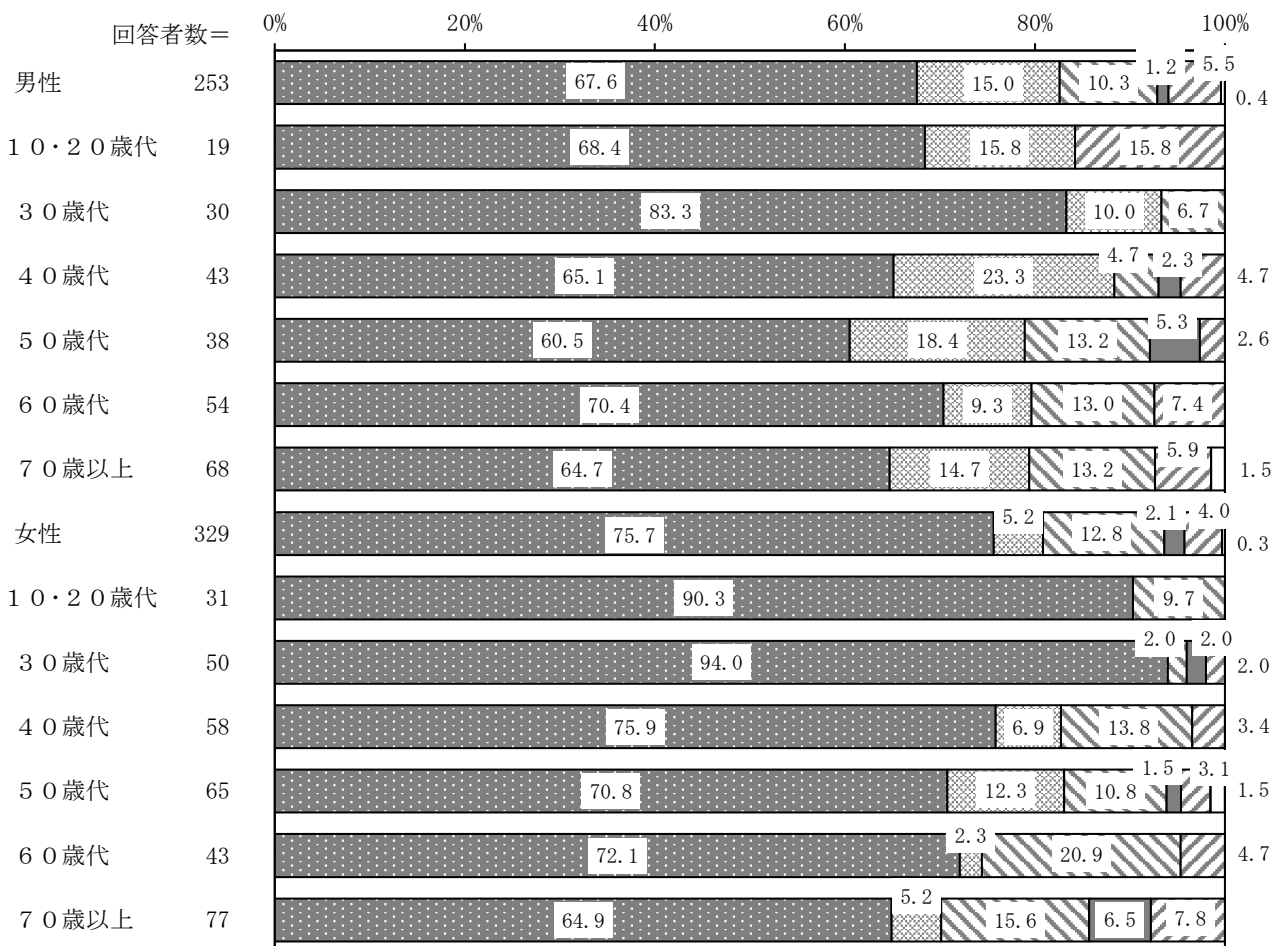
- 男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重して育てたい
- ▨ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい
- ▧ どちらともいえない
- その他
- わからない
- 無回答



#### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の10・20歳代、30歳代で「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重して育てたい」の割合が高く、9割を超えています。

また、男性の40歳代、50歳代で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる」の割合が高く、約2割となっています。



## 7 地域社会について

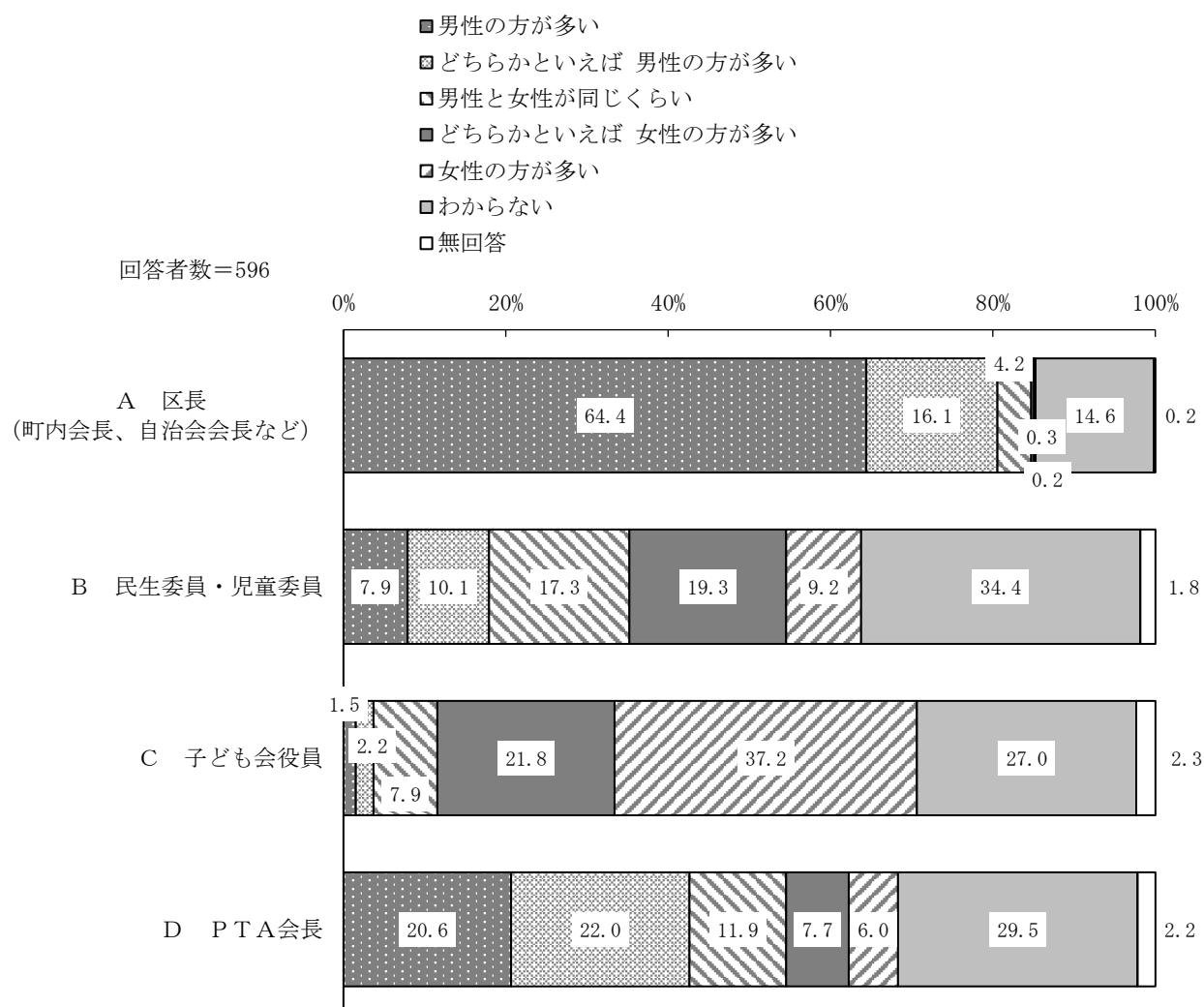
問13 あなたの住む地域では、次にあげる役割は「男性」と「女性」のどちらが担うことが多いですか。  
(AからDについてそれぞれ○を1つ)

区長（町内会長、自治会会長など）は、「男性の方が多い」の割合が最も多く、64.4%となっています。

民生委員・児童委員は、「どちらかといえば女性の方が多い」の割合が最も高く 19.3%、次に「男性と女性が同じくらい」で 17.3%となっています。

子ども会役員は、「女性の方が多い」の割合が最も高く 37.2%、次に「どちらかといえば女性の方が多い」が 21.8%となっています。

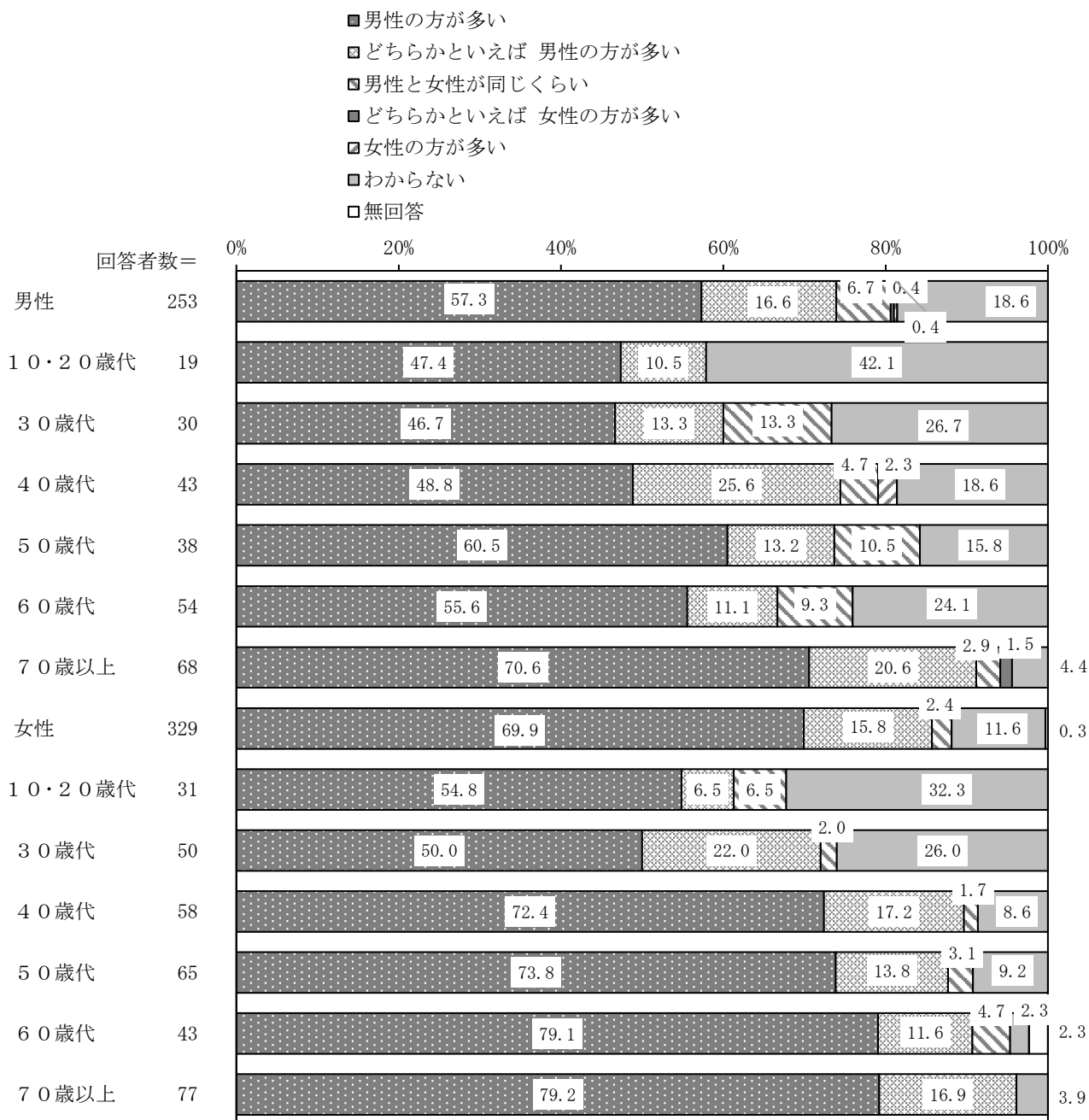
P T A会長については、「どちらかといえば男性の方が多い」の割合が最も高く 22.0%、次に「男性の方が多い」が 20.6%となっています。



A 区長（町内会長、自治会会長など）

【性・年齢別】

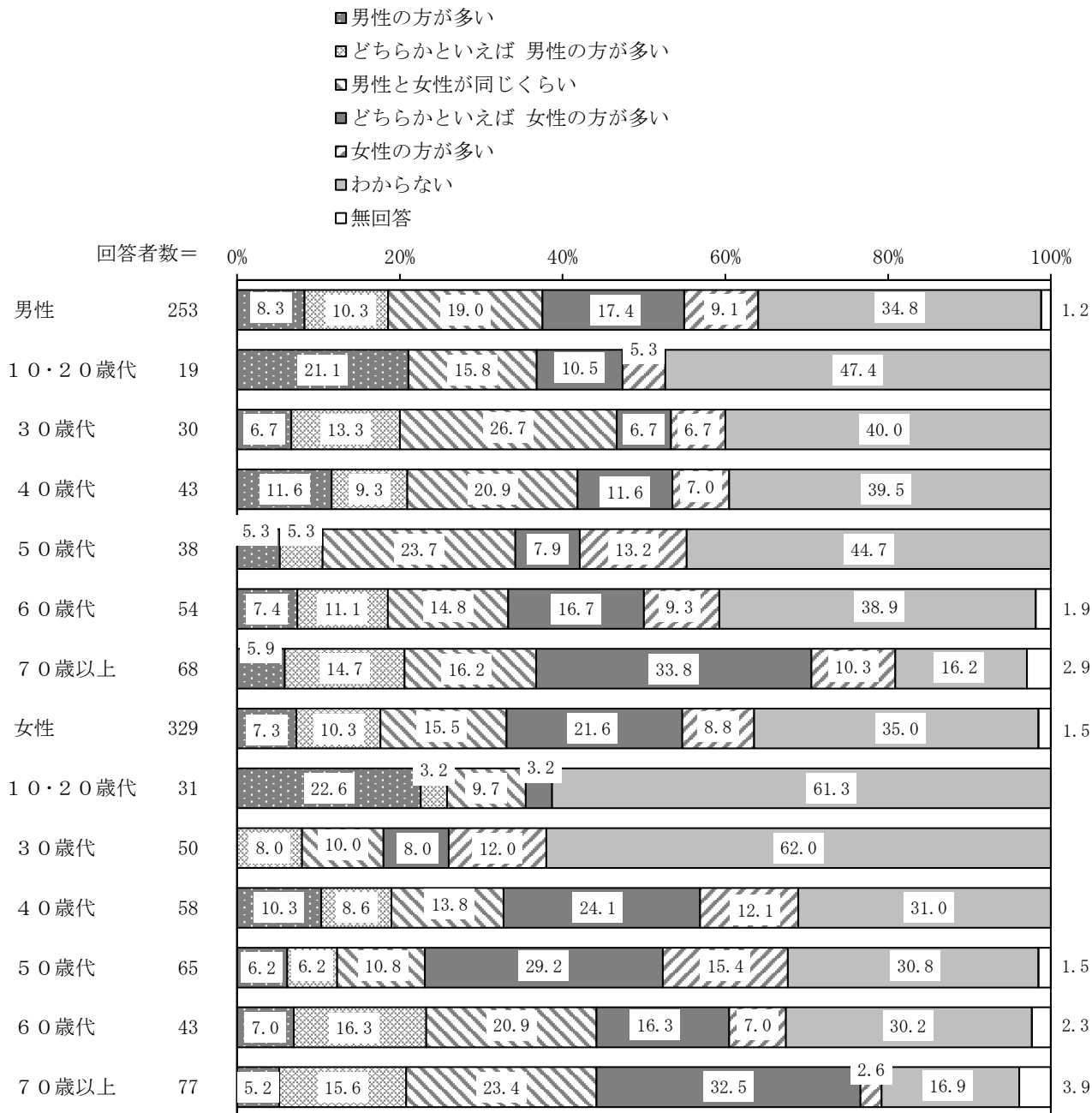
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60歳以上で「男性の方が多い」の割合が高く、約8割となっています。



## B 民生委員・児童委員

### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男女ともに70歳代以上で「どちらかといえば女性の方が多い」の割合が高く約3割となっています。

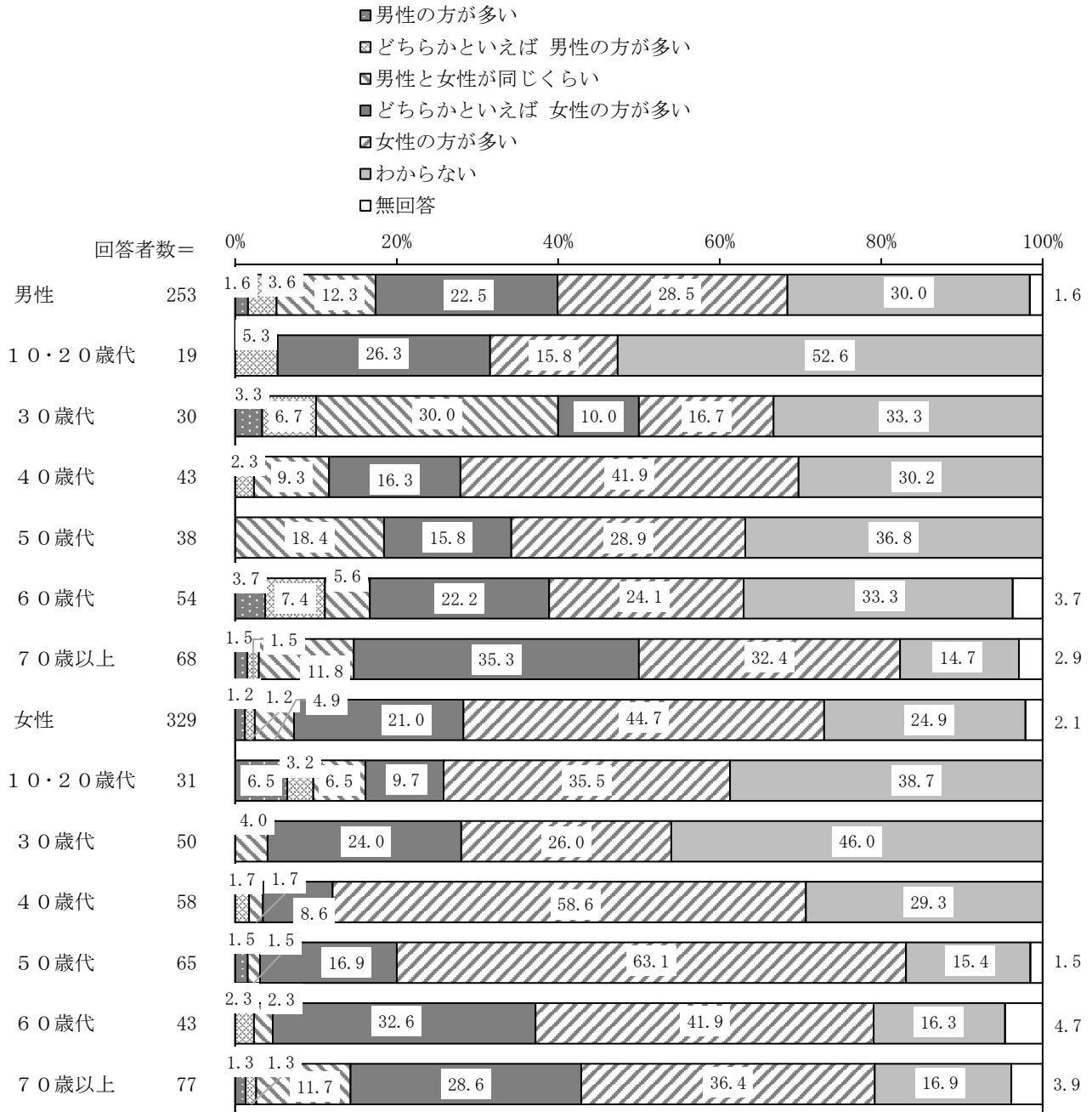


## C 子ども会役員

### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40歳代、50歳代で「女性の方が多い」の割合が高く約6割となっています。

また、男性の70歳以上で「どちらかといえば女性の方が多い」の割合が最も高く、35.3%となっています。



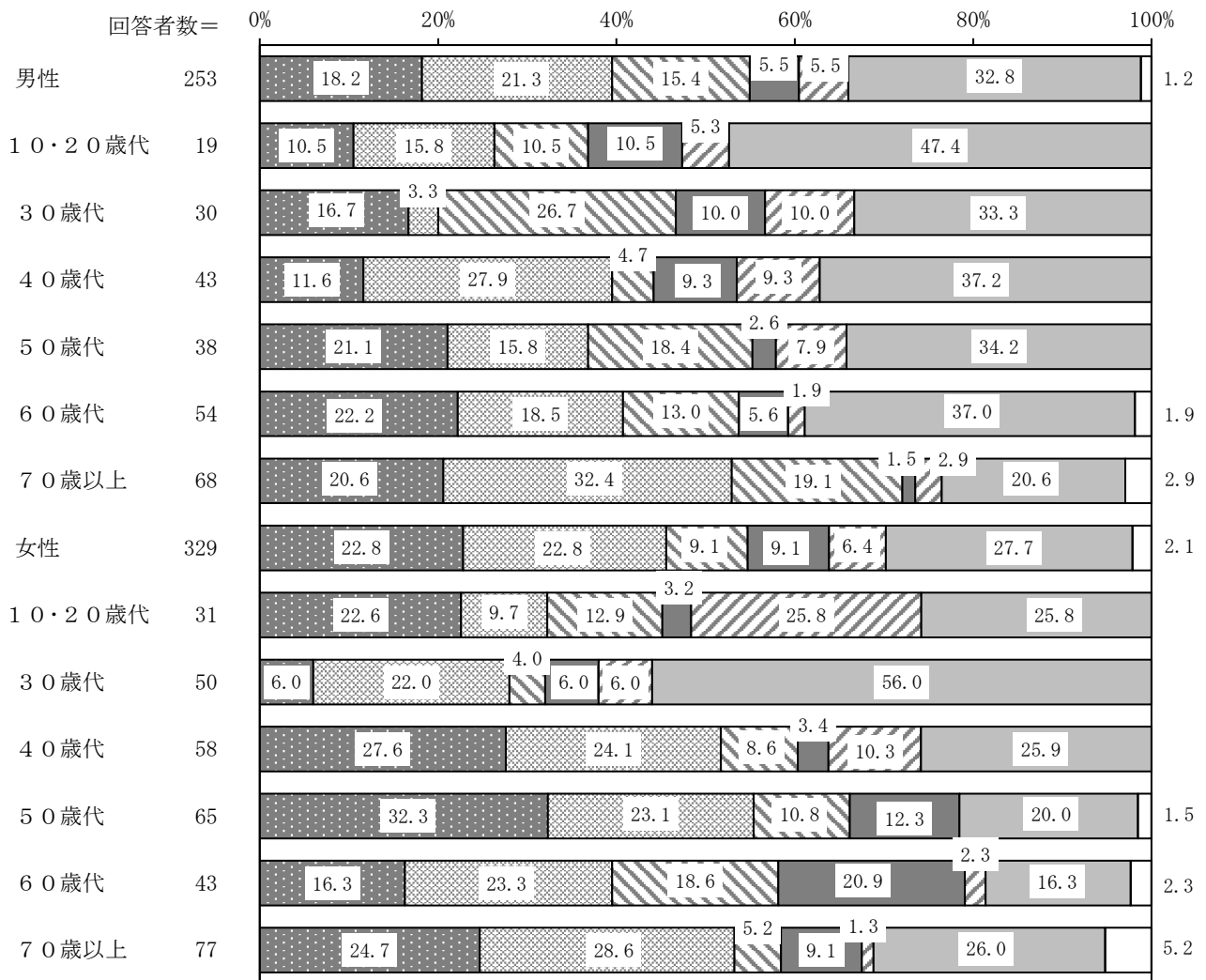
## D PTA会長

### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の70歳以上で「どちらかといえば男性の方が多し」の割合が高く約3割となっています。

また、女性の50歳代で「男性の方が多し」の割合が最も高く、約3割となっています。

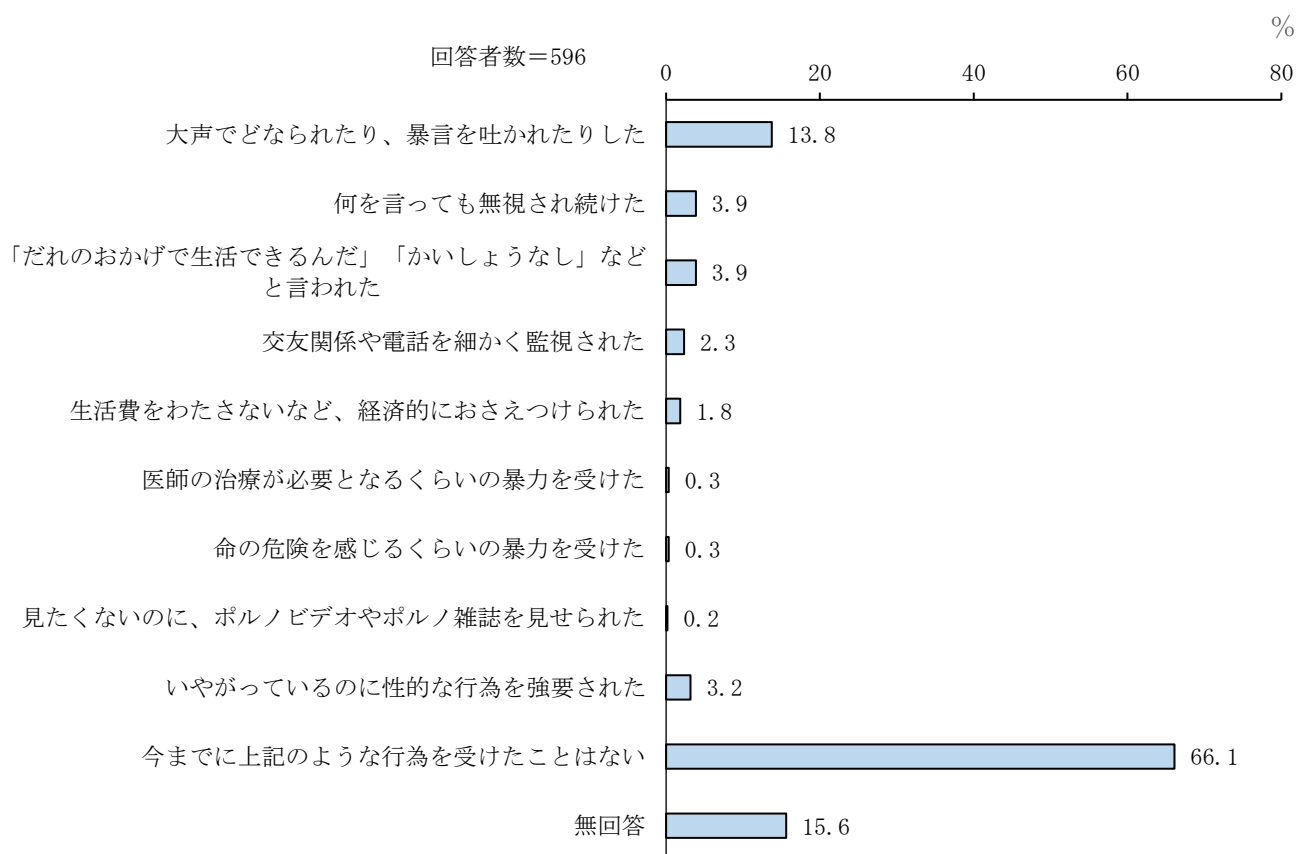
- 男性の方が多し
- ▨ どちらかといえば 男性の方が多し
- ▩ 男性と女性が同じくらい
- どちらかといえば 女性の方が多し
- 女性の方が多し
- わからない
- 無回答



## 8 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問14 配偶者（パートナー）や交際相手がいる、またはいた方にお聞きします。これまでにあなたの配偶者（パートナー）や交際相手から次にあげる行為を受けたことはありますか。（〇はいくつでも）

「今まで上記のような行為を受けたことはない」の割合が66.1%と最も高く、次いで「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が13.8%となっています。



【性・年齢別】

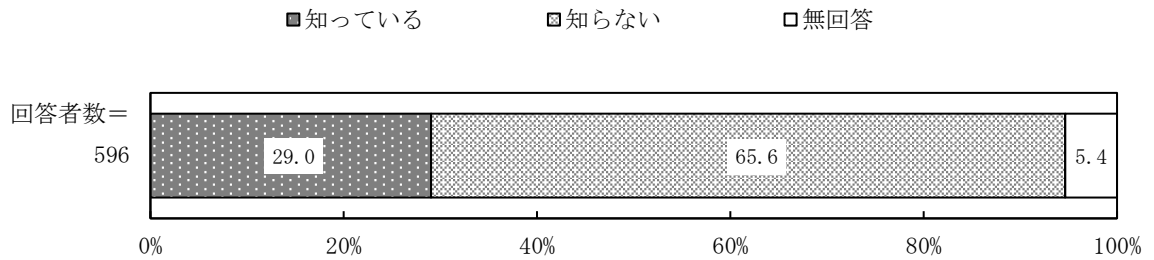
性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代以上で「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が高く約2割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした	何を言っても無視され続けた	「だれのおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」などと言われた	交友関係や電話を細かく監視された	生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた	医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	いやがっているのに性的な行為を強要された	今までに上記のような行為を受けたことはない	無回答
男性 10・20歳代	19	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	68.4	21.1
30歳代	30	3.3	6.7	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	16.7
40歳代	43	16.3	7.0	0.0	4.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	65.1	16.3
50歳代	38	5.3	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	76.3	18.4
60歳代	54	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	74.1	20.4
70歳以上	68	7.4	0.0	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.6	19.1
女性 10・20歳代	31	12.9	12.9	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	54.8	25.8
30歳代	50	12.0	6.0	6.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	8.0	72.0	6.0
40歳代	58	25.9	1.7	6.9	5.2	5.2	0.0	0.0	0.0	3.4	63.8	6.9
50歳代	65	18.5	4.6	10.8	3.1	1.5	3.1	0.0	0.0	1.5	63.1	12.3
60歳代	43	18.6	4.7	7.0	2.3	4.7	0.0	0.0	0.0	4.7	65.1	11.6
70歳以上	77	20.8	2.6	5.2	3.9	1.3	0.0	0.0	1.3	7.8	63.6	10.4

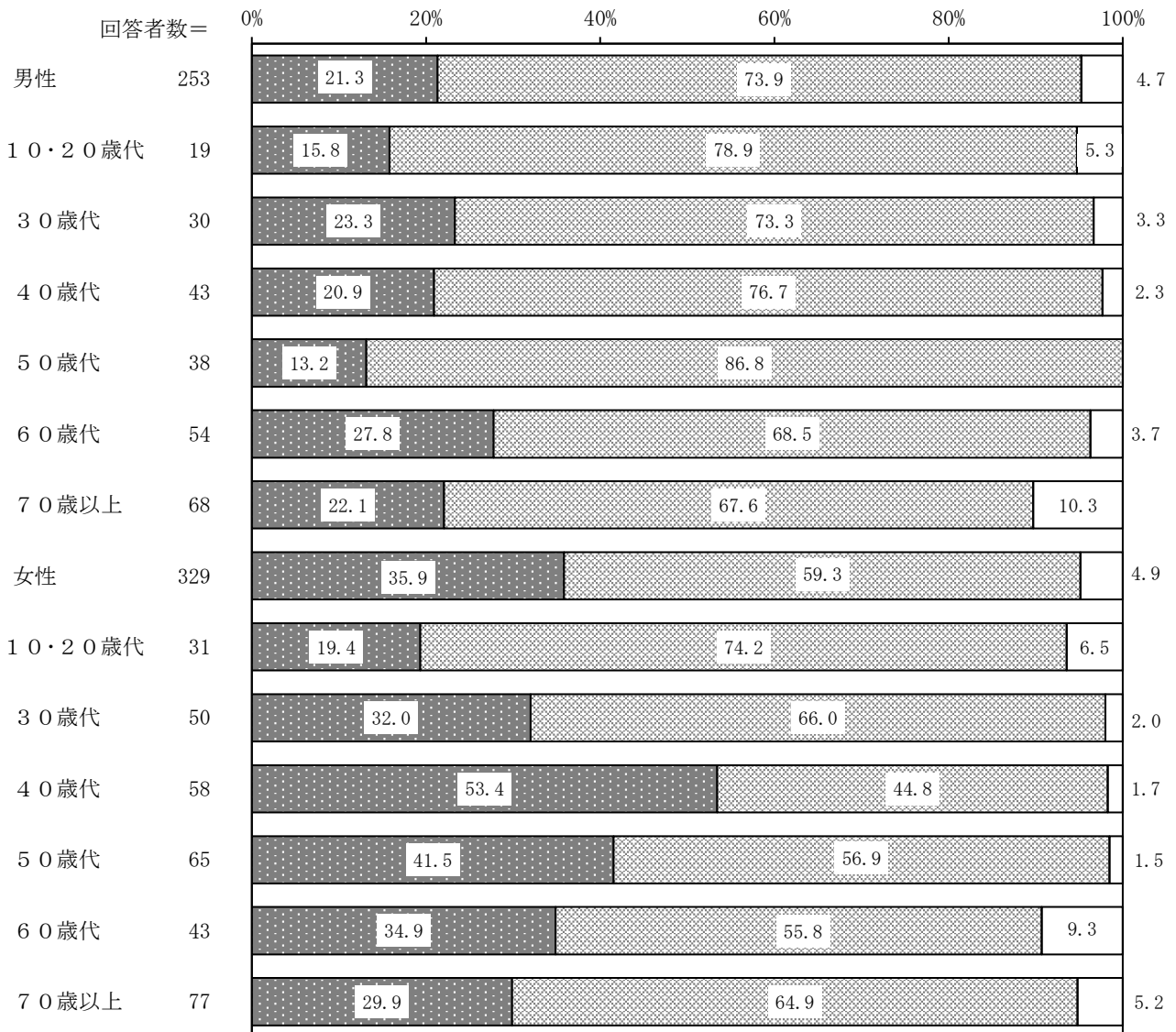
問 15 あなたは、配偶者（パートナー）や交際相手からの暴力についての相談窓口を知っていますか。（〇は1つ）

「知っている」の割合が29.0%、「知らない」の割合が65.6%となっています。



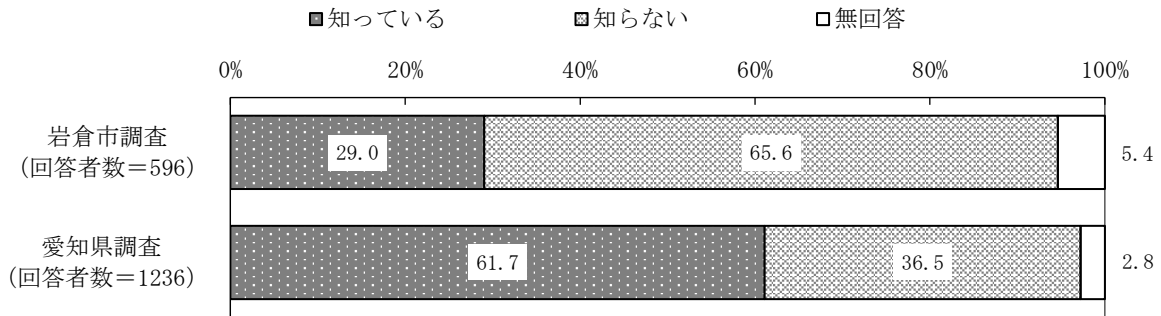
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40歳代で「知っている」の割合が高く、約5割となっています。



### 【愛知県調査との比較】

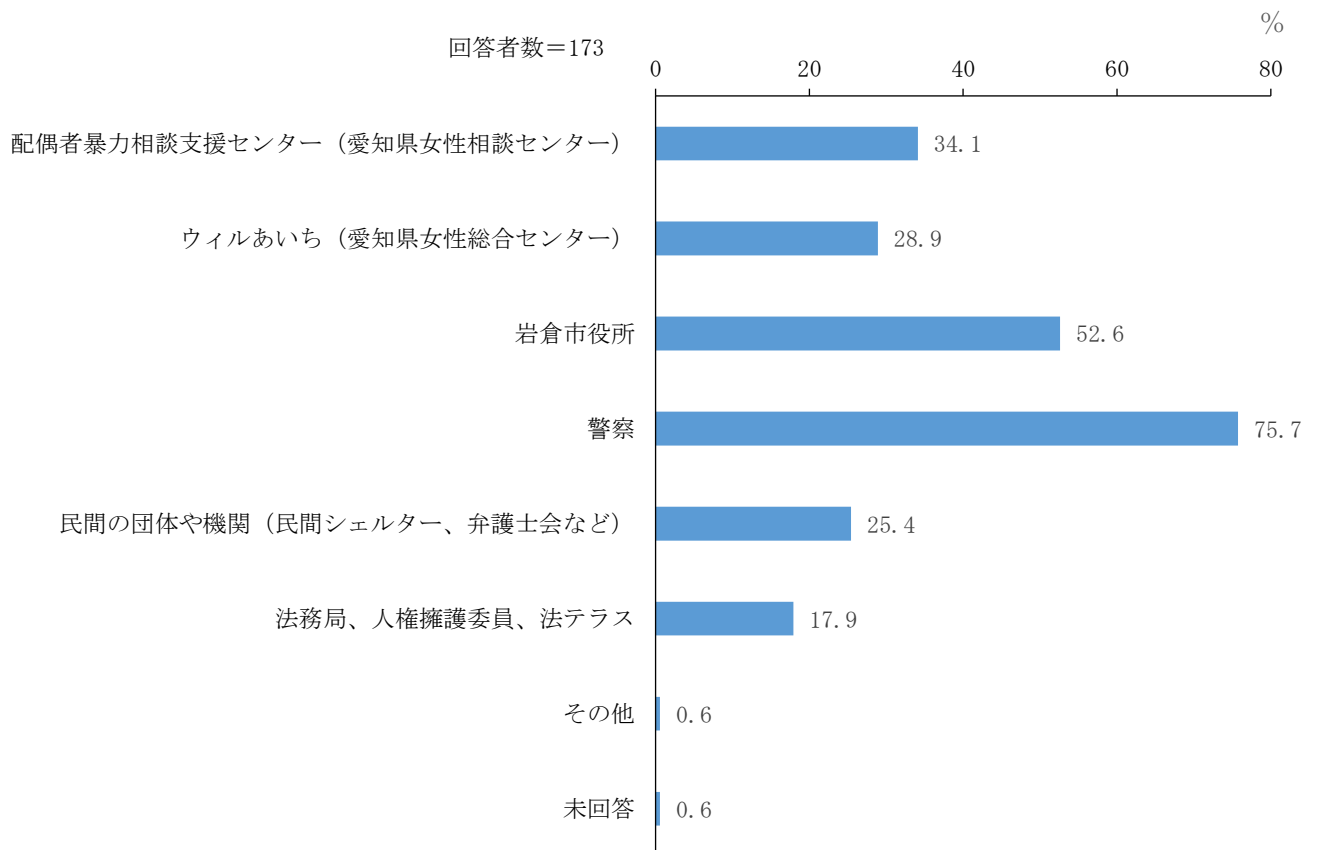
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「知らない」の割合が高くなっています。



問 15 で「知っている」と回答した方にお聞きします。

### 問 16 どの相談窓口を知っていますか。(〇はいくつでも)

「警察」の割合が 75.7%と最も高く、次いで「岩倉市役所」の割合が 52.6%、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」の割合が 34.1%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30歳代で「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」を知っている割合が高く、5割半ばとなっています。また、男性の10・20歳代、40歳代、70歳以上で「岩倉市役所」の割合が高く、6割を超えています。

単位：％

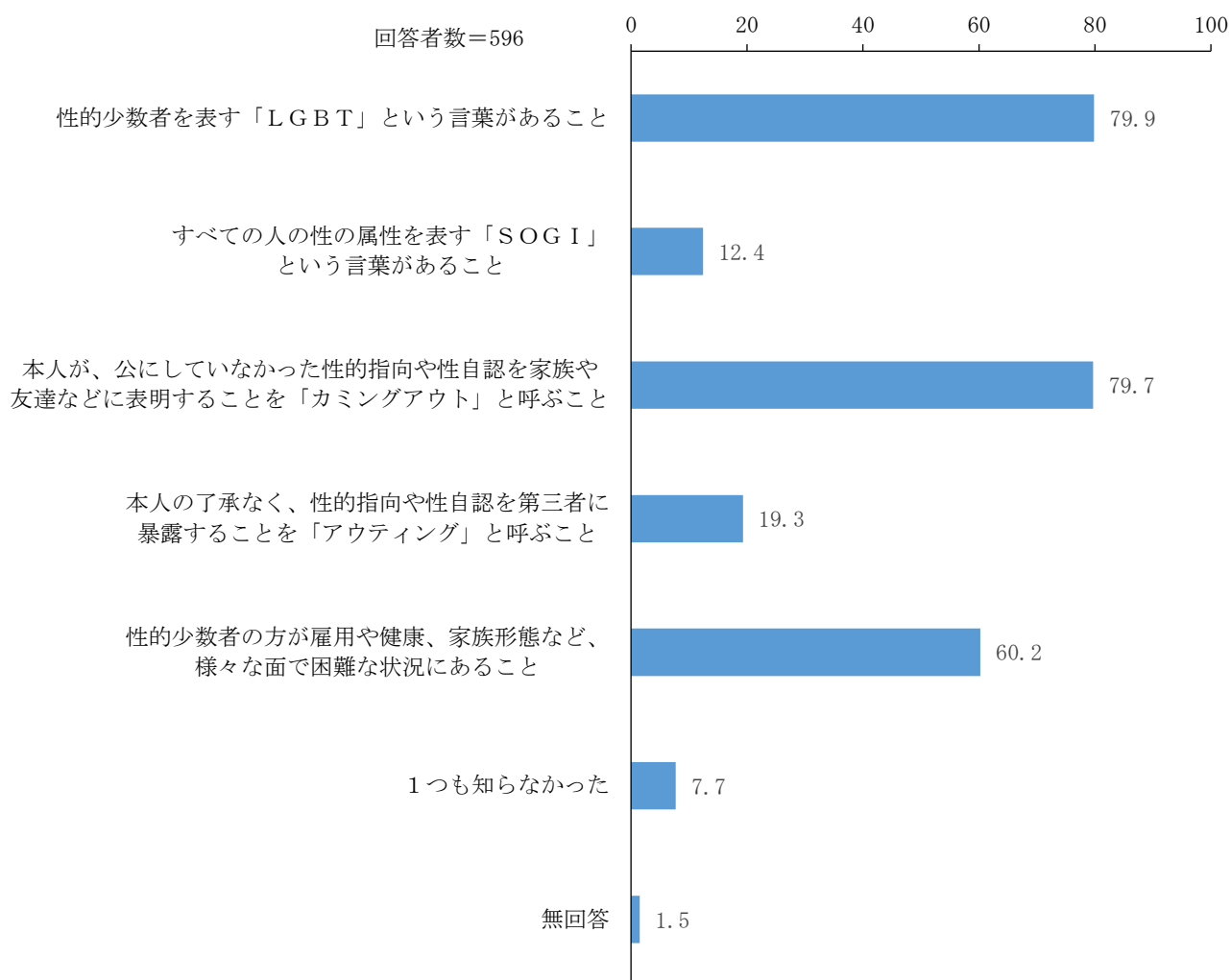
区分	有効回答数 (件)	配偶者暴力相談支援センター (愛知県女性相談センター)	ウイルあいち (愛知県女性総合センター)	岩倉市役所	警察	民間の団体や機関 (民間シェルター、弁護士会 など)	法務局、人権擁護委員、 法テラス	その他	無回答
男性 10・20歳代	3	33.3	—	66.7	66.7	—	—	—	—
30歳代	7	57.1	14.3	42.9	42.9	—	14.3	—	—
40歳代	9	11.1	11.1	66.7	55.6	22.2	22.2	—	—
50歳代	5	20.0	20.0	20.0	100.0	40.0	40.0	—	—
60歳代	15	26.7	26.7	46.7	93.3	13.3	20.0	—	—
70歳以上	15	13.3	13.3	73.3	66.7	26.7	33.3	—	—
女性 10・20歳代	6	33.3	16.7	66.7	100.0	33.3	33.3	—	—
30歳代	16	43.8	31.3	31.3	75.0	43.8	18.8	—	—
40歳代	31	29.0	35.5	41.9	83.9	16.1	9.7	—	—
50歳代	27	40.7	44.4	59.3	74.1	33.3	14.8	—	—
60歳代	15	46.7	33.3	53.3	73.3	33.3	13.3	6.7	—
70歳以上	23	43.5	26.1	60.9	69.6	26.1	13.0	—	4.3

## 9 性的少数者について

問 17 あなたは、性的少数者の方に関連する次あげる言葉や状況を知っていますか。  
(AからEについてそれぞれ○を1つ)

「性的少数者を表す『LGBT』という言葉があること」を知っている割合が79.9%と最も高く、次いで「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を家族や友達などに表明することを『カミングアウト』と呼ぶこと」を知っている割合が79.7%、「性的少数者の方が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」を知っている割合が60.2%となっています。

%



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20歳代、30歳代、40歳代で「性的少数者を表す「LGBT」という言葉があること」を知っている割合が高く9割を超えています。

また、男性の40歳代、50歳代、女性の10・20歳代、30歳代で「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を家族や友達などに表明することを『カミングアウト』と呼ぶこと」を知っている割合が高く9割を超えています。

単位：%

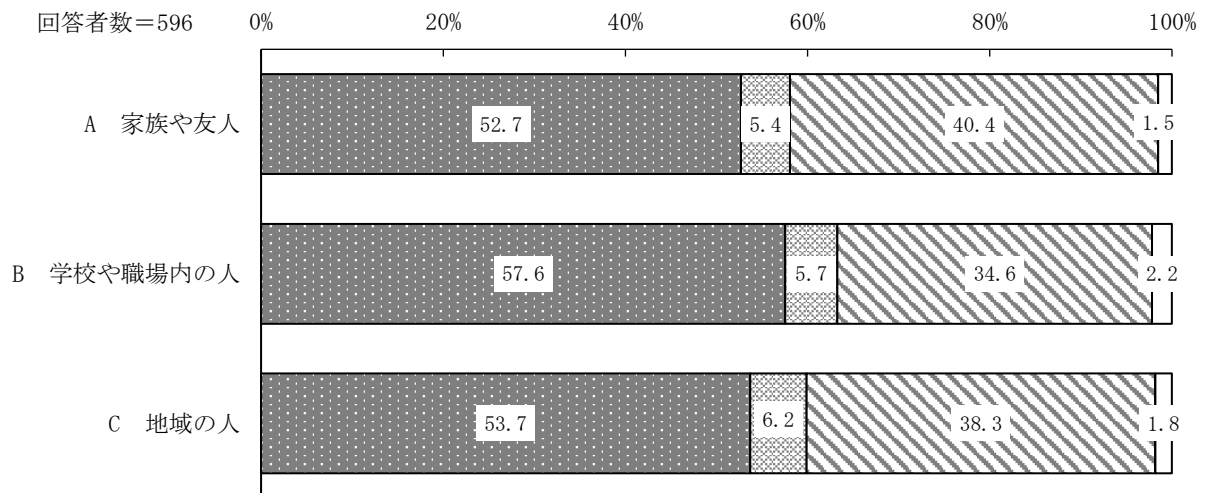
区分	有効回答数(件)	性的少数者を表す「LGBT」という言葉があること	すべての人の性の属性を表す「SOGI」という言葉があること	本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を家族や友達などに表明することを「カミングアウト」と呼ぶこと	本人の了承なく、性的指向や性自認を第三者に暴露することを「アウトイング」と呼ぶこと	性的少数者の方が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること	1つも知らなかった	無回答
男性 10・20歳代	19	84.2	26.3	78.9	31.6	63.2	5.3	0.0
30歳代	30	76.7	20.0	83.3	16.7	66.7	6.7	0.0
40歳代	43	83.7	7.0	90.7	27.9	60.5	4.7	9.3
50歳代	38	84.2	2.6	92.1	23.7	63.2	2.6	10.5
60歳代	54	75.9	16.7	74.1	16.7	53.7	11.1	1.9
70歳以上	68	70.6	11.8	47.1	5.9	41.2	14.7	2.9
女性 10・20歳代	31	90.3	3.2	93.5	19.4	64.5	6.5	0.0
30歳代	50	98.0	12.0	100.0	32.0	74.0	0.0	0.0
40歳代	58	91.4	8.6	86.2	32.8	69.0	5.2	0.0
50歳代	65	83.1	18.5	89.2	21.5	67.7	6.2	1.5
60歳代	43	72.1	18.6	86.0	14.0	69.8	9.3	4.7
70歳以上	77	67.5	10.4	64.9	6.5	49.4	14.3	1.3

問 18 あなたは、身近な人が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができますか。

(AからCについてそれぞれ○を1つ)

『B 学校や職場内の人』で「変わらず接することができる」の割合が最も高くなっています。

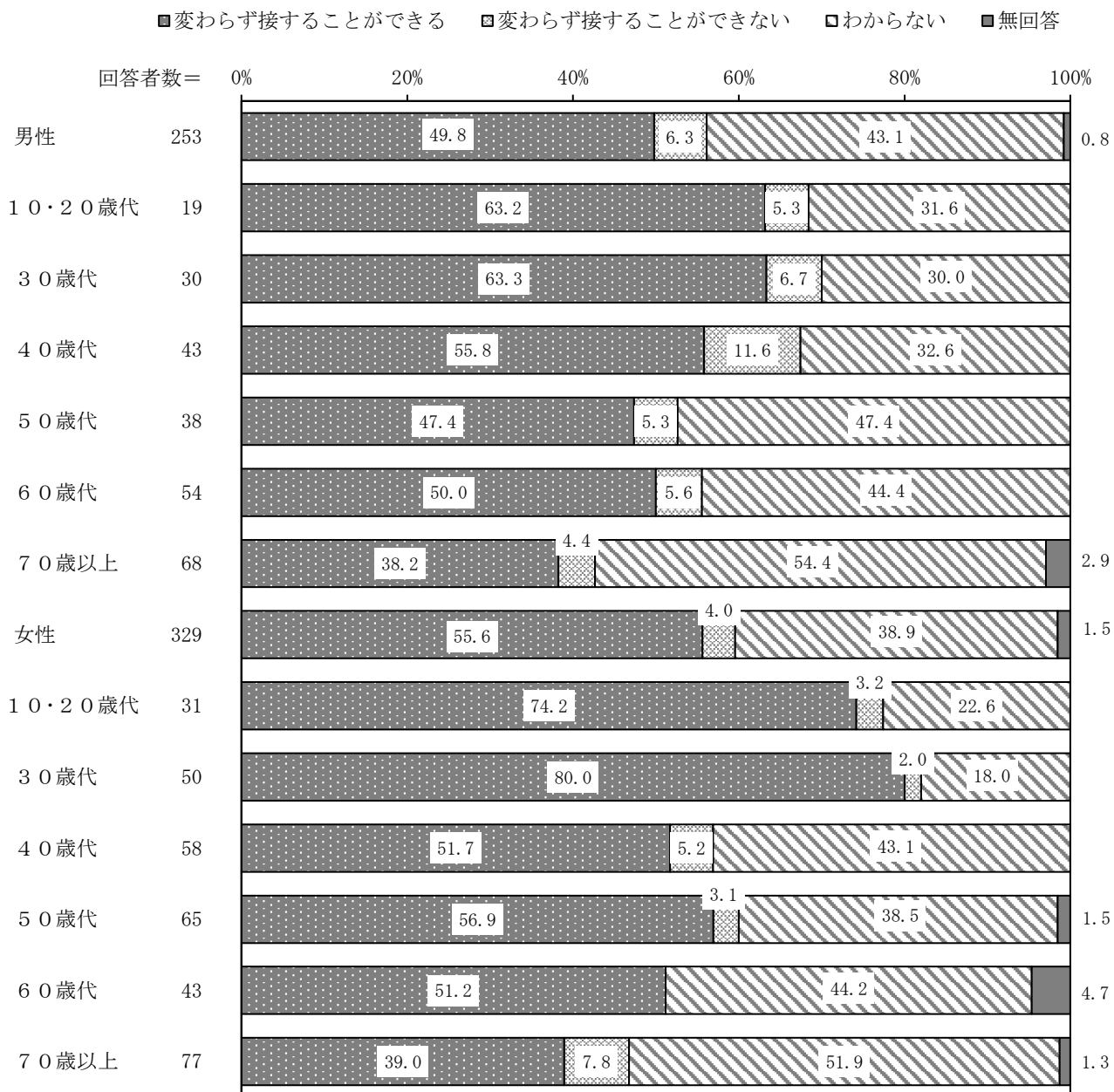
■ 変わらず接することができる □ 変わらず接することができない ▨ わからない □ 無回答



## A 家族や友人

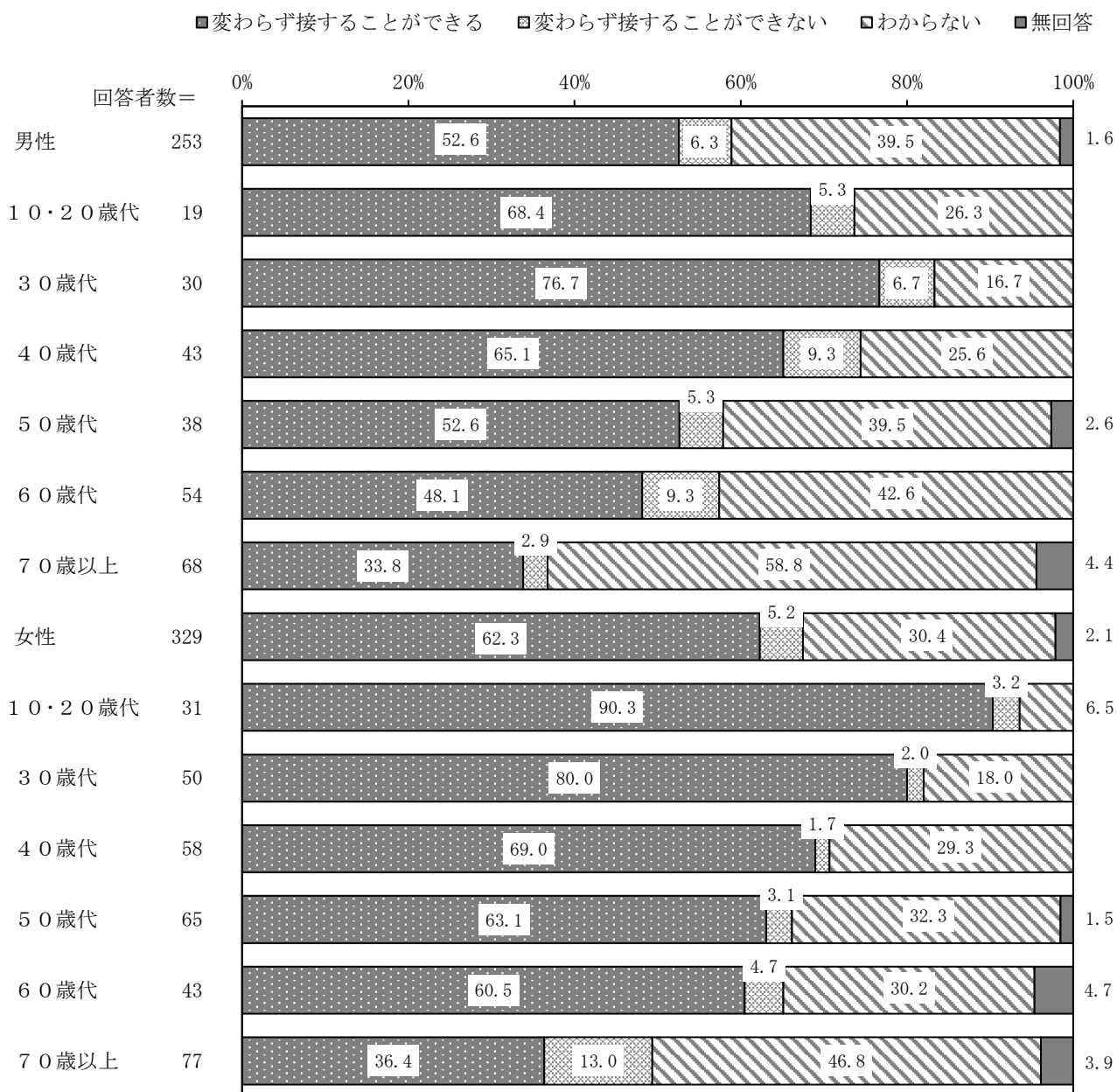
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20歳代、30歳代で「変わらず接することができる」の割合が高く、7割を超えています。



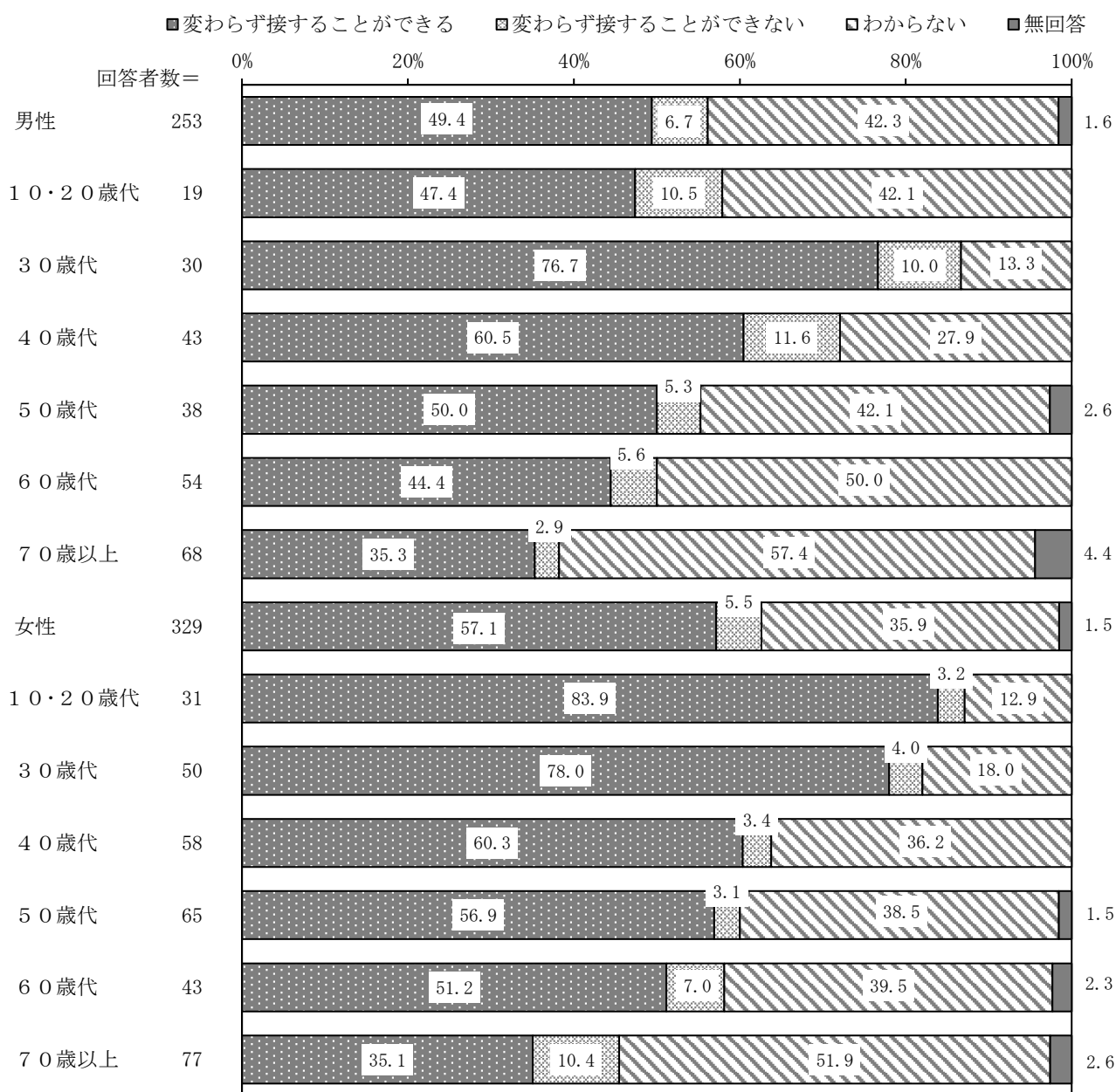
## B 学校や職場内の人

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30歳代、女性の10・20歳代、30歳代で「変わらず接することができる」の割合が高く、7割を超えています。



### C 地域の人

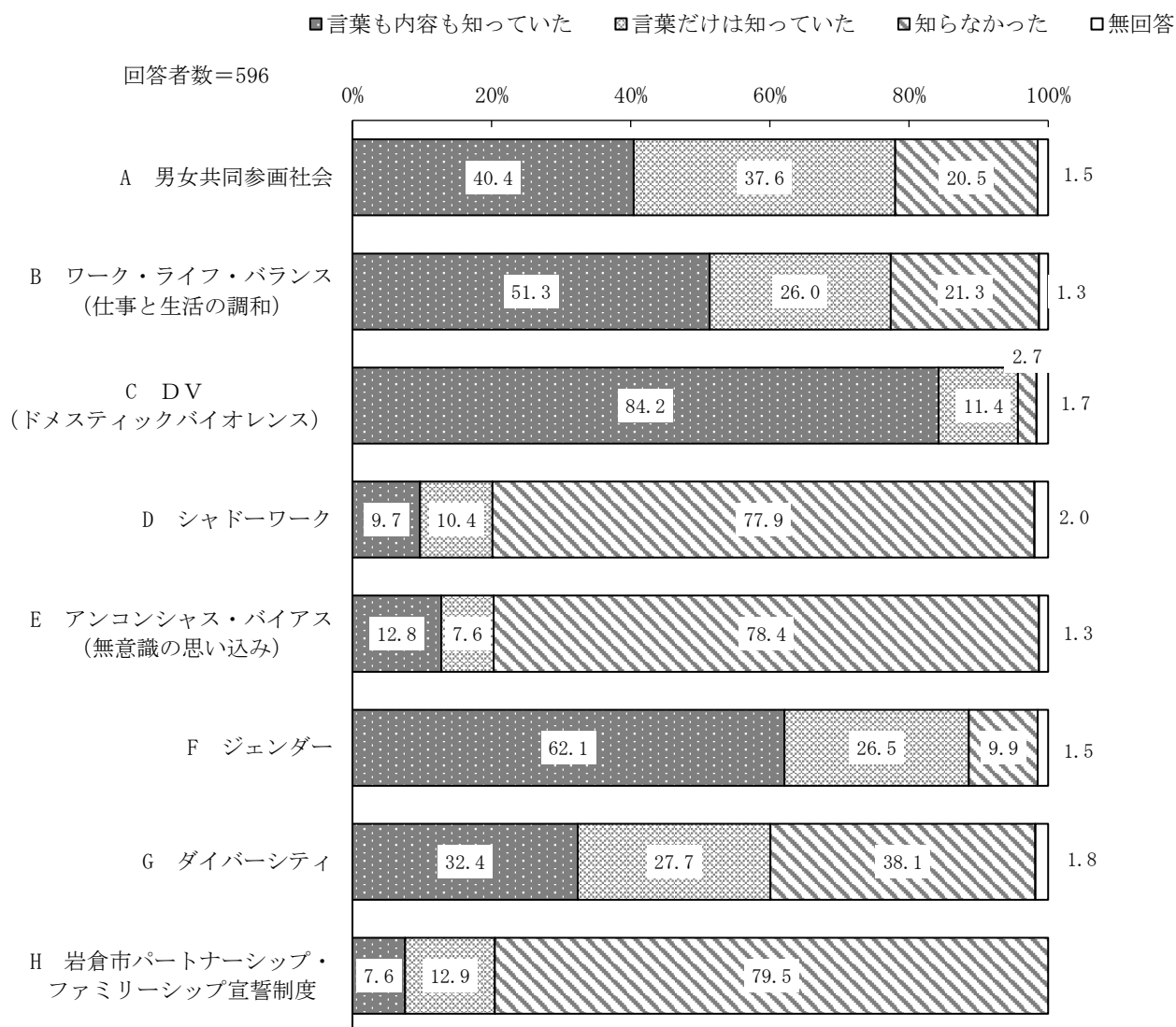
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30歳代、女性の10・20歳代、30歳代で「変わらず接することができる」の割合が高く、7割を超えています。



## 10 用語の認知度について

問 19 あなたは、次にあげる用語を知っていますか。  
(AからHについてそれぞれ○を1つ)

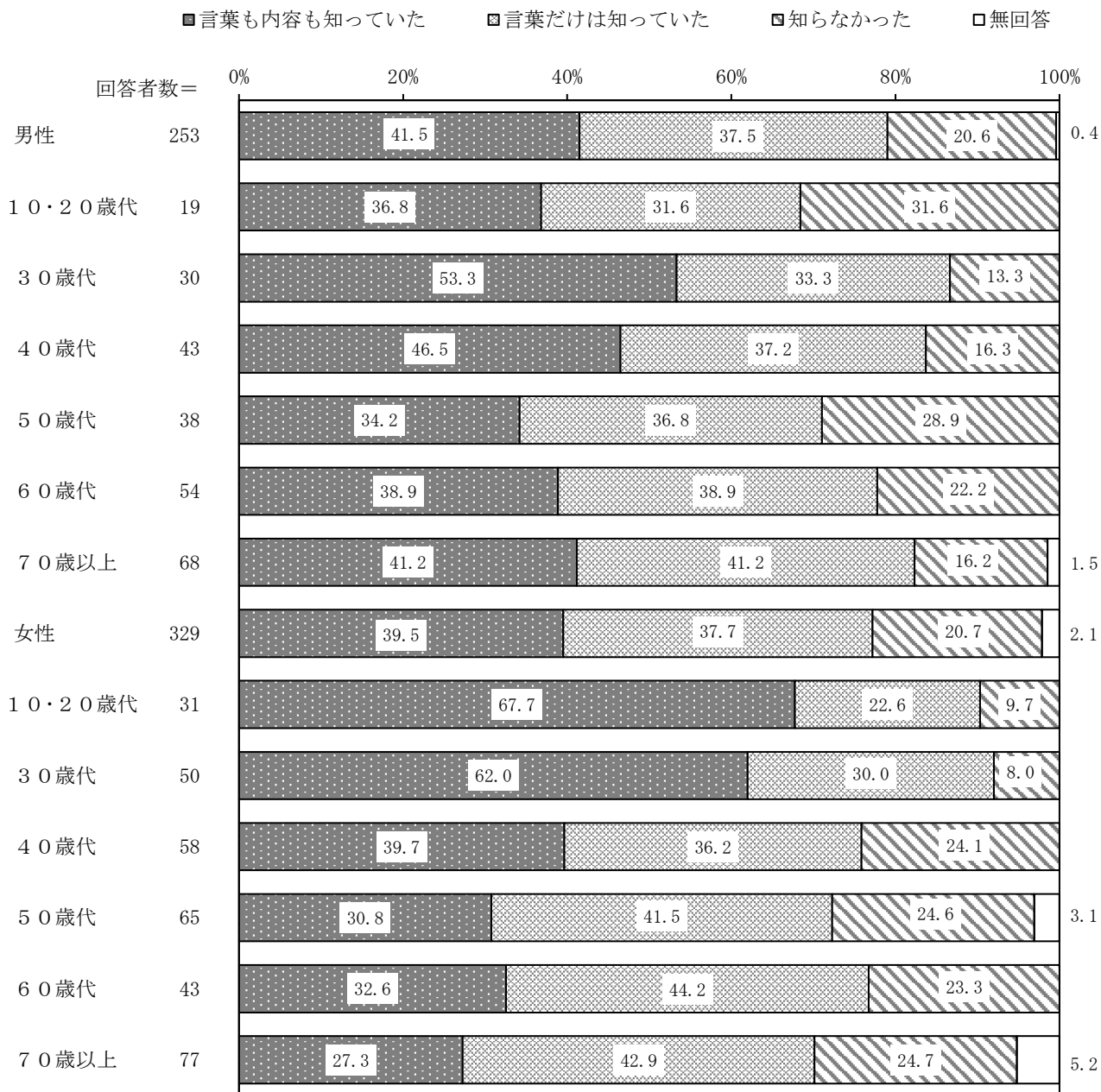
『C DV (ドメスティックバイオレンス)』で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、8割半ばとなっています。次に『F ジェンダー』で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、約6割となっています。



## A 男女共同参画社会

### 【性・年齢別】

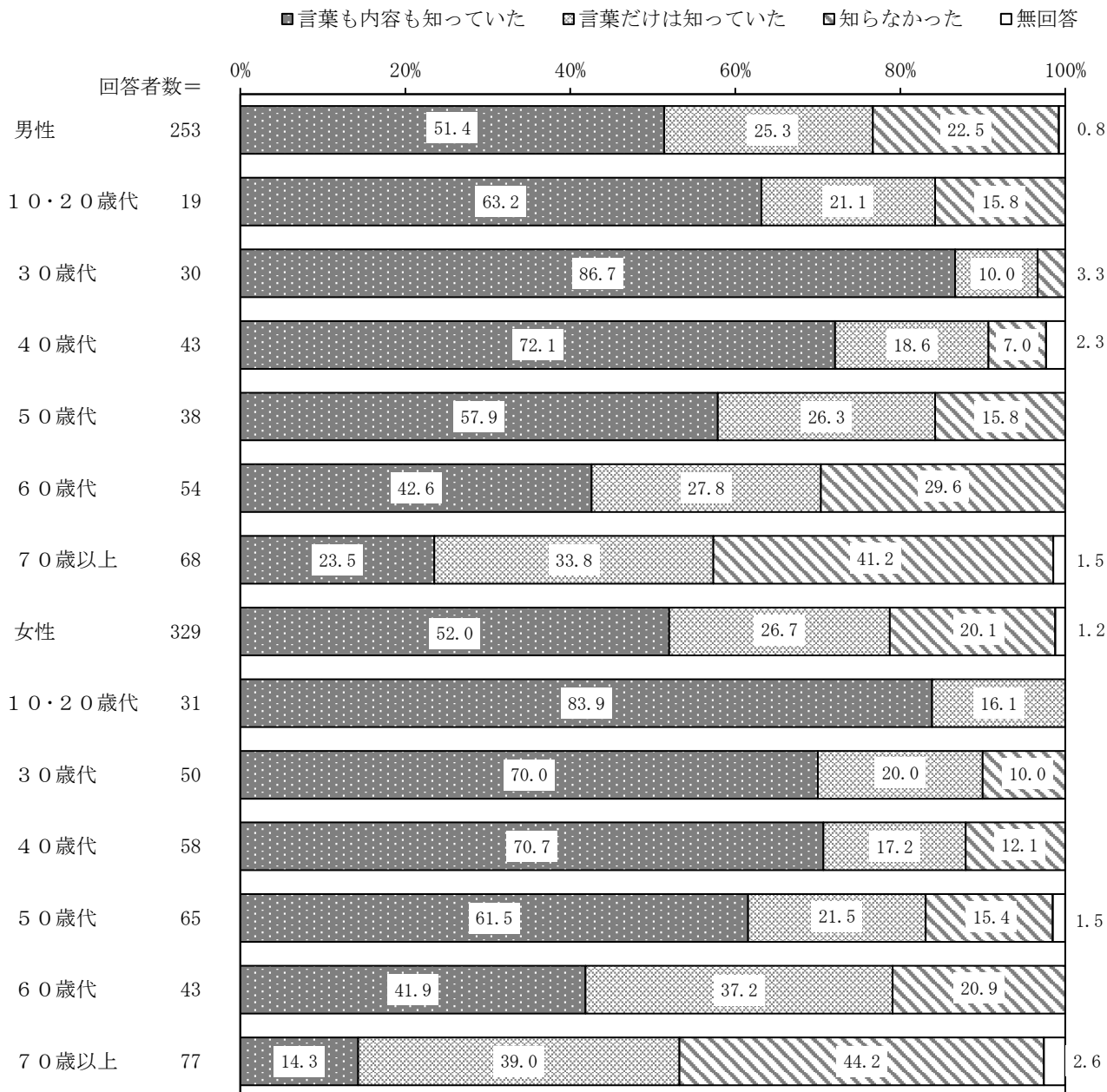
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20歳代、30歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く6割を超えています。



## B ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

### 【性・年齢別】

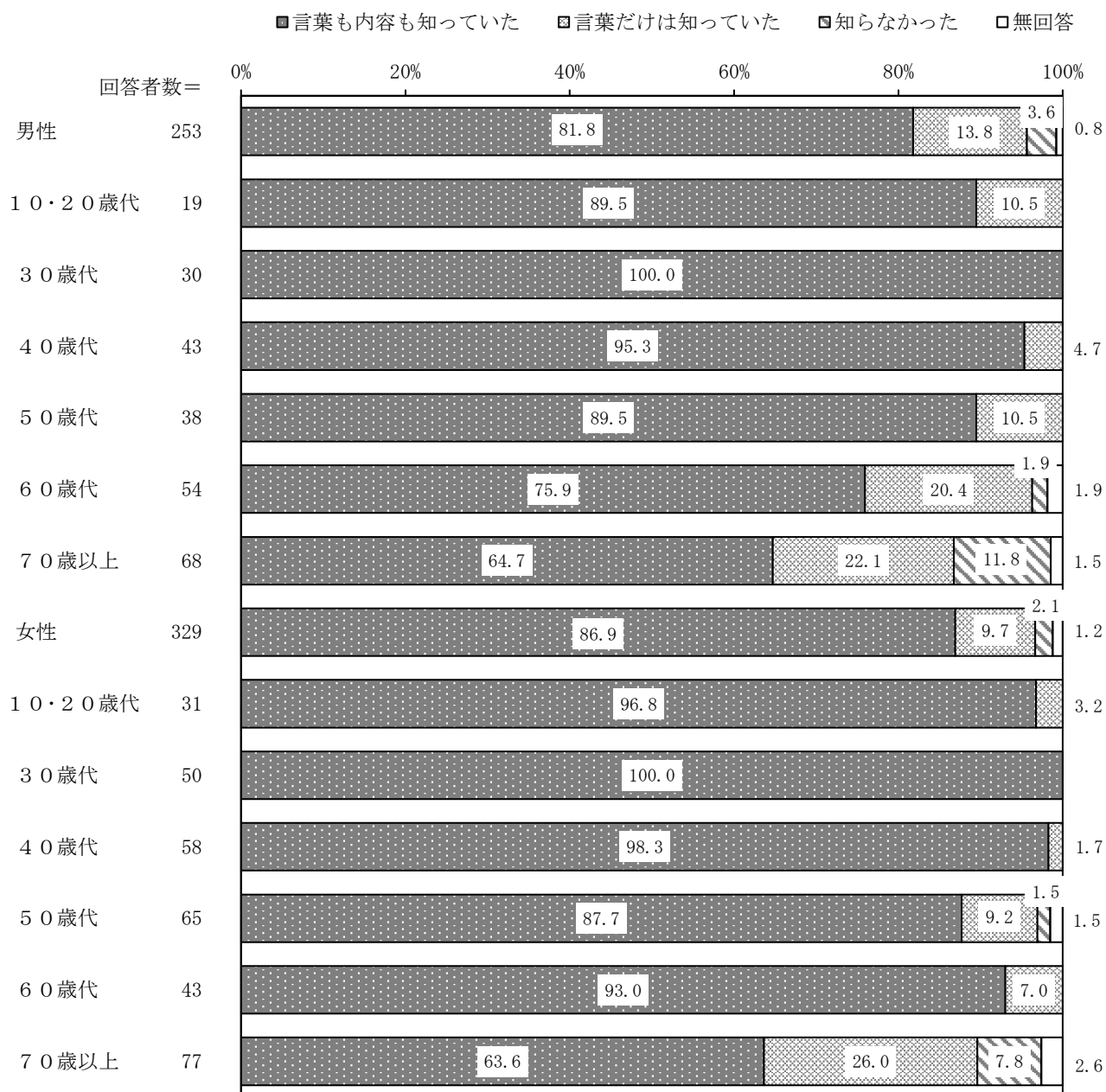
性・年齢別で見ると、男性の30歳代、女性の10・20歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、8割を超えています。



## C DV（ドメスティックバイオレンス）

### 【性・年齢別】

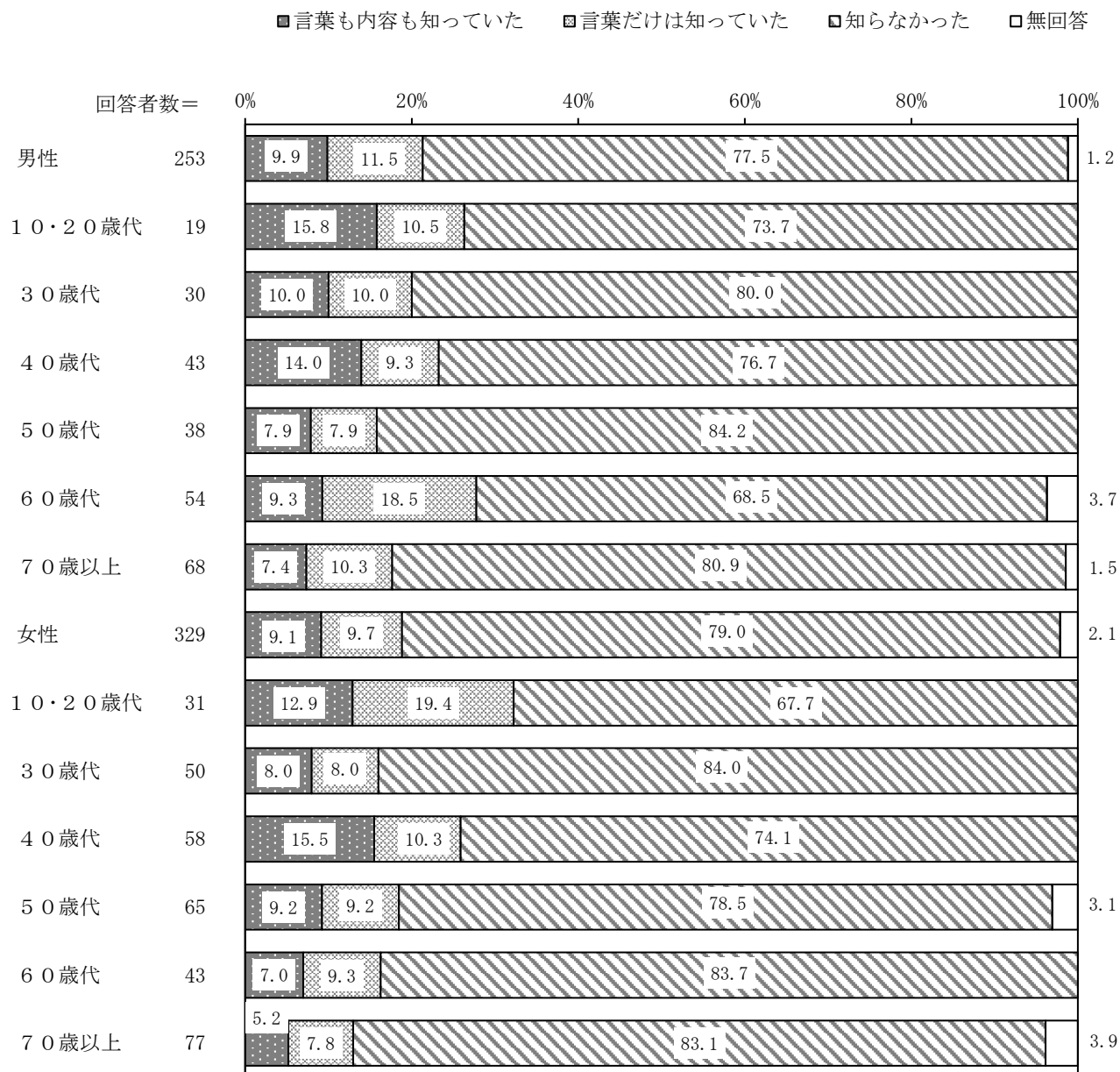
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性及び女性の30歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、100%となっています。



## D シャドーワーク

### 【性・年齢別】

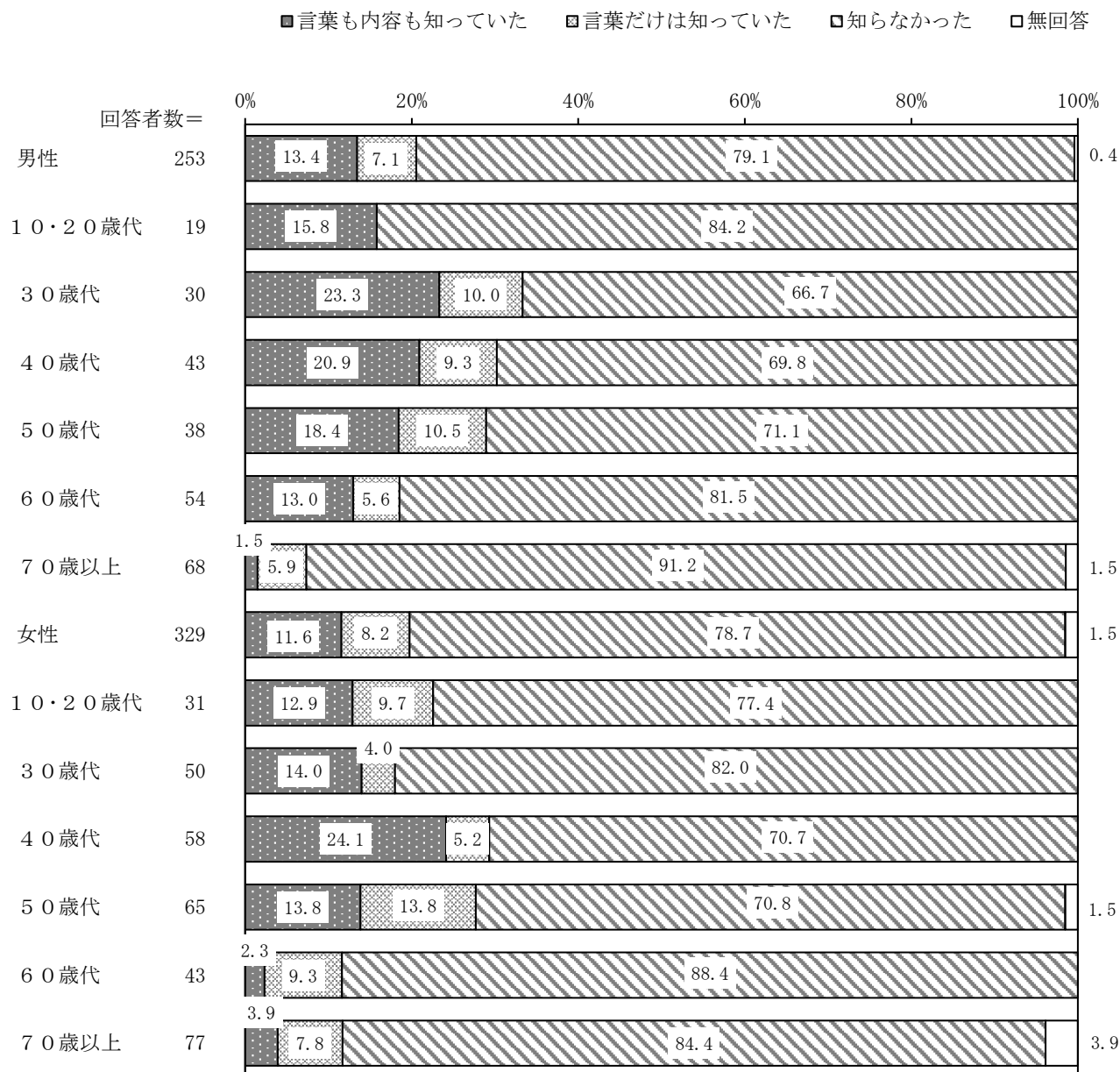
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性及び女性の10・20歳代、40歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、1割半ばとなっています。



## E アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）

### 【性・年齢別】

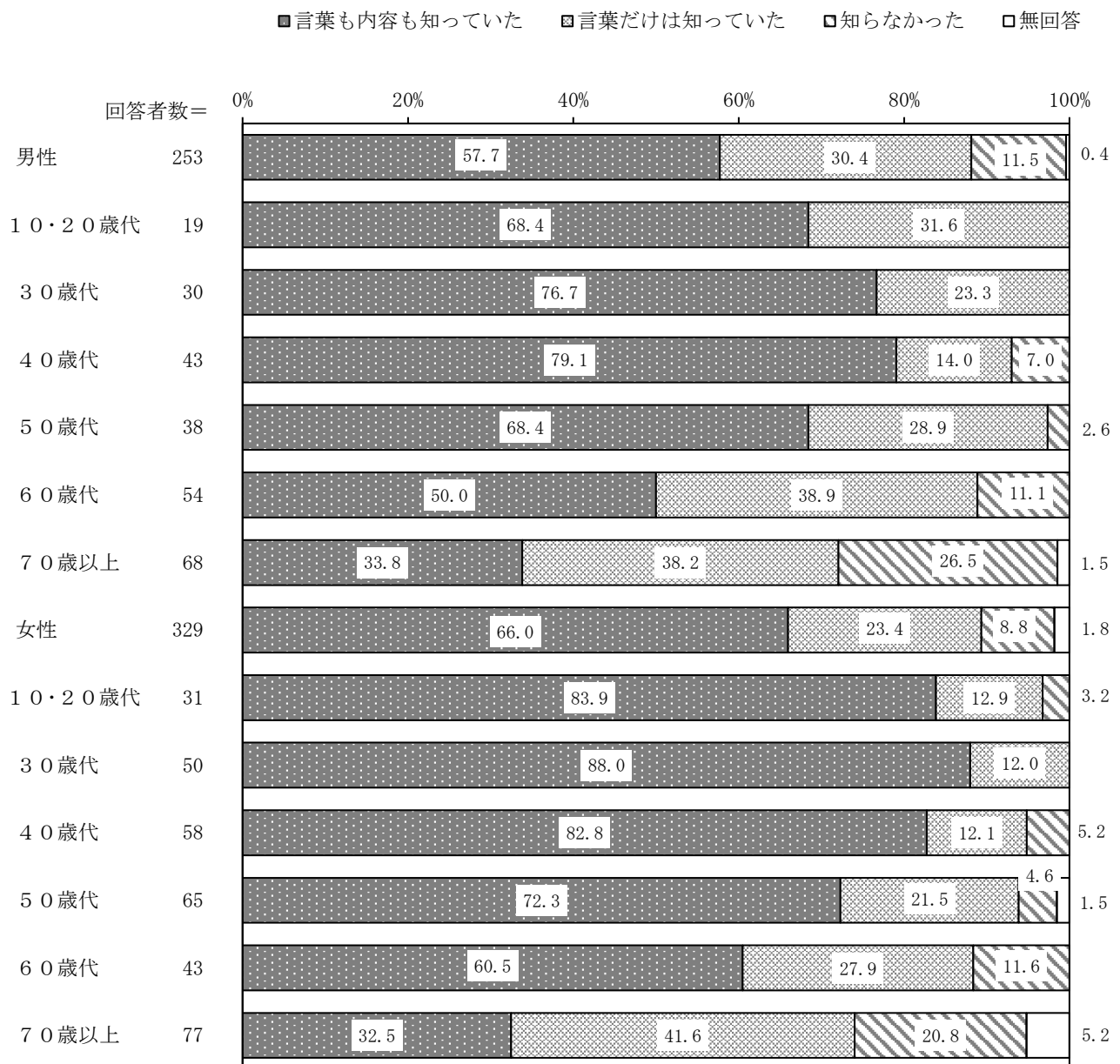
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30歳代、40歳代、女性の40歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、2割を超えています。



## F ジェンダー

### 【性・年齢別】

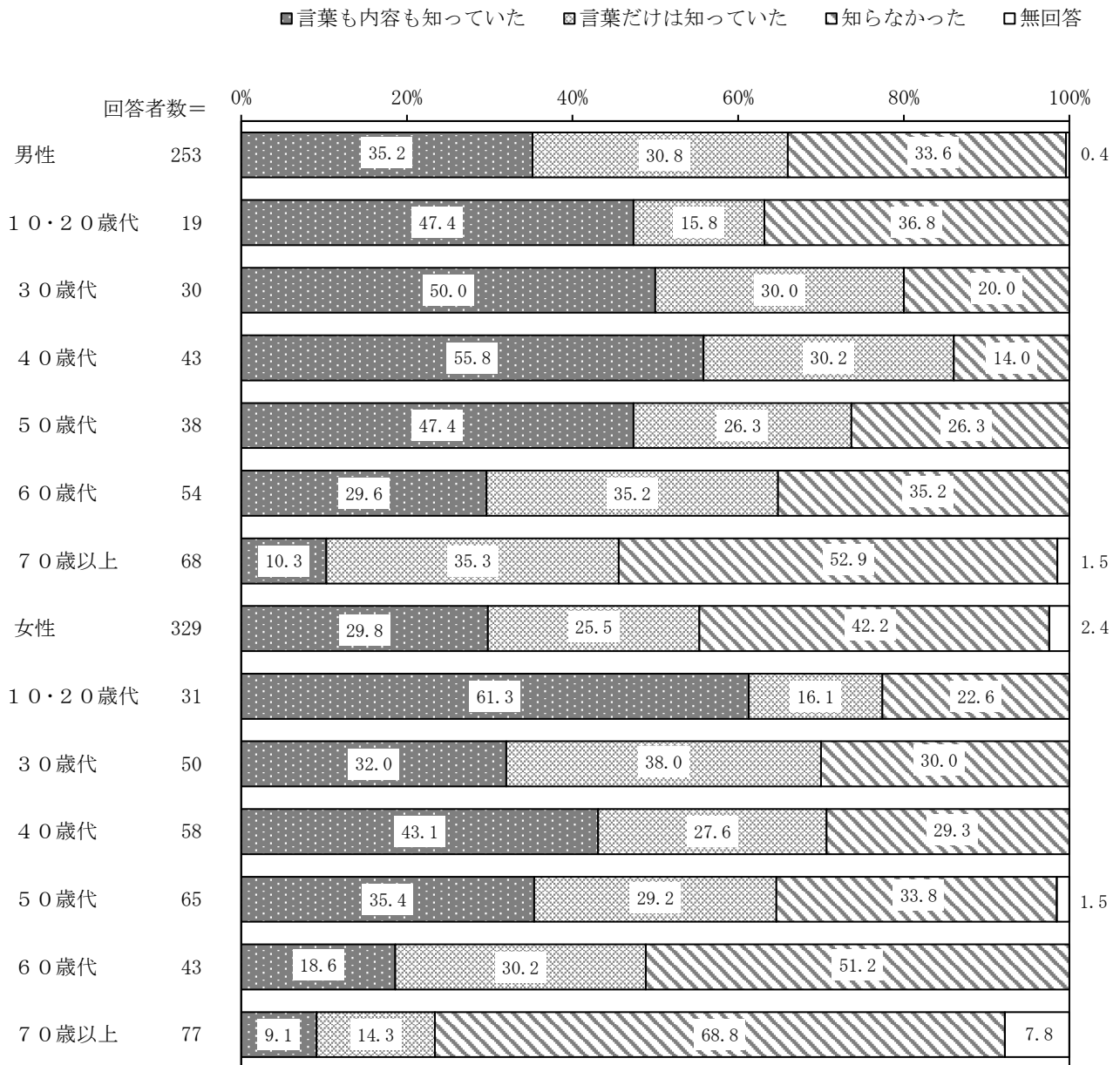
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、約9割となっています。



## G ダイバーシティ

### 【性・年齢別】

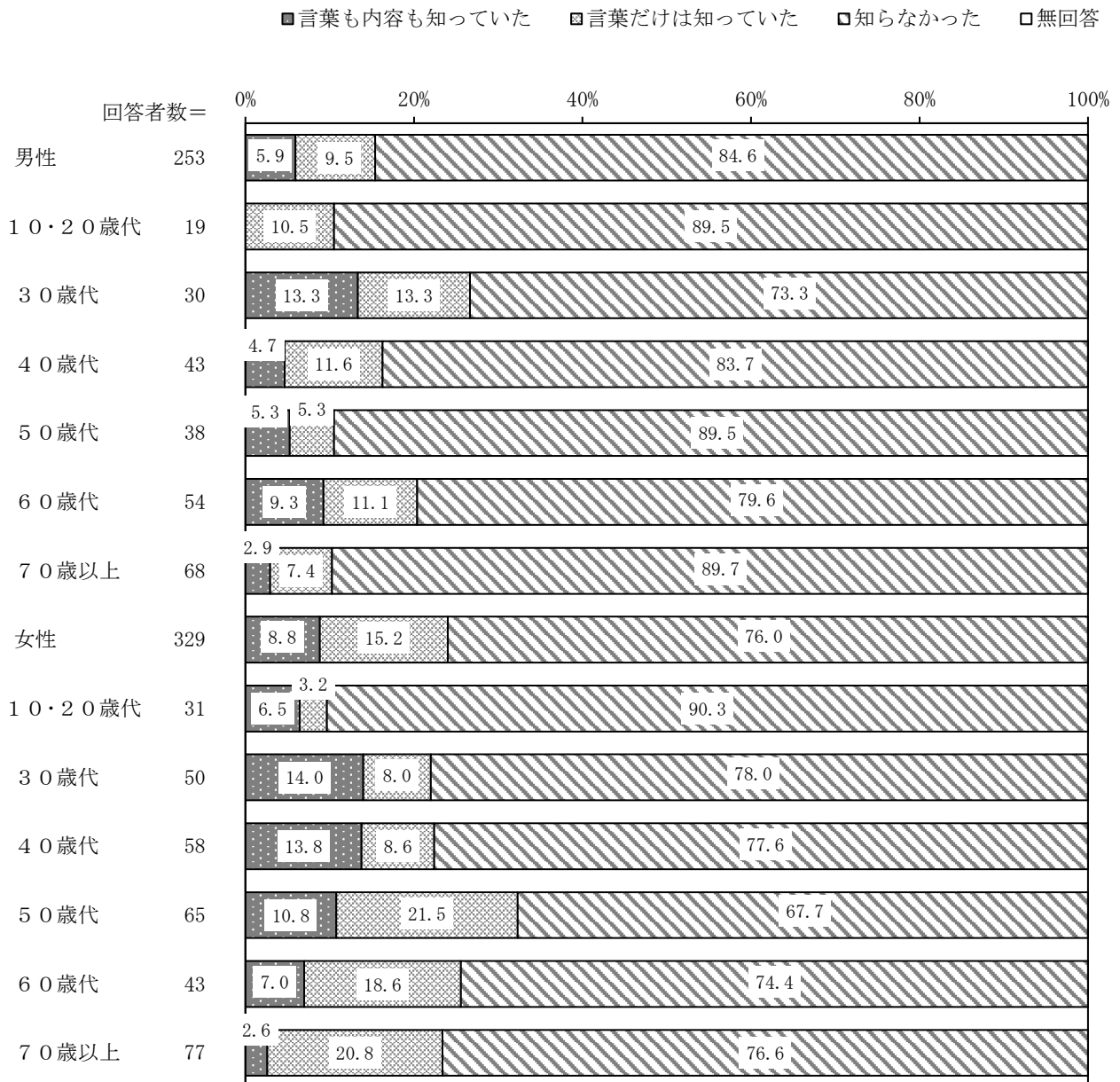
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、約6割となっています。



## H 岩倉市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

### 【性・年齢別】

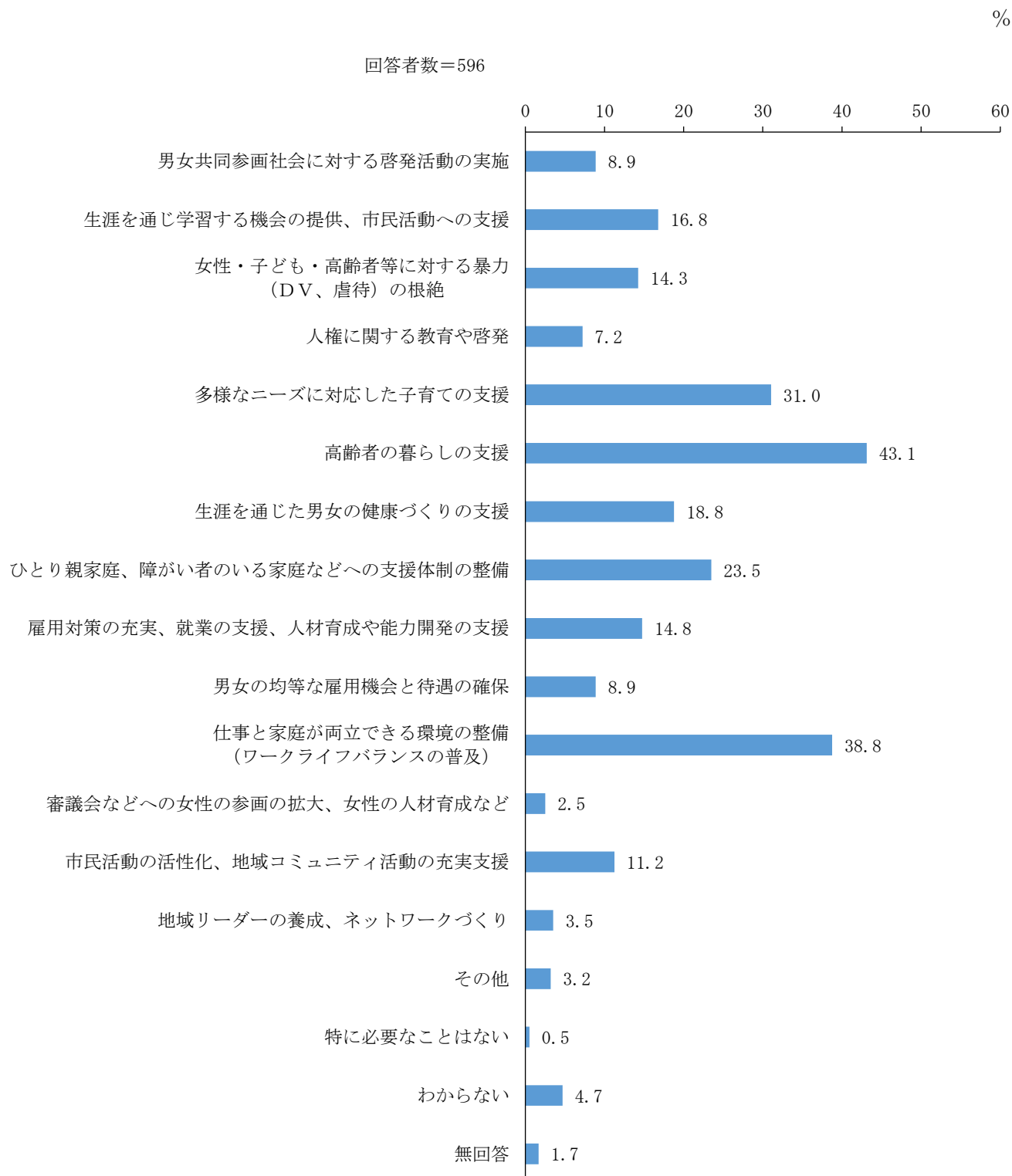
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30歳代、女性の30歳代、40歳代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、1割半ばとなっています。



## 11 今後の市の施策について

問 20 あなたは、今後岩倉市がどのような分野の施策に力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「高齢者の暮らしの支援」の割合が43.1%と最も高く、次いで「仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）」の割合が38.8%、「多様なニーズに対応した子育ての支援」の割合が31.0%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性女性ともに30歳代で「仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）」の割合が高く、6割を超えています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	男女共同参画社会に対する啓発活動の実施	生涯を通じ学習する機会の提供、市民活動への支援	根絶 女性・子ども・高齢者等に対する暴力（DV、虐待）の根絶	人権に関する教育や啓発	多様なニーズに対応した子育ての支援	高齢者の暮らしの支援	生涯を通じた男女の健康づくりの支援	ひとり親家庭、障がい者のいる家庭などへの支援体制の整備	雇用対策の充実、就業の支援、人材育成や能力開発の支援
男性 10・20 歳代	19	10.5	10.5	26.3	5.3	57.9	26.3	10.5	36.8	26.3
30 歳代	30	10.0	10.0	16.7	0.0	53.3	10.0	23.3	16.7	6.7
40 歳代	43	9.3	16.3	16.3	2.3	37.2	30.2	18.6	25.6	20.9
50 歳代	38	10.5	13.2	7.9	7.9	31.6	55.3	15.8	26.3	18.4
60 歳代	54	13.0	22.2	11.1	5.6	20.4	57.4	16.7	18.5	16.7
70 歳以上	68	16.2	20.6	13.2	5.9	19.1	52.9	22.1	35.3	11.8
女性 10・20 歳代	31	3.2	3.2	12.9	6.5	38.7	16.1	12.9	32.3	12.9
30 歳代	50	6.0	10.0	6.0	2.0	52.0	14.0	16.0	12.0	14.0
40 歳代	58	6.9	15.5	13.8	10.3	44.8	31.0	13.8	32.8	19.0
50 歳代	65	7.7	26.2	13.8	12.3	30.8	49.2	20.0	10.8	12.3
60 歳代	43	9.3	18.6	18.6	11.6	18.6	67.4	16.3	11.6	16.3
70 歳以上	77	3.9	18.2	15.6	10.4	13.0	59.7	29.9	24.7	10.4

区分	男女の均等な雇用機会と待遇の確保	仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）	審議会などへの女性の参画の拡大、女性の人材育成など	支援 市民活動の活性化、地域コミュニティ活動の充実	地域リーダーの養成、ネットワークづくり	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
男性 10・20 歳代	5.3	31.6	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0
30 歳代	3.3	60.0	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0
40 歳代	4.7	46.5	0.0	9.3	7.0	7.0	2.3	7.0	0.0
50 歳代	5.3	36.8	0.0	5.3	7.9	0.0	0.0	2.6	2.6
60 歳代	11.1	25.9	5.6	14.8	5.6	1.9	1.9	7.4	0.0
70 歳以上	2.9	26.5	5.9	16.2	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9
女性 10・20 歳代	16.1	58.1	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0	12.9	0.0
30 歳代	20.0	72.0	4.0	20.0	2.0	2.0	0.0	6.0	0.0
40 歳代	12.1	48.3	3.4	3.4	1.7	3.4	0.0	3.4	1.7
50 歳代	7.7	38.5	0.0	9.2	1.5	6.2	0.0	3.1	3.1
60 歳代	11.6	27.9	2.3	11.6	2.3	2.3	0.0	2.3	0.0
70 歳以上	9.1	27.3	2.6	14.3	1.3	1.3	1.3	3.9	3.9

## 12 自由意見

寄せられた意見は大別し、その意見の要旨を例示しました。

### 問 21 子育てや介護がしやすくなるにはどうしたらよいと思いますか。

- ・行政が経済的な支援を行う。(補助金。利用料の負担軽減。税金の負担軽減。)
- ・市の子育てや介護に係る予算を増やす。
- ・市で子育てや介護の実情の把握を行う。
- ・市が子育てや介護に特化したプロを育てる。
- ・夫婦や家族で話し合い協力する。
- ・親と子、介護する側とされる側でよく話し合う。
- ・地域との交流、地域での助け合い。
- ・職場の理解と育児休暇・介護休暇の取得しやすい環境の促進。
- ・夫婦のあり方についての意識改革を進める。(子どもの頃から体験を交えながら。)
- ・性別に関係なく子育て・介護に参加する。
- ・子育て支援施設の拡充(保育・学童施設の増設。緊急時の利用。受け入れ人数の拡大。屋内外の遊べる施設。)
- ・待機になることなく保育園への入所ができる環境。
- ・子育てや介護について気軽に相談できる窓口。
- ・子育てや介護をしている人が気軽に参加できるサロン、コミュニティの場づくり。
- ・介護の支援の拡充。(介護施設の増設。ヤングケアラー家庭への支援。支援条件の緩和。認知症の方へ GPS ペンダント等を付与。)
- ・介護職員の賃上げや働く環境の改善により従事者を確保する。
- ・移動手段の支援の拡充。
- ・駅前の発展や安全性の強化。
- ・必要としている人へ必要な情報が届くよう様々な手段で情報発信されること。(介護のパンフレットを作成。必要な経費について知る。)
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進。(在宅勤務・フレックスタイム制・時短勤務・時差出勤など柔軟な働き方の推進。)
- ・賃上げや非正規雇用の廃止。
- ・働きたい時に就労できる制度。
- ・安定した収入の確保。
- ・多様なニーズに対応した支援の実施。(経験者による企画。)
- ・手続きや予約など利用者の負担が少ない制度。
- ・若いころから健康を意識した生活をする。
- ・少子化の原因の分析と改善。人口増市町の施策を参考にする。
- ・個性を尊重し、受け入れられる社会になること。

問 22 仕事と生活のバランスがとれた働き方をするにはどうしたらよいと思いますか。

- ・行政が経済的な支援を行う。(補助金。税金の負担軽減)
- ・賃金引上げ。
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進。(職場内意識の向上。在宅勤務・時短勤務・フレックス制など制度の充実。制度を利用しやすい職場環境。長時間労働を無くす。住居に近い職場への配属。週休三日制の導入。)
- ・働き方を選択できる様々な求人があること。
- ・会社内の意識改革を進める。(話し合いを大切にする。男性の育児休業取得推進。効率重視や人件費削減をやめる。)
- ・会社内の仕事を適正化する。(適正な人員の配置。労働者を守るハラスメント対策の制度。人材育成。休暇を取得しやすい環境。管理職による残業時間の管理。省ける仕事を思い切って無くす。デジタル目安箱制度を作る。生産性の向上。)
- ・働き方に関する講座を開催し、働き方に役立てる。
- ・行政による会社への支援、指導をする。
- ・子どもや高齢者を預ける施設の拡充。(施設の増設。緊急時の利用。)
- ・保育士の賃上げにより従事者を確保する。
- ・気軽に相談できる窓口を設置する。
- ・子育て家庭の交流の場を作る。
- ・支援制度を充実させる。
- ・家族間で話し合い、理解を深め協力する。
- ・地域で交流し、助け合う。
- ・自己管理をする。(タイムスケジュールの管理。自己選択。)
- ・心身が健康であること。
- ・生きがいを持つ。(仕事・趣味)
- ・足るを知る。
- ・移動手段を発達させる。
- ・個性が尊重され、認められる社会になること。
- ・祝日を増やす。

問 23 地域や社会で女性が活躍するにはどうしたらよいと思いますか。

- ・子どもを預ける施設を増やす。
- ・社会全体の意識改革
- ・家庭内で話し合い、協力する。
- ・家事の負担を無くす工夫。(家事代行)
- ・男性が家事や子育てに参加する仕組みを整える。
- ・参加しやすいようハードルを下げる。
- ・地域でサポートできる体制
- ・両親共働きの場合、祖父母による子育てのサポート。
- ・家庭に入るか仕事をするかどちらも女性が選べる社会。
- ・女性の意見を大切にする。
- ・女性の管理職・役員を増やす。
- ・女性が役職に就くメリットを増やす。
- ・議員の数を男女同数にする。
- ・役員などを体験できる機会を作る。
- ・活躍するためのステップを明確にする。
- ・現在活躍している人の話を聞く。
- ・柔軟な勤務体制（在宅勤務・フレックスタイム制を導入する。休暇を取りやすい環境。長時間労働を見直す。）
- ・出産や子育てで休職・退職しても職場復帰しやすい環境や支援。
- ・男女同一賃金・待遇。
- ・男女が平等に家庭や社会についての教育を受ける。
- ・親になる世代へ男女平等に関する啓発をする。
- ・性別による役割分担意識のリセット。
- ・生物学的性差への理解度を上げる。
- ・時間に余裕を持つ。
- ・信仰心と倫理観を大切にする教育。
- ・一歩踏み出す勇氣。
- ・興味のあることを見つけ、学習・実践する。
- ・夜間でも安心して移動できる治安のよい環境。
- ・すでに女性が頑張っていると思う。
- ・みんなが活躍したいと思っているわけではない。
- ・思いがある人が活動を起こすべきで、活躍を促すことに性別を理由にするべきではない。

問 24 男女がともに地域社会活動（自分が住む地域やコミュニティの発展や活性化に役立つ活動をする）に積極的に参加するようになるにはどうしたらよいと思いますか。

- ・魅力のある地域にする。
- ・地域への愛着を深める。
- ・幼い頃から地域社会活動に参加する機会をつくる。
- ・活動を分かりやすく周知する。（SNS やアプリを使って。市の広報で特集。）
- ・活動の目的や目標を明確にする。
- ・柔軟に参加できる環境にする。（負担にならないこと。ネットの活用。働いていても参加できる条件で行う。）
- ・慣習にとらわれず、楽しい活動にする。
- ・多様な参加機会を設ける。（若い人や新しく引っ越して来た人も参加しやすく。）
- ・自分も地域社会の一員であり、支えられているという意識を持つ。
- ・参加者への特典を用意する。
- ・地域通貨やポイント制度で人を動かす。
- ・活動の対価として報酬を支払ったり、粗品や飲み物を渡したりして感謝を伝える。
- ・事業所が地域社会活動に参加する。（会社内の評価ややる気につながる可能性も。）
- ・柔軟な働き方ができること。（週休三日制。休暇の取りやすい職場環境を整える。）
- ・市内の事業所の労働環境を良くする。
- ・意見が言いやすい環境にする。
- ・家族の理解と協力。
- ・男女平等の意識改革を進める。（女性の役割分担意識の改善。）
- ・男女がお互いを認め合い、協力する社会になること。
- ・議員の数を男女同数にする。
- ・行政が地域の求めることについて意見聞く。
- ・市役所が中心になって市民に強くアピールする。
- ・子育て支援・介護の支援を充実させる。
- ・企業誘致をする。
- ・金銭的・時間的な余裕があること。
- ・心身が健康であること。
- ・参加を義務化する。
- ・すでに女性が頑張っていると思う。

問 25 身近な人（配偶者（パートナー）、子ども、親、交際相手など）への暴力をなくすにはどうしたらよいと思いますか。

- ・相談できる施設や窓口を身近に増やす。（子どもも相談できる窓口。）
- ・被害者を守り、支援する体制の強化。（すぐに逃げ込める施設。）
- ・暴力をする人を隔離できる制度を作る。
- ・該当家族への定期的な訪問。
- ・警察のパトロール強化。
- ・刑罰を強化することや警察等が介入できる権限を拡大する。
- ・加害者の加害行動を止めるプログラム・カウンセリングを導入する。
- ・幼い頃からの教育（道徳教育。怒りへの接し方を学ぶ。自己肯定感を高める。お互いを尊重する意識を持つ。）
- ・学校で暴力を受けることがあったら大人に言うように教える。
- ・暴力に関する情報や知識を深め、対策する。（パンフレットを全戸配布する）
- ・暴力が悪いことであることを自覚させる。
- ・暴力は許さないというメッセージを発信し続ける。
- ・周りがためらわず通報・連絡する勇気を持つ。
- ・異変に気づいたら周りがフォローする。
- ・孤立させないようにする。人と交流する機会を増やす。
- ・三世代家族で住む。
- ・怒りを人にぶつけないでもいいような心の余裕を持つ。
- ・ストレスを解消できる場を見つける。
- ・経済的な余裕があること。
- ・貧困をなくす。
- ・様々な差が怒りを生むので、差を埋める。
- ・社会全体の意識改革をする。
- ・お互いに思いやりを持つ。
- ・感謝の言葉を伝えるようにする。
- ・よく話し合いをする。

問 26 性別、年齢、国籍に関わらず、お互いを認め合える社会にするにはどうしたらよいと思いますか。

- ・お互い助け合う、尊重する精神を持つ。
- ・思いやりを持つ。
- ・話し合う。
- ・交流する機会を設ける。(公共施設のイベント。地域の集まりの中で。)
- ・相手を知ろうとする、ともに学ぶ。
- ・幼い頃からの教育(道徳教育。偏見・差別をなくす。多様性を学ぶ。)
- ・多様な働き方を推進する。
- ・賃金を上げ、生活を安定させる。
- ・人権に関するセミナーを開催する。
- ・啓発活動を継続する。
- ・外国人に地域社会活動に参加してもらう。
- ・外国人の方へ日本のルール・法律を知る為のセミナーを開催する。
- ・日本語教育の機会を設ける。
- ・法律や制度を整備する。
- ・時代遅れなしきたりを無くす。
- ・外国人を増やしすぎないようにする。
- ・文化の違いがあり難しい。
- ・全員が良い人ではないので難しい。
- ・罪を犯した場合はきちんと償ってもらい、強制送還する。
- ・プライバシーの保護が言われるようになり、地域の人とも疎遠になってしまっている。